

言語聴覚科 (1年次)

2026年度 シラバス目次

科目名	項
医学概論	3
解剖学	6
生理学	9
病態薬理学	13
内科学(救急救命・医療画像診断)	15
精神医学	17
耳鼻咽喉科学	19
臨床神経学Ⅰ(医療画像診断)	21
形成外科学	23
臨床歯科医学	25
呼吸発声発語系医学	28
聴覚系医学	30
神経系医学	32
リハビリテーション学	36
臨床心理学	39
生涯発達心理学	42
学習・認知心理学	45
心理測定学	48
言語学	51
音声学	54

科目名	項
音響学	58
聴覚心理学	61
言語発達学	64
コミュニケーション学	68
医療福祉教育・関係法規	70
言語聴覚障害概論	72
言語聴覚障害診断学Ⅰ(小児)	76
言語聴覚療法管理学	79
失語症Ⅰ(基礎理論・訓練理論)	82
失語症Ⅱ(検査)	85
高次脳機能障害Ⅰ(基礎理論・検査)	89
言語発達障害Ⅰ(概論・評価・支援指導)	92
言語発達障害Ⅱ(各論・評価・実習)	95
言語発達障害Ⅲ(ID・SLI・ASD・LD)	99
言語発達障害Ⅳ(CP・重心)	102
音声障害	106
構音障害Ⅰ(運動障害性基礎理論)	109
構音障害Ⅱ(運動障害性総合・演習)	112
嚥下障害Ⅰ(基礎理論)	115
吃音	119

学科・年次	言語聴覚科 1学年	
科目名	医学概論	
担当者	大石 久史	
単位数（時間数）	1 単位（15 時間）	
学習方法	講義・演習	
教科書・参考書	教科書 言語聴覚士テキスト第3版 大森孝一ほか (編) 医歯薬出版株式会社	参考書 学生のための医学概論第3版 千代 豪昭 (著) 医学書院

授業概要と目的
<p>授業概要</p> <p>臨床に携わる医師が、非常勤講師として、「医の倫理」や「医療安全」等の医療人として身につけておくべき基本的内容を指導する。</p> <p>授業目的</p> <p>我が国における医療の現状や今後の見通しを理解し、将来、医療人として社会貢献を行うために必要な自覚と決意を身に付ける。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「健康・疾病・障害と社会環境」 健康や疾病、障害に対する様々な価値を身につけ、社会環境との関わりを理解する。	「健康に関わる諸因子」 (1) 健康の定義を説明することができる。 (2) ICF について説明することができる。 (3) QOL について説明することができる。 (4) インクルージョン、ノーマライゼーションについて説明することができる。	大石 久史
2	前期	「医の倫理」 歴史、思想的変遷を理解し、現代における「医の倫理」の中心的課題を考察する。	「医の倫理に関する基本的事項」 (1) 「ヒポクラテスの誓い」から「リスボン宣言」までの変遷を説明することができる。 (2) パターナリズム、インフォームド・コンセントについて説明することができる。 (3) 医療人として必要な守秘義務を理解	大石 久史

			し、実践することができる。	
3	前期	「医療行為」 現在、医療の主流となっているチーム医療や他職種連携の意義を修得し、医療安全、臨床研究、EBM に対する基本的考え方を理解する。	「医療行為に関する基本的事項」 (1) 診療補助行為について説明することができる。 (2) チーム医療について、その背景と言語聴覚士の位置づけを説明することができる。 (3) 我が国が置かれている地域医療の現状を理解し、今後の見通しを説明することができる。 (4) 医療安全におけるリスクの評価とその予防法を説明することができる。 (5) 臨床研究、EBM について、その概要を説明することができる。	大石 久史
4	前期	「人口・保険統計および疫学」 人口や保健に関わる最新の統計を使用して、我が国の現状を理解する。また、既存の資料を元に、各種データの処理や解析方法について、その基礎を習得する。	「各種統計、疫学の基本的事項」 (1) 人口に関わる様々な統計を理解し、今後の見通しを説明することができる。 (2) 疾病や障害に関わる様々な統計を理解し、今後の見通しを説明することができる。 (3) 疫学の基本的な考え方を理解し、適切な疫学指標、手法、データ解析等を選択することができる。	大石 久史
5	前期	「健康管理、予防医学」 健康管理、予防医学の重要性を理解し、生活習慣と疾患の関連について認識を深める。	「健康管理、予防医学の基本的事項」 (1) 我が国における健康管理体制の現状と動向について説明することができる。 (2) 健康診断・診査の具体的内容について説明することができる。 (3) 生活習慣と疾患の関連について説明することができる。	大石 久史
6	前期	「母子保健、成人・老人保健、精神保険」 人々の健康や生活に関わる日本の保健行政の成り立ちと仕組みの概要を理解する。	「各種保健制度の基本的事項」 (1) 各種保健の概念や意義、基本的内容、関係法規について説明することができる。 (2) 各種保健の現状と動向について説明することができる。	大石 久史

			(2) 各種保健上の問題点について意見を述べることができる。	
7	前期	「感染症対策および環境保健」 感染症をめぐる一般的な状況を理解する一方、特に院内における感染症対策について理解を深める。また、健康の維持には、個人や集団を取り巻くさまざまな環境が重要な役割を果たすことを習得する。	「感染症対策および環境保健の基本的事項」 (1) 感染症予防、特に標準予防策について、その意義と具体的方法を説明することができる。 (2) 院内感染、特に日和見感染について説明することができる。 (3) 環境の健康に与える影響について説明することができる。 (4) 化学的、生物学的な環境要因による健康被害について具体例をあげることができる。 (5) 医薬品などによる健康被害について具体例をあげることができる。	大石 久史
8	前期	「学科試験、まとめ」	「学科試験、まとめ」	大石 久史
成績評価方法	学科試験 100%で評価する。60%は国家試験に準じた選択式、択一式ほか、40%は記述式で、必要な語が含まれない場合に減点される。			
準備学習など	特になし			
留意事項	特になし			

学科・年次	言語聴覚科 1学年	
科目名	解剖学	
担当者	白木 豊	
単位数（時間数）	2単位（50時間）	
学習方法	講義	
教科書・参考書	教科書 入門人体解剖学 藤田恒夫 南江堂	参考書

授業概要と目的
<p>< 授業概要 ></p> <p>言語聴覚士として必要な人体の肉眼的、組織学的構造の基本を理解する。</p> <p>言語聴覚士にとって、特に必要となる頭頸部の解剖は詳述するが、全身(運動器系、呼吸器系、循環器系、消化器系、泌尿器系、内分泌器系、生殖器系、神経系、感覚器系など)についても、できる限り説明したいと考えている。</p> <p>< 目的 ></p> <p>身体の構造を把握することで、臨床医学を理解するための基礎をつくる。</p> <p>歯科医師として臨床経験のある講師がその経験を活かし授業を行う</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1、2	前期	「解剖学総論」 系統解剖学総論、組織学概論、 体表解剖学および方向用語につ いて理解する	「解剖学の基礎知識」 ・身体を形成する細胞の構成、組織につ いて概要を述べることができる ・体表からみた身体の区分、方向用語につ いて説明できる	白木 豊
3、4	前期	「骨格系 1」 骨格系総論について理解する	「骨の組織、形態について」 ・骨組織について説明できる ・軟骨の種類について説明できる ・関節の種類と機能について説明できる	白木 豊
5、6	前期	「骨格系 2」 頭蓋骨について理解する	「頭蓋骨について」 ・頭蓋骨の種類、個数について概要を述 べることができる ・脳頭蓋と顔面頭蓋の差異を説明できる ・前、中、後頭蓋窩の孔を説明できる	白木 豊
7、8	前期	「骨格系 3」 脊柱、胸郭について理解する	「脊柱、胸郭について」 ・椎骨の種類、個数について説明できる ・胸郭の構成について説明できる	白木 豊

9、10	前期	「骨格系4」 上肢帯、上肢の骨、下肢帯、下肢の骨について理解する	「上、下肢の骨について」 ・上肢帯について説明できる ・上肢の骨の構成と運動を説明できる ・下肢帯について説明できる ・下肢の骨の構成と運動を説明できる	白木 豊
11、12	前期	「骨格筋1」 筋系総論、頭頸部の筋、胸腹部の筋について理解する	「骨格筋について」 ・筋の構造について説明できる ・頭頸部の筋について説明できる ・胸腹部の筋について概説ができる	白木 豊
13、14	前期	「骨格筋2」 上肢の筋、下肢の筋について理解する	「上、下肢の筋群について」 ・上肢の筋の構造、機能を概説できる ・下肢の筋の構造、機能を概説できる	白木 豊
15、16	前期	「循環器系」 心臓の構造、脈管の構造について理解する	「循環器系について」 ・心臓の外部構造、内部構造について説明できる ・脈管構造を動脈系、静脈系に分けて概説できる	白木 豊
17、18	前期	「消化器系」 消化管の構造、消化付属器-唾液腺、肝臓、胆嚢、膵臓の構造、腹膜の構造について理解する	「消化器系について」 ・消化管の構造について概説できる ・消化腺について消化管との関連で説明できる ・腹膜について概説できる	白木 豊
19、20	前期	「呼吸器、泌尿・生殖器系」 ・気道の構造を上気道、下気道について理解する ・肺について、左右差、肺区域について理解する	「呼吸器、泌尿器について」 ・気道を概説できる ・喉頭の構造(軟骨、喉頭筋)を詳述できる ・肺の外形、構造が概説できる ・腎の構造の概説ができる ・男性器、女性器の概説ができる	白木 豊
21、22	前期	「神経系」 神経系の解剖学的分類、中枢神経系の構造、末梢神経系について理解する	「神経系について」 ・中枢神経系の概説ができる ・末梢神経系を脊髄神経、脳神経にわけ説明できる。特に脳神経は詳述できる。	白木 豊
23、24	前期	「感覚器系」 視覚器、平衡聴覚器、皮膚について理解する	「感覚器系について」 ・眼の構造を概説できる ・平衡聴覚器について概説できる。特に内耳の構造については、詳述できる	白木 豊

25	前期	「試験」	「筆記試験」	白木 豊
成績評価方法		試験による。筆記試験で60%以上の得点を合格とする。		
準備学習など		プレゼンテーションの資料を配布する。また、適宜自己学習のためのプリントを配布する。		
留意事項				

学科・年次	言語聴覚科 1年生
科目名	生理学
担当者	坪井秀夫
単位数(時間数)	1単位(30時間)
学習方法	講義・ディスカッション
教科書・参考書	カラーで学ぶ解剖生理学第2版 Kevin T. Patton Gary A. Thibodeau (訳コメディカルサポート研究会) メディカル・サイエンス・インターナショナル

授業概要と目的
臨床経験10年以上、研究者としての経験10年以上の教員が生理学を担当する。生理学は、人体の構造を深く学ぶ科目である解剖学と深くリンクし、人体の正常な機能を根本から深く学ぶ科目である。特に言語聴覚士にとっては最も重要な科目の一つとなる。講義では基本的な人体各部の正常な生理学的機能をマスターするのは勿論、それらの各機能に深く関連する多くの疾患や症例またそれに対する治療等についても解説し、臨床的にも役立つような生理学的知識の習得を目的とする。

回 (コマ)	授業 日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	通年	「生理学イントロダクション」 一般目標 ① 言語聴覚士にとっての生理学の重要性について学ぶ。 ② 言語聴覚士を目指す上で生理学を学習する意義について学ぶ。 ③ 本講義受講上の諸注意 (学習上の指針、試験等についての具体的説明) 「生理学を学ぶ上での基本知識」 一般目標 これから生理学を学習していく上でどうしても不可欠な生物学的解剖学的基本知識・常識を学ぶ。	「生理学イントロダクション」 到達目標 ① 言語聴覚士にとっての生理学の重要性を説明できる。 ② 言語聴覚士になるためにはなぜ生理学を学ばないといけないのか、その理由を説明できる。 ③ 本科目受講上の約束事や諸注意が説明できる。 「生理学を学ぶ上での基本知識」 到達目標 これから生理学を学習していく上でどうしても不可欠な生物学的解剖学的基本知識・常識が説明できる。	坪井秀夫
2	通年	「酵素の生理学」 一般目標 消化・吸収・代謝等の各種生理生命現象を理解する上で非常に重要な役割を果たしてい	「酵素の生理学」 到達目標 消化・吸収・代謝等の各種生理生命現象を理解する上で非常に重要な役割を果たしてい	坪井秀夫

		る酵素について基本知識・常識を学ぶ。	る酵素について基本知識・常識が説明できる	
3	通年	「呼吸とガス交換（総論）」 一般目標 我々の生命維持の為の最も基本的な生理現象の一つである呼吸について総論的に学ぶ。（構造、機能、胸式呼吸、腹式呼吸 等）	「呼吸とガス交換（総論）」 到達目標 我々の生命維持の為の最も基本的な生理現象の一つである呼吸について総論的に説明できる。（構造、機能、胸式呼吸、腹式呼吸 等）	坪井秀夫
4	通年	「呼吸とガス交換（各論）」 一般目標 我々の生命維持の為の最も基本的な生理現象の一つである呼吸について各論的に学ぶ。（気管支、肺胞、胸膜、%肺活量、1秒率、呼吸の神経支配、化学受容器 等）	「呼吸とガス交換（各論）」 到達目標 我々の生命維持の為の最も基本的な生理現象の一つである呼吸について各論的に説明できる。（気管支、肺胞、胸膜、%肺活量、1秒率、呼吸の神経支配、化学受容器 等）	坪井秀夫
5	通年	「消化と吸収（総論）」 一般目標 ① 我々の生命維持の為の最も基本的な生理現象の一つである飲食物の摂取及びそれに伴って消化器で行われる消化について総論的に学ぶ。 ② 飲食物の消化分解後に消化器で行われる吸収について総論的に学ぶ。	「消化と吸収①」 到達目標 ① 我々の生命維持の為の最も基本的な生理現象の一つである飲食物の摂取及びそれに伴って消化器で行われる消化について総論的に説明できる。 ② 飲食物の消化分解後に消化器で行われる吸収について総論的に説明できる。	坪井秀夫
6	通年	「消化と吸収及び排泄（各論）」 一般目標 ① 我々の生命維持の為の最も基本的な生理現象の一つである飲食物の摂取及びそれに伴って消化器で行われる消化について各論的に学ぶ。 ② 飲食物の消化分解後に消化器で行われる吸収及び排泄について各論的に学ぶ。	「消化と吸収及び排泄（各論）」 到達目標 ① 我々の生命維持の為の最も基本的な生理現象の一つである飲食物の摂取及びそれに伴って消化器で行われる消化について各論的に説明できる。 ③ 飲食物の消化分解後に消化器で行われる吸収及び排泄について各論的に説明できる。	坪井秀夫
7	通年	「内分泌ホルモン系（総論）」 一般目標 我々の生命やホメオスタシスの維持に非常に重要な役目を果たしている内分泌ホルモン系について総論的に学ぶ。	「内分泌ホルモン系（総論）」 到達目標 我々の生命やホメオスタシスの維持に非常に重要な役目を果たしている内分泌ホルモン系について総論的に説明できる。	坪井秀夫

8	通年	<p>「内分泌ホルモン系(各論)」</p> <p>一般目標</p> <p>我々の生命やホメオスタシスの維持に非常に重要な役目を果たしている内分泌ホルモン系について各論的に学ぶ。(副腎、甲状腺、上皮小体、膵臓、精巣、卵巣 等)</p>	<p>「内分泌ホルモン系(各論)」</p> <p>到達目標</p> <p>我々の生命やホメオスタシスの維持に非常に重要な役目を果たしている内分泌ホルモン系について総論的に説明できる。(副腎、甲状腺、上皮小体、膵臓、精巣、卵巣 等)</p>	坪井秀夫
9	通年	<p>「神経系の生理学(総論)」</p> <p>一般目標</p> <p>我々が生命活動を維持する上で非常に重要な神経系について下記の内容を中心に総論的に学ぶ。(ニューロンの基本、有髄神経と無髄神経、興奮伝導・伝達とシナプス、神経伝達物質、脳内神経伝達物質と精神疾患、中枢神経内のグリア細胞群等)</p>	<p>「神経系の生理学(総論)」</p> <p>到達目標</p> <p>我々が生命活動を維持する上で非常に重要な神経系について下記の内容が総論的に説明できる。(ニューロンの基本、有髄神経と無髄神経、興奮伝導・伝達とシナプス、神経伝達物質、脳内神経伝達物質と精神疾患、中枢神経内のグリア細胞群等)</p>	坪井秀夫
10	通年	<p>「神経系の生理学(各論)」</p> <p>一般目標</p> <p>我々が生命活動を維持する上で非常に重要な神経系について下記の内容を中心に各論的に学ぶ。(各神経による具体的な臓器、筋等のコントロールの実際、脳・脳幹、脊髄、自律神経系の生理学的働き等)</p>	<p>「神経系の生理学(各論)」</p> <p>到達目標</p> <p>我々が生命活動を維持する上で非常に重要な神経系について下記の内容を各論的に説明できる。(各神経による具体的な臓器、筋等のコントロールの実際、脳・脳幹、脊髄、自律神経系の生理学的働き等)</p>	坪井秀夫
11	通年	<p>「心臓・血液循環系(総論・各論)」</p> <p>一般目標</p> <p>ガス交換や免疫、物質交換等我々の生命維持に非常に重要な役割を果たしている血液とその血液を全身に循環させている心臓と血管からなる循環器系について学ぶ。</p>	<p>「心臓・血液循環系(総論・各論)」</p> <p>到達目標</p> <p>ガス交換や免疫、物質交換等我々の生命維持に非常に重要な役割を果たしている血液とその血液を全身に循環させている心臓と血管からなる循環器系について説明できる。</p>	坪井秀夫
12	通年	<p>「感覚器の生理学(総論・各論)①」</p> <p>一般目標</p> <p>嗅覚、味覚、皮膚感覚(痛覚、温冷覚、触覚等)を通して、身体に及ぶ危険の事前察知や生命維持、日常生活や生殖等にも深く関連するこれらの感覚の生理学的機能について深く理解する。</p>	<p>「皮膚感覚の生理学(総論・各論)①」</p> <p>到達目標</p> <p>嗅覚、味覚、皮膚感覚(痛覚、温冷覚、触覚等)を通して、身体に及ぶ危険の事前察知や生命維持、日常生活や生殖等にも深く関連するこれらの感覚の生理学的機能について説明できる。</p>	坪井秀夫

13	通年	「感覚器の生理学（総論・各論）②」 一般目標 聴覚、視覚を通して、身体に及ぶ危険の事前察知や防御、日常生活にも深く関連するこれらの感覚の生理学的機能について深く理解する。	「感覚器の生理学（総論・各論）②」 到達目標 聴覚、視覚を通して、身体に及ぶ危険の事前察知や防御、日常生活にも深く関連するこれらの感覚の生理学的機能について説明できる。	坪井秀夫
14	通年	「筋肉の生理学(各論・総論)」 一般目標 ① 筋肉の基本や収縮メカニズムを分子レベルで理解する。 ② 脳から運動神経終末を經由し骨格筋興奮及び筋収縮に至る興奮伝達のプロセスを分子レベルで理解する。	「筋肉の生理学(各論・総論)」 到達目標 ① 筋肉の基本や収縮メカニズムを分子レベルで理解する。 ② 脳から運動神経終末を經由し骨格筋興奮及び筋収縮に至る興奮伝達のプロセスを分子レベルで説明できる。	坪井秀夫
15	通年	評価とまとめ	評価とまとめ	坪井秀夫
成績評価方法	科目試験（100%） 時間が許せば、学期の中間期に中間試験を行い、その点数に応じて本試験素点に加点する事がある。			
準備学習など	初講時に「本科目受講上の諸注意」として説明するので必ず出席してほしい。			
留意事項	初講時に「本科目受講上の諸注意」として説明するので必ず出席してほしい。			

学科・年次	言語聴覚科・1年生	開講期間	前期 後期 通年
科目名	病態薬理学		
担当者	加藤 裕美		
単位数(時間数)	1単位(26時間)	履修方法	講義
教科書・参考書	病理学概論(永末書店)		

授業概要
言語聴覚士として必要な病理学の基礎と薬理学の基礎について、勉強する。 なお、歯科医師として臨床経験のある講師が講義を担当する。
授業の目的(意義)
機能が障害される原因と機序に関する理解を深め、薬の作用機序を理解し、最適な治療法を見つけ出すこと。
関連する学科のDP
<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験に合格できる知識を身に付けている ・言語聴覚士としての専門的な知識をもち、根拠に基づいた言語聴覚療法を実践できる ・専門家としての自覚をもち、常に学び続ける意識をもつ ・相互理解を深め、チーム医療の一員として多職種連携に貢献する

回 (コマ)	「授業項目」(单元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	「病態薬理学とは」 言語聴覚士が必要とする病態の解明と薬物作用の機序を解明する。	「病理学とは」 言語聴覚士として必要な病理学の概念を理解し、正常な細胞の仕組みについて述べるができる。	加藤 裕美
2	「病態額の基礎」 言語聴覚士が必要とする病態学的基礎を理解する。	「外因、内因」 病因論について理解し、述べるができる。	加藤 裕美
3	「病態学の基礎」 言語聴覚士が必要とする病態学的基礎を理解する。	「先天異常」 先天異常と奇形、伴性遺伝と染色体異常による遺伝について理解し述べるができる。	加藤 裕美
4		「代謝障害」 代謝障害(変性・萎縮・壊死)について理解し、述べるができる。	加藤 裕美
5		「増殖と修復」 増殖と修復(肥大・再生・創傷治癒)について理解	加藤 裕美

		し、述べることができる。	
6	「病態学の基礎」 言語聴覚士が必要とする病態学的 基礎を理解する。	「循環障害」 循環障害（血液の循環障害・リンパ液の循環障害・脱水症）について理解し、述べる ことができる。	加藤 裕美
7		「炎症」 炎症（原因・形態的变化分類）について理解し、述 べる ことができる。	加藤 裕美
8		「免疫」 免疫・アレルギーについて理解し、述べる ことができる。	加藤 裕美
9		「腫瘍」 腫瘍について理解し、述べる ことができる。	加藤 裕美
10	「薬理学の基礎」 言語聴覚士が必要とする薬理学的 基礎を理解する。	「薬物の基本」 薬物の基本と医薬品の分類について理解し、述 べる ことができる。	加藤 裕美
11		「薬物の作用」 薬物の一般的作用と投与経路と体内動態につ いて理 解し、述べる ことができる。	加藤 裕美
12		「中枢神経・末梢神経に作用する薬」 中枢神経に作用する薬、末梢神経に作用する薬 につ いて述 べる ことができる。	加藤 裕美
13	「科目試験とまとめ」 科目試験とまとめを通じて、病態薬 理学を理解する。	「科目試験とまとめ」 科目試験の問題を解くことができる。	加藤 裕美
成績評価 方法	出席 2/3 以上と試験による成績で評価する。		
準備学習/事後学習			
関連科目			
その他（履修者へのア ドバイス等）			

学科・年次	言語聴覚科 1 年次
科目名	内科学(救急救命・医療画像診断)
担当者	益田 健史
単位数 (時間数)	1 単位 (30 時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	Printed Text を提供する

<p>授業概要と目的</p> <p>言語療法士として医療の一端を担うに必要な基本的な医学知識、特に身体の機能の解剖学および生理学的基礎知識を得ることを履修目的とする。医学的知識の少ない者にとってこの履修目的はかなり難解な目標であるので、臨床医学、特に内科学で一般に行われている生化学検査の理論的背景を説明することにより、疾病という身体的異常の実態とその治療へのアプローチを理解し co-medical stuff としての活動に役立てたい。</p> <p>なお、医師として臨床経験のある講師がその経験を活かし授業を行う</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「内科診断学総論」 疾病はどのような障害により発生するか、大略を理解する。	「臨床検査の種類とその検査が持つ診断学的特徴」 この検査はどのような疾患の診断に適しているか、大略を説明できる。	益田 健史
2	後期	「循環器疾患とショック」 循環器の生命現象における役割とそこに発生する異常の本態を説明できる。	「血液循環の異常の種類とその本質」 循環系の異常を知るためにはどのような検査が必要か、説明できる。	益田 健史
3	後期			
4	後期	「呼吸器疾患と酸塩基平衡」 呼吸器の構造的な特徴と発生する機能との関係、および血液の酸塩基平衡の異常を理解する。	「呼吸器疾患、特に COPD と ARDS」 この二つの代表的呼吸器疾患は呼吸機能検査にどのような変化を起こすか、説明できる。	益田 健史
5	後期			
6	後期	「意識障害」 意識保持のための脳幹と大	「頭蓋内圧亢進症状」 脳循環の解剖を理解し、頭蓋内圧亢	益田 健史

7	後期	脳皮質の役割を理解し、一次性、二次性脳病変の実態を理解する。脳死と植物状態および記憶の保持に必要な脳の責任領野を理解する	進の原因と治療法を述べることができる。	
8	後期	「代謝の調節、内分泌、自律神経」 生体の Homeostasis の維持機構を理解し、自律神経とホルモンの役割を述べることができる。	「内分泌疾患と糖尿病」 各種ホルモンの作用を理解し、インスリンと糖代謝：糖尿病の合併症の発生機序を述べることができる。	益田 健史
9				
10	後期	「腎機能と水分代謝」 腎機能の評価方法と水分代謝に関与するホルモンの機能を説明できる。	「腎機能検査と水分出納」 各種腎機能障害と水分平衡の異常の判定法を具体的に述べることができる。熱中症の重症度の判定ができる。	益田 健史
11	後期	「肝機能障害」 主要な肝臓の機能を説明できる。	「肝機能の評価法」 肝機能の評価する方法を具体的に述べることができる。	益田 健史
12	後期	「血液疾患の骨髄移植」 造血機能と血液疾患を総括的に説明できる。	「血液型と輸血」 輸血の禁忌および異形輸血の合併症や骨髄移植の合併症を述べることができる。	益田 健史
13	後期	「移植と免疫」 免疫機構の詳細を説明できる。	「細胞免疫と免疫蛋白質」 それぞれの機能とそれによる障害を説明できる。	益田 健史
14	後期	「既出問題の見直し」	「同左による演習」	益田 健史
15	後期	「講義内容の総括」	「試験」	益田 健史
成績評価方法		筆記試験。		
準備学習など		特定の参考書はない。講義内容の筆記を怠らないこと。		

学科・年次	言語聴覚科・1年次
科目名	精神医学
担当者	益田 健史
単位数(時間数)	1単位(16時間)
学習方法	講義形式。プリント及びパワーポイント資料を活用。
教科書・参考書	講義プリント：現代臨床精神医学12版(金原出版)、精神医学(理工図書) はじめての精神医学2版(中山書店)、(南江堂)参照

授業概要と目的
精神科疾患の基礎を理解し、その知識を身につける。 なお、医師として臨床経験のある講師がその経験を活かし授業を行う

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	後期	「精神医学総論」 精神医学の歴史を理解する 「精神障害の定義・分類」 ICD分類、DSM分類、古典的3分類について理解する	「精神医学の歴史」 精神医学の歴史を述べるができる 「精神障害の定義・分類」 ICD分類、DSM分類、古典的3分類について述べるができる。	益田 健史
2	後期	「心因性精神障害」 神経症・ストレス関連疾患について理解する。	「神経症性障害、ストレス関連疾患」 不安症群、PTSD、解離性障害についてそれぞれの特徴を述べるができる	益田 健史
3	後期	「心因性精神障害」 心身症、摂食障害について理解する。	「心身症、摂食障害」 身体症状症、病気不安症、摂食障害についてそれぞれの特徴を述べるができる	益田 健史
4	後期	「内因性精神障害」 統合失調症を理解する	「統合失調症」 統合失調症の原因(ドーパミン仮説等)・疫学・症状(陽性症状、陰性症状)・治療法を述べるができる。	益田 健史

5	後期	「内因性精神障害」 気分障害について理解する。	「気分障害」 双極性障害及び単極型うつ病の病態・違いを述べる事が出来る。	益田 健史
6	後期	「外因性精神障害」 器質性精神障害と物質依存について理解する。	「器質性精神障害」「物質依存」 器質性疾患による認知症を理解する。 物質依存の3要素（精神・身体・耐性） 及びアルコール依存症について述べる事が出来る。	益田 健史
7	後期	「パーソナリティ障害」 パーソナリティ障害の分類、特徴を理解する。 「まとめ」 ここまでの知識の統合整理する	「パーソナリティ障害」 パーソナリティ障害の分類、特徴を述べる事が出来る ここまでの知識を大まかに説明できる	益田 健史
8	後期	「試験と解説」	「試験と解説」 科目試験に合格する事が出来る。 誤りを正す事が出来る。	益田 健史
成績評価方法		科目終了試験による評価判定。 試験は配布プリント内から出題します。		
準備学習など		プリントの復習。		
留意事項		授業で配布したプリントをファイルして保存する事。		

学科・年次	言語聴覚科 1年次
科目名	耳鼻咽喉科学
担当者	柴田 康子
単位数(時間数)	1単位(30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	教科書 言語聴覚士のための基礎知識 耳鼻咽喉科学 第2版 鳥山 稔/田内 光 医学書院

授業概要と目的
<p>授業概要</p> <p>耳鼻咽喉科専門医が非常勤講師として耳鼻咽喉科一般を担当する。</p> <p>授業目的</p> <p>言語聴覚士に必要な耳鼻咽喉科の概略を理解する。</p> <p>なお、医師として臨床経験のある講師がその経験を活かし授業を行う</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	「耳鼻咽喉科 概要」 耳鼻咽喉科に概要を理解する。	「耳鼻咽喉科 概要」 耳鼻咽喉科でかかわる内容、診療内容について大まかな説明ができる。	柴田康子
2	前期	「耳の解剖」 外耳・中耳の解剖について理解する。	「耳の解剖」 外耳・中耳について構造を説明できる。	柴田康子
3	前期	「耳の解剖2」 内耳、特に平衡器について理解する。	「耳の解剖2」 平衡器について説明できる。	柴田康子
4	前期	「平衡機能検査」 平衡機能検査について理解する。	「平衡機能検査」 平衡機能検査について説明できる。	柴田康子
5	前期	「疾患1」 耳の疾患特に眩暈につき理解する。	「疾患1」 眩暈について説明できる	柴田康子
6	前期	「顔面神経」 解剖、疾患について理解する。	「顔面神経」 顔面神経に関する検査、疾患について説明できる。	柴田康子

7	前期	「鼻腔・副鼻腔の解剖」 鼻腔・副鼻腔の解剖、機能について理解する。	「鼻腔・副鼻腔の解剖」 鼻腔・副鼻腔の構造・機能について説明できる。	柴田康子
8	前期	「鼻腔・副鼻腔の検査」 鼻腔・副鼻腔の検査を理解する。	「鼻腔・副鼻腔の検査」 症状一般とそれに伴う検査を説明できる。	柴田康子
9	前期	「鼻疾患」 外鼻・鼻腔疾患について理解する。	「鼻疾患」 外鼻・鼻腔疾患について説明できる。	柴田康子
10	前期	「副鼻腔疾患」 副鼻腔疾患について理解する。	「副鼻腔疾患」 副鼻腔疾患について説明できる。	柴田康子
11	前期	「口腔・咽頭について」 口腔・咽頭の解剖、機能について理解する。	「口腔・咽頭について」 口腔・咽頭の構造、機能について説明できる。	柴田康子
12	前期	「口腔・唾液腺疾患」 口腔・唾液腺疾患について理解する。	「口腔・唾液腺疾患」 口腔・唾液腺疾患について説明できる。	柴田康子
13	前期	「咽頭疾患」 咽頭疾患について理解する。	「咽頭疾患」 咽頭疾患について説明できる。	柴田康子
14	前期	「顔面・頸部疾患」 顔面・頸部疾患について理解する。	「顔面・頸部疾患」 顔面・頸部の疾患について説明できる。	柴田康子
15	前期	「科目試験とまとめ」 科目試験を通じて耳鼻咽喉科領域の概要を理解する	「科目試験とまとめ」 科目試験を解くことができる。	柴田康子
成績評価方法		科目試験にて、○×で40点、記述式で60点の合計100点満点にて行う。		
準備学習など		特になし		
留意事項		特になし		

学科・年次	言語聴覚科 1年次	開講期間	前期 後期 通年
科目名	臨床神経学Ⅰ (医療画像診断)		
担当者	平野 裕滋		
単位数(時間数)	30時間(15コマ) 1単位	履修方法	講義
教科書・参考書	教科書 神経内科学テキスト 江藤文夫 飯島節 南江堂		

授業概要
<p>授業概要</p> <p>中枢神経系障害のリハビリテーション経験のある教員がその経験を活かし、中枢神経系障害を理解する基礎を指導する</p>
授業の目的(意義)
<p>神経生理学を理解し、それに基づいた中枢神経障害を理解できるようになる。また臨床において必要な画像の読み方の基礎を習得する</p>
関連する学科のDP
<p>国家試験に合格できる知識を身に着けている</p>

回 (コマ)	「授業項目」(単元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	「神経生理基礎」 神経伝達の仕組みを理解する	「神経ネットワークの基礎」 神経伝達物質とその伝達を簡潔に説明出来る	平野 裕滋
2	「嚥下」 嚥下の神経機構を理解する	「嚥下メカニズムについて」 嚥下メカニズムを述べられる。	平野 裕滋
3	「脳神経Ⅰ～Ⅶ」 脳神経Ⅰ～Ⅶを理解し評価できるようになる。	「脳神経Ⅰ～Ⅶの機能について」 脳神経の位置と機能について簡潔に述べることが出来る。	平野 裕滋
4	「脳神経Ⅷ～Ⅻ」 脳神経Ⅷ～Ⅻを理解し評価出来るようになる。	「脳神経Ⅷ～Ⅻ」の機能について」 脳神経の位置と機能について簡潔に述べることが出来る。	平野 裕滋
5	「自律神経系」 自律神経の仕組みを理解する。	「自律神経系の機能について」 自律神経系のネットワークと機能を簡潔に述べることが出来る。脳画像供覧	平野 裕滋
6	「脳機能」 脳の局在機能を理解する。	「脳局在について」 脳局在の機能と障害を結びつけることが出来る。	平野 裕滋

7	「小脳、大脳基底核」 小脳、大脳基底核の位置と機能を理解する。	「小脳、大脳基底核について」 運動制御系としての連携の理解と機能を簡潔に述べる事が出来る。脳画像供覧	平野 裕滋
8	「脊髄機能」 脊髄の生理、解剖を理解する。	「脊髄について」 中枢神経伝導路としての働きを簡潔に述べる事が出来る。	平野 裕滋
9	「意識、高次脳機能」 意識の意味、高次脳機能を理解する。	「意識、高次脳機能について」 意識の役割と高次の脳機能について簡潔に述べる事が出来る。脳画像供覧	平野 裕滋
10	「視床機能」 大脳深部にある視床の働きを理解する。	「視床について」 視床の機能障害と臨床症状の関係を列挙出来る。	平野 裕滋
11	「各種神経機能検査・診断」 神経機能検査の意義と手法を理解する。	「神経機能検査、診断について」 神経機能検査をすることにより臨床症状と障害部位の推定が出来るようになる。脳画像供覧	平野 裕滋
12	「各疾患概論」 神経疾患の種類を理解する。	「神経疾患各論について」 各種神経疾患の概論を理解し、今までの基礎的な講義内容とリンクさせる事が出来る。	平野 裕滋
13	「脳脊髄循環」 脳脊髄の働きを理解する。	「脳脊髄循環について」 脳脊髄の循環障害やその検査により診断が出来る疾患を簡潔に述べる事が出来る。	平野 裕滋
14	「脳画像」 脳画像の読み方を理解する。	「脳画像について」 臨床で使用される脳画像と脳解剖を結びつける事が出来る。脳画像供覧	平野 裕滋
15	「科目試験とまとめ」 科目試験を通じて神経学の概要を理解する。	「科目試験」 科目試験の問題を解くことができる。	平野 裕滋
成績評価方法	学科試験は 100 点満点で 60 点以上が合格です。国家試験に準じた解答方式で施行・採点します		
準備学習/事後学習	内容は臨床に役立ち、かつ国家試験に準じたレベルを含みますので、国家試験過去問などを参考にしてください		
関連科目			
その他（履修者へのアドバイス等）			

学科・年次	言語聴覚科 1 学年	
科目名	形成外科学	
担当者	奥本隆行、井上 義一、犬飼 麻妃、山内 真紀子	
単位数（時間数）	1 単位（15 時間）	
学習方法	講義	
教科書・参考書	教科書 言語聴覚士テキスト 医歯薬出版	参考書

授業概要と目的
<p>形成外科診療の実際を理解する。口唇口蓋裂をはじめとする口腔咽頭領域の疾患と病態を理解する。</p> <p>なお、医師として臨床経験のある講師がその経験を活かし授業を行う</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「形成外科について」 形成外科で扱う疾患や治療の理解する	「形成外科概論」 形成外科の診療内容を説明できる	井上 義一
2	前期	「形成外科について」 形成外科で扱う顔面外傷と美容外科を理解する	「顔面外傷と美容外科」 顔面外傷の診断・治療、美容外科の診療概要を説明できる	井上 義一
3	前期	「形成外科について」 形成外科で扱う頭蓋顎顔面外科を理解する	「頭蓋顎顔面外科」 頭蓋顎顔面外科の対象疾患と治療概要を説明できる	奥本 隆行
4	前期	「形成外科について」 形成外科で扱う悪性腫瘍切除後の再建を理解する	「悪性腫瘍切除後の再建」 悪性腫瘍切除後の組織欠損の問題点とその再建方法を説明できる	奥本 隆行
5	前期	「形成外科について」 形成外科で扱う先天異常と遺伝形式を理解する	「多因子遺伝と口唇口蓋裂」 多因子遺伝の仕組みと口唇口蓋裂の病態・治療に関して説明できる	犬飼 麻妃
6	前期	「形成外科について」 形成外科で扱う先天異常と遺伝形式を理解する	「先天性外表異常」 主な先天性外表異常とその治療に関して説明できる	犬飼 麻妃

7	前期	「形成外科について」 創傷治癒の過程を理解する 皮膚移植の概略を理解する	「創傷治癒と皮膚移植」 創傷治癒の過程と皮膚移植の方法を説明できる	山内 真紀子
8	前期	「学科試験とまとめ」	「学科試験とまとめ」	山内 真紀子
成績評価方法		学科試験は100点満点で○×方式、5者択1（あるいは2）方式、記述式で行います。記述式は必要な語が含まれない場合は減点する方式で採点します。		
準備学習など		言語聴覚士にとって口腔咽頭機能にかかわる知識は重要です。形成外科では先天異常やの口腔咽頭領域の悪性腫瘍切除後再建など鼻咽腔閉鎖機能にかかわる治療を行っています。実際の臨床を十分理解できるように積極的に取り組んでください。質問も随時受けていきます。		
留意事項		特になし		

学科・年次	言語聴覚科 1年次	
科目名	臨床歯科医学	
担当者	原 康司	
単位数（時間数）	1単位（30時間）	
学習方法	講義	
教科書・参考書	教科書 言語聴覚士のための基礎知識 臨床歯科医学・口腔外科学 第2版（夏目長門 医学書院）	参考書 言語聴覚士国家試験過去問題3年間の解答と解説<2020年版>（大揚社）

授業概要と目的
<p>授業概要</p> <p>歯・歯周組織をはじめとする口腔の構造・機能・疾患について理解し、言語聴覚士としての治療における役割を学ぶ。歯科医師が担当する。</p> <p>授業目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 歯、歯周組織、口腔、顎、顔面、顎関節、唾液腺、神経の発生、構造、機能について知り、説明できるようになる。 2 歯、歯周組織、口腔、顎、顔面、顎関節、唾液腺、神経に発生する疾患、予防・治療法について知り、説明できるようになる。 3 咀嚼、摂食・嚥下、構音と関係のある、種々の口腔機能について知り、説明できるようになる。 4 咀嚼、摂食・嚥下、構音と関係のある、種々の口腔機能障害に対する評価、治療法について知り、説明できるようになる。 <p>なお、歯科医師として臨床経験のある講師がその経験を活かし授業を行う</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「口腔・顎・顔面について」 口腔・顎・顔面について理解する。	「口腔・顎・顔面の発生、構造、機能（摂食、咀嚼、嚥下、構音）」 何も見ずに口腔・顎・顔面について簡単に説明できる。	原 康司
2	前期	「歯・歯周組織について」 歯・歯周組織について理解する。	「歯・歯周組織の発生、構造、機能（咀嚼、構音）、疾患、治療（う蝕、歯髄炎、歯周病、歯列不正、歯の欠損）」 何も見ずに歯・歯周組織について簡単に説明できる。	原 康司
3	前期	「顎関節について」	「顎関節の発生、構造、機能（摂食、咀嚼）」	原 康司

		顎関節について理解する。	嚼、嚥下、構音)」「 何も見ずに顎関節について簡単に説明できる。	
4	前期	「唾液腺について」 唾液腺について理解する。	「唾液腺の発生、構造、機能(咀嚼、摂食、嚥下)」 何も見ずに唾液腺について簡単に説明できる。	原 康司
5	前期	「口腔ケアについて」 口腔ケアについて理解する。	「口腔ケアの予防、疾患、治療」 何も見ずに口腔ケアについて簡単に説明できる。	原 康司
6	前期	「歯科医学的処置について」 歯科医学的処置について理解する。	「歯科医学的処置の補綴、保存、歯科矯正などの処置」 何も見ずに歯科医学的処置について簡単に説明できる。	原 康司
7	前期	「構音、摂食、咀嚼の障害と関係ある疾患と治療について1」 構音、摂食、咀嚼の障害と関係ある疾患と治療について理解する。	「構音、摂食、咀嚼の障害と関係ある疾患と治療の口唇裂、顎裂、口蓋裂、唇顎口蓋裂および類似疾患、舌、口底(口腔底)、頬、口唇の異常、咬合異常、顎変形症、顎の先天性異常・発育異常、顎関節疾患、唾液腺疾患、末梢神経異常、口腔乾燥症、口腔内腫瘍、口腔粘膜疾患1」 何も見ずに構音、摂食、咀嚼の障害と関係ある疾患と治療について簡単に説明できる。	原 康司
8	前期	「構音、摂食、咀嚼の障害と関係ある疾患と治療について2」 構音、摂食、咀嚼の障害と関係ある疾患と治療について理解する。	「構音、摂食、咀嚼の障害と関係ある疾患と治療の口唇裂、顎裂、口蓋裂、唇顎口蓋裂および類似疾患、舌、口底(口腔底)、頬、口唇の異常、咬合異常、顎変形症、顎の先天性異常・発育異常、顎関節疾患、唾液腺疾患、末梢神経異常、口腔乾燥症、口腔内腫瘍、口腔粘膜疾患2」 何も見ずに構音、摂食、咀嚼の障害と関係ある疾患と治療について簡単に説明できる。	原 康司
9	前期	「構音、摂食、咀嚼の障害に対する歯科医学的治療法について」	「構音、摂食、咀嚼の障害に対する歯科医学的治療法の手術的療法、補綴的補助装置による機能回復、訓練」	原 康司

		構音、摂食、咀嚼の障害に対する歯科医学的治療法について理解する。	何も見ずに構音、摂食、咀嚼の障害に対する歯科医学的治療法について簡単に説明できる。	
10	前期	「歯、口腔、顎、顔面の炎症、感染症と治療後の欠損について」 歯、口腔、顎、顔面の炎症、感染症と治療後の欠損について理解する。	「歯、口腔、顎、顔面の炎症、感染症と治療後の欠損の機能障害、治療、再建と機能回復」 何も見ずに歯、口腔、顎、顔面の炎症、感染症と治療後の欠損について簡単に説明できる。	原 康司
11	前期	「歯、口腔、顎、顔面の腫瘍・嚢胞と治療後の欠損について」 歯、口腔、顎、顔面の腫瘍・嚢胞と治療後の欠損について理解する。	「歯、口腔、顎、顔面の腫瘍・嚢胞と治療後の欠損の機能障害、治療、再建と機能回復」 何も見ずに歯、口腔、顎、顔面の腫瘍・嚢胞と治療後の欠損について簡単に説明できる。	原 康司
12	前期	「歯、口腔、顎、顔面の外傷と治療後の欠損について」 歯、口腔、顎、顔面の外傷と治療後の欠損について理解する。	「歯、口腔、顎、顔面の外傷と治療後の欠損の機能障害、治療、再建と機能回復」 何も見ずに歯、口腔、顎、顔面の外傷と治療後の欠損について簡単に説明できる。	原 康司
13	前期	「中枢性疾患による口腔機能障害について」 中枢性疾患による口腔機能障害について理解する。	「中枢性疾患による口腔機能障害の障害、治療、評価」 何も見ずに中枢性疾患による口腔機能障害について簡単に説明できる。	原 康司
14	前期	「加齢による口腔機能障害について」 加齢による口腔機能障害について理解する。	「加齢による口腔機能障害の障害、治療、評価」 何も見ずに加齢による口腔機能障害について簡単に説明できる。	原 康司
15	前期	「科目試験」を通して各回の講義内容を理解する。	「科目試験」の問題を解くことが出来る。	原 康司
成績評価方法		定期試験の得点（80%）、受講態度（小テスト、質問に対する回答、発言回数など）（20%）から、総合的に評価する。		
準備学習など		【予習】事前配付資料と教科書等にて内容を確認・理解し講義に臨めるようにしてください。 【復習】配付資料と教科書等にて内容を確認しさらに理解を深めてください。		
留意事項				

学科・年次	言語聴覚科 1年次
科目名	呼吸発声発語系医学
担当者	柴田 康子
単位数(時間数)	1単位(30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	教科書 言語聴覚士のための基礎知識 耳鼻咽喉科学 第2版 鳥山 稔/田内 光 医学書院

授業概要と目的
<p>授業概要</p> <p>耳鼻咽喉科専門医が非常勤講師として呼吸・発声・発語系分野を担当する。</p> <p>授業目的</p> <p>呼吸・発声・発語系の解剖、機能、検査、疾患について理解する。</p> <p>医師として臨床経験のある講師がその経験を活かし授業を行う</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	後期	「呼吸発声発語系医学について」 呼吸・発声とは何か概略を理解する。	「呼吸発声発語系医学について」 呼吸・発声について概略を説明できる。	柴田康子
2	後期	「解剖と機能、疾患」 鼻腔・口腔の解剖と機能を理解する。鼻腔・口腔・舌の疾患について理解する。	「解剖と機能、疾患」 構音器官としての構造と機能を説明できる。構音にかかわる疾患について説明できる。	柴田康子
3	後期	「解剖と機能」 喉頭の解剖と機能を理解する。	「解剖と機能」 喉頭の構造と機能を説明できる。	柴田康子
4	後期	「検査1」 喉頭の検査について理解する。	「検査1」 喉頭の基本的検査について説明できる。	柴田康子
5	後期	「解剖と機能」 呼吸器官の解剖と機能を理解する。	「解剖と機能」 呼吸器官の構造と機能について説明できる。	柴田康子
6	後期	「検査2」 呼吸機能検査について理解する。	「検査2」 呼吸機能検査について説明できる。	柴田康子

7	後期	「発声の仕組みと検査」 発声の仕組みとそれに関する検査について理解する	「発声の仕組みと検査」 発声の仕組みとそれに関する検査について説明する	柴田康子
8	後期	「音声医学」 音声生理と音声障害について理解する。	「音声医学」 音声生理と音声障害について説明できる。	柴田康子
9	後期	「疾患 2」 喉頭疾患（先天性・外傷・炎症）について理解する。	「喉頭疾患 1」 喉頭疾患（先天性・外傷・炎症）について説明できる。	柴田康子
10	後期	「疾患 3」 喉頭疾患（腫瘍病変）について理解する。	「喉頭疾患 2」 喉頭の隆起病変（良性）について説明できる。	柴田康子
11	後期	「疾患 4」 喉頭疾患（悪性腫瘍）について理解する。	「喉頭疾患 3」 喉頭癌、代用音声について説明できる。	柴田康子
12	後期	「疾患 5」 喉頭疾患（運動・知覚障害）について理解する。	「喉頭疾患 4」 喉頭の運動・知覚障害について説明できる。	柴田康子
13	後期	「気道確保」 気道確保について理解する。	「気道確保」 気道確保の適応・方法について説明できる。	柴田康子
14	後期	「復習」 復習	「復習」 復習	柴田康子
15	後期	「科目試験とまとめ」 科目試験を通じて呼吸発声発語系領域の概要について理解する。	「科目試験とまとめ」 科目試験を解くことができる。	柴田康子
成績評価方法		科目試験にて、○×で 40 点、記述式で 60 点の合計 100 点満点にて行う。		
準備学習など		特になし		
留意事項		特になし		

学科・年次	言語聴覚科 1年次
科目名	聴覚系医学
担当者	柴田 康子
単位数(時間数)	1単位(30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	教科書 言語聴覚士のための基礎知識 耳鼻咽喉科学 第2版 鳥山 稔/田内 光 医学書院

授業概要と目的	
<p>授業概要</p> <p>耳鼻咽喉科専門医が非常勤講師として聴覚分野を担当する。</p> <p>授業目的</p> <p>聴覚系の解剖、機能、検査、疾患について理解する。</p> <p>医師として臨床経験のある講師がその経験を活かし授業を行う</p>	

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	通年	「聴覚障害について」 聴覚障害の概要を理解する。	「聴覚障害1」 聴覚障害とは何か。複数の視点から説明できる。	柴田康子
2	通年	「聴覚障害について」 先天性難聴について理解する。	「聴覚障害2」 先天性難聴について説明できる。	柴田康子
3	通年	「聴力検査1」 自覚的検査について理解する。	「聴力検査1」 特に純音聴力検査について検査の意義を理解する。	柴田康子
4	通年	「聴力検査2」 乳幼児の聴力検査について理解する。	「聴力検査2」 乳幼児の自覚的検査の意義について説明できる。	柴田康子
5	通年	「聴力検査3」 他覚的検査について理解する。	「聴力検査3」 他覚的検査の意義について説明できる。	柴田康子
6	通年	「新生児聴覚スクリーニング」 新生児聴覚スクリーニングについて理解する。	「新生児聴覚スクリーニング」 新生児聴覚スクリーニング検査について説明できる。	柴田康子

7	通年	「聴力検査4」 耳鳴、耳管機能検査について理解する。	「聴力検査4」 耳鳴、耳管機能検査について説明できる。	柴田康子
8	通年	「外耳について」 外耳の解剖、機能、疾患について理解する	「外耳について」 外耳の構造、機能、疾患について説明できる。	柴田康子
9	通年	「中耳について1」 中耳の解剖、機能、疾患について理解する。	「中耳について1」 中耳の構造、機能、疾患について説明できる。	柴田康子
10	通年	「中耳について2」 中耳炎について理解する。	「中耳について2」 中耳炎について説明できる。	柴田康子
11	通年	「内耳について1」 内耳の解剖、機能について理解する。	「内耳について1」 内耳の構造、機能について説明できる。	柴田康子
12	通年	「内耳について2」 内耳疾患について理解する。	「内耳について2」 内耳疾患について説明できる。	柴田康子
13	通年	「後迷路について1」 後迷路の解剖、機能について理解する。	「後迷路について1」 後迷路・聴覚伝導路について説明できる。	柴田康子
14	通年	「後迷路・中枢について」 後迷路の疾患について理解する。	「後迷路・中枢について」 後迷路の疾患について説明できる。	柴田康子
15	通年	「科目試験とまとめ」 科目試験を通じて聴覚領域の概要について理解する。	「科目試験とまとめ」 科目試験を解くことができる。	柴田康子
成績評価方法		科目試験にて、○×で40点、記述式で60点の合計100点満点にて行う。		
準備学習など		特になし		
留意事項		特になし		

学科・年次	言語聴覚科 1学年	
科目名	神経系医学	
担当者	大石 久史	
単位数(時間数)	1単位(30時間)	
学習方法	講義・演習	
教科書・参考書	教科書 言語聴覚士テキスト第3版 大森孝一ほか (編) 医歯薬出版株式会社	参考書 病気が見える Vol.7 脳・神経第3版 Medic Media 人体の正常構造と機能 VIII 神経系(1)(2) 坂井建雄 ほか編 日本医事新報社

授業概要と目的
<p>授業概要</p> <p>臨床に携わる医師が、非常勤講師として、神経系を構成する各部の機能、解剖生理を指導する。さらに主要な疾患について、病理学的な変化や病態生理を理解し、専門領域で学ぶ神経系疾患、リハビリテーション等の理解の一助とする。</p> <p>授業目的</p> <p>中枢神経系および末梢神経系の正常構造と機能を理解し、主要な神経系疾患の病態生理、症候、診断の基礎を理解する。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	「中枢神経系の構造1：大脳、 脳幹、小脳」 脳各部位の基本的な発生の過程 と構造を理解する。	「大脳・脳幹・小脳の構造」 (1) 神経発生について説明することができる。 (2) 大脳の構造について説明することができる。 (2) 中脳、橋、延髄の構造について説明することができる。 (3) 小脳の構造について説明することができる。	大石 久史
2	前期	「中枢神経系の構造2：脊髄、錐 体路・錐体外路」 脊髄、錐体路・錐体外路の構造 を理解する。	「脊髄の構造および錐体路・錐体外路」 (1) 脊髄の構造について説明することができる。 (2) 錐体路、錐体外路について説明するこ	大石 久史

			とができる。	
3	前期	「中枢神経系の構造3：脳血管系、髄膜・脳脊髄液」 脳血管系、髄膜の構造、脳脊髄液の循環について理解する。	「脳血管系および髄膜・脳脊髄液」 (1) 脳血管系の構造について説明することができる。 (2) 髄膜・脳脊髄液の基本的事項について説明することができる。 (2) 血液・脳関門の構造について説明することができる。	大石 久史
4	前期	「末梢神経系の構造1：脳神経」 脳神経の構造を理解する。	「脳神経の構造」 (1) 脳神経核の解剖学的位置を説明することができる。 (2) 脳神経の構造、役割、神経成分を説明することができる。	大石 久史
5	前期	「末梢神経系の構造2：脊髄神経、自律神経」 脊髄神経および自律神経の構造を理解する。	「脊髄神経および自律神経の構造」 (1) 脊髄神経の構造を説明することができる。 (2) 自律神経の二重神経支配、構造、役割等を説明することができる。	大石 久史
6	前期	「神経系細胞の働き1：神経伝導」 神経系を構成する各種の細胞と神経伝導のメカニズムを理解する。	「神経伝導」 (1) 神経系の各種細胞について、局在と働きを説明することができる。 (2) イオンチャネル構造と機能から、神経伝導、神経伝達を説明することができる。 (3) 活動電位について説明することができる。	大石 久史
7	前期	「神経系細胞の働き2：神経伝達」 神経伝達のメカニズムを理解する。	「神経伝達」 (1) シナプスの構造と機能について説明することができる。 (2) 主要な神経伝達物質について説明することができる。 (3) 神経伝導と神経伝達の違いについて説明することができる。	大石 久史
8	前期	「中枢神経系の機能1：大脳皮質、伝導路」 大脳皮質の機能局在と主要な神	「大脳皮質の機能局在、伝導路」 (1) 大脳皮質の機能局在について説明することができる。	大石 久史

		経伝導路を理解する。	(2) 主要な上向性、下向性伝導路について説明することができる。	
9	前期	「中枢神経系の機能2：大脳白質、脳幹」 大脳白質と脳幹の機能を理解する。	「大脳白質と脳幹の機能」 (1) 大脳白質の機能および線維の違いについて説明することができる。 (2) 脳幹にある脳神経核と皮質核路について説明することができる。	大石 久史
10	前期	「中枢神経系の機能3：小脳、脊髄」 小脳と脊髄の機能を理解する。	「小脳と脊髄の機能」 (1) 小脳核の機能について説明することができる。 (2) 脊髄の機能について説明することができる。 (3) 脊髄反射のメカニズムについて説明することができる。	大石 久史
11	前期	「末梢神経系の機能」 末梢における運動と感覚、自律神経機能の制御を理解する。	「運動神経、感覚神経、自律神経」 (1) 運動神経と感覚神経の違いについて説明することができる。 (2) 神経筋接合部の構造について説明することができる。 (3) 種々の知覚受容体の構造について説明することができる。	大石 久史
12	前期	「中枢神経系の病態」 種々の中枢神経障害の病因病態を理解し、症状との関連を理解する。	「中枢神経系の主要な病気」 (1) 高次脳機能障害について説明することができる。 (2) 上位、下位運動ニューロン性障害の違いについて説明することができる。 (3) 種々の運動失調疾患について説明することができる。 (4) 基底核障害の多様性について説明することができる。 (5) 感覚障害について説明することができる。 (6) 脊髄の障害部位と症状について、その対応を説明することができる。	大石 久史

13	前期	「末梢神経系の病態」 種々のニューロパチーの病因病態を理解し、症状との関連を理解する。	「末梢神経系の主要な病気」 (1) 主要な末梢性運動障害について説明することができる。 (2) 主要な末梢性感覚障害について説明することができる。 (3) 自律神経障害について説明することができる。	大石 久史
14	前期	「神経生理・画像診断および神経系の総括」 従来の検査に加え、最近の画像診断技術の進歩について理解を深め、神経系の最近の知見に触れる。	「神経生理・画像診断および神経系の総括」 (1) 各種電気生理学的検査、形態画像検査、機能画像検査について説明することができる。 (2) 神経系疾患に対する最近の知見と治療法について説明することができる。	大石 久史
15	前期	「学科試験、まとめ」	「学科試験、まとめ」	大石 久史
成績評価方法		学科試験 100%で評価する。60%は国家試験に準じた選択式、択一式ほか、40%は記述式で、必要な語が含まれない場合に減点される。		
準備学習など		特になし		
留意事項		特になし		

学科・年次	言語聴覚科 1年次	開講期間	通年
科目名	リハビリテーション学		
担当者	田中敏彦 山内太郎 櫻井泰弘		
単位数（時間数）	1単位（25時間）	履修方法	講義・グループワーク・実技
教科書・参考書	サブノート		

授業概要
<p>基本動作を中心に講義と実践、グループ活動を通し参加型の授業を行っていくため、体験学習では積極的に前に出て学んでもらいたい。</p> <p>人間の身体動作について、解剖学、生理学の知識を踏まえてリハビリテーションに必要な運動学を学習する。あわせて「自分の身体」を通して理解することの大切さを考えていく。</p> <p>なお、作業療法士として臨床経験のある教員と理学療法士として臨床経験のある教員がその経験を活かし授業を行う。</p>
授業の目的（意義）
<p>当科目は、対象者の日常生活動作自立を促すうえで基本となる動作について学習し、現場での実践力を付けることを目的としているため、実習前に復習しておけると良い。</p> <p>臨床現場において、他のリハ職の治療方針や治療方法が理解できるよう最低限の「身体動作に関する基本知識」の習得を目指し、また基本動作について説明できるようになることを目的とする。</p>
関連する学科の DP
<ul style="list-style-type: none"> ・ 国家試験に合格できる知識を身に着けている ・ 言語聴覚士として専門的な知識を持ち、根拠に基づいた言語聴覚療法を実践できる ・ 専門家としての自覚を持ち、常に学び続ける意識を持つ ・ 相互理解を深め、チーム医療の一員として多職種連携に貢献する

回 (コマ)	「授業項目」(単元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	「リハ職に必須となる身体知識」・PT・OTに共通して求められる身体の基礎知識を共有し、理解する。	「身体運動の基礎」 ・ 身体運動の面と軸 ・ 関節の動き について、基礎知識を説明できる。	櫻井泰弘
2	「運動器の構造と機能①」 ・ 関節の基本構造と機能を理解する。	「関節の基礎」 リハ職に最低限必要な各関節の動きについて学習し、「関節の基礎」について説明できる。	櫻井泰弘
3	「運動器の構造と機能②」	「骨格筋の基礎」	櫻井泰弘

	<ul style="list-style-type: none"> 骨格筋の基本構造と機能を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 骨格筋の神経構造 筋紡錘、腱紡錘の構造と機能 筋収縮の様態 <p>について、基礎知識を説明できる。</p>	
4	<p>「姿勢の診方」</p> <ul style="list-style-type: none"> 姿勢の特徴 姿勢戦略 <p>について理解する。</p>	<p>「人の姿勢の特徴」</p> <ul style="list-style-type: none"> 重心 左右方向，前後方向の重心線 安定した姿勢，不安定な姿勢の要因 各関節の姿勢戦略 <p>について理解し，説明できる。</p>	櫻井泰弘
5	<p>「基本的動作①」</p> <ul style="list-style-type: none"> 寝返り、起き上がり動作の仕組みについて理解する。 	<p>「寝返り、起き上がり動作の特徴」</p> <ul style="list-style-type: none"> 各関節の動き 筋活動 重心の変化 <p>について理解し，説明できる。</p>	櫻井泰弘
6	<p>「基本的動作②」</p> <ul style="list-style-type: none"> 立ち上がり、着座動作について理解する。 	<p>「立ち上がり、着座動作の特徴」</p> <ul style="list-style-type: none"> 各関節の動き 筋活動 重心の変化 <p>について理解し，説明できる。</p>	櫻井泰弘
7	<p>「基本的動作③」</p> <ul style="list-style-type: none"> 歩行動作について理解する。 	<p>「歩行動作の特徴」</p> <ul style="list-style-type: none"> 歩行周期 歩行時の重心移動 歩行時の関節角度 歩行時の筋活動 <p>について理解し，説明できる。</p>	櫻井泰弘
8	<p>「リハビリテーションとは」</p> <ul style="list-style-type: none"> リハビリテーションの意味と定義を理解する。 基本・応用・社会適応の3つの能力の内容と関係を理解する。 作業療法の特徴を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> リハビリテーションの定義 生活に必要な3つの能力 同じリハ職種としての作業療法と言語聴覚療法の関係 <p>について説明することができる。</p>	田中敏彦
9	<p>「基本動作④」</p> <ul style="list-style-type: none"> 道具を用いた起居移動について理解する。 	<p>「実用歩行について」</p> <ul style="list-style-type: none"> 歩行の自立とは何かを説明できる 杖を使った歩行について説明できる 	山内太郎

10	「基本動作⑤」 ・杖の使い方を理解する ・車いすの特徴を理解する	「杖の使い方について」 ・実際に杖を使用して、校舎内を歩くことができる 「車いすの使い方について」 ・車いすの使い方をオリエンテーションできる。	山内太郎
11	「基本動作⑥」 ・移乗介助について理解する	「症例を想定した移乗の方法について」 ・ベッドからリハビリ室までの誘導を安全にできるようになる	山内太郎
12	「基本動作⑦」 ・車いす介助方法を理解する	「車いす操作の実践」 ・車いす介助方法を説明できる ・車いす屋外練習の計画を立てることができる	山内太郎
13	「まとめと試験」 リハ職に共通して求められる身体の基礎知識及び運動動作の基礎について、知識を整理し、理解する。	「まとめと試験」 これまで学習した身体運動の基礎について、知識を整理し、試験を通して定着度の確認を行い、身体動作について説明できる。 また、これまで学習した杖歩行について、介助方法について、車いすについて問う。授業内容を復習し、解答を導き出すことができる	山内太郎 櫻井泰弘
成績評価方法	筆記試験		
準備学習/事後学習	準備学習について、特に必要としない		
関連科目			
その他（履修者へのアドバイス等）	初めて聞く内容がほとんどだと思われます。はじめは、わからなくて当然なので、少しずつ「分かった」「へ～」などの体験をしていきましょう。質問なども積極的にしていただくとありがたいです。		

学科・年次	言語聴覚科 1年	
科目名	臨床心理学	
担当者	菅 吉基	
単位数（時間数）	2単位（40時間）	
学習方法	講義	
教科書・参考書	教科書 プリント配布	参考書

授業概要と目的
<p>授業概要</p> <p>臨床心理士・公認心理師資格取得、カウンセリングの実務経験がある者が非常勤講師として、言語聴覚士になるために必要とされる臨床心理学の基礎理論と実際を教える。</p> <p>授業目的</p> <p>臨床心理学の基礎理論と実際を学ぶことにより、心への理解を深めることで、自己・他者への気持ちの理解を促し、対人支援に活かせるようにする。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「臨床心理学概論」 臨床心理学とは何かについて理解する。	「オリエンテーション、授業内容の説明」 臨床心理学的な考え方を説明できる。	菅 吉基
2	前期	「人格理論 (1)」 人格の類型論について理解する。	「類型論の考え方」 Kretschmer、Jung の類型論について説明できる。	菅 吉基
3	前期	「人格理論 (2)」 人格の特性論について理解する。	「特性論の考え方」 Guilford、Cattell、Eysenck、Goldberg の特性論について説明できる。	菅 吉基
4	前期	「発達各期における心理臨床的問題 (1)」 情緒及び行動の障害について理解する。	「情緒及び行動の障害と発達段階説」 情緒及び行動の障害への対応と Freud の発達段階説について説明できる。	菅 吉基
5	前期	「発達各期における心理臨床的問題 (2)」 摂食障害について理解する。	「摂食障害への対応」 摂食障害の定義と対応について説明できる。	菅 吉基

6	前期	「様々な精神障害 (1)」 心的防衛機制と気分の障害について理解する。	「防衛機制の種類とうつ病への対応」 防衛機制の種類を知ることと、うつ病の定義と対応について説明できる。	菅 吉基
7	前期	「様々な精神障害 (2)」 意識の障害と統合失調症について理解する。	「解離性障害と統合失調症への対応」 解離性障害と統合失調症の定義と対応について説明できる。	菅 吉基
8	前期	「様々な精神障害 (3)」 パーソナリティ障害について理解する。	「境界性パーソナリティ障害と自己愛性パーソナリティ障害への対応」 パーソナリティ障害の定義と対応について説明できる。	菅 吉基
9	前期	「様々な精神障害 (4)」 強迫性障害、パニック障害、不安障害について理解する。	「強迫性障害、パニック障害、不安障害への対応」 強迫性障害、パニック障害、不安障害の定義と対応について説明できる。	菅 吉基
10	前期	「様々な精神障害 (5)」 操作的診断基準について理解する。	「精神疾患の診断について」 DSM、ICD の定義と診断の基準について説明できる。	菅 吉基
11	前期	「臨床心理学的査定 (1)」 知能検査について理解する。	「知能検査について」 知能検査の定義と、ウェクスラー式知能検査、ビネー式知能検査について説明できる。	菅 吉基
12	前期	「臨床心理学的査定 (2)」 発達検査、質問紙法について理解する。	「発達検査、質問紙法について」 発達検査、質問紙法の定義と実施方法、種類について説明できる。	菅 吉基
13	前期	「臨床心理学的査定 (3)」 人格検査、投影法について理解する。	「人格検査、投影法について」 人格検査、投影法の定義と実施方法、種類について説明できる。	菅 吉基
14	前期	「臨床心理学的査定 (4)」 面接法、行動観察法について理解する	「面接法、行動観察法について」 面接法、行動観察法の定義と実施時の注意点について説明できる。	菅 吉基
15	前期	「心理療法 (1)」 精神分析、分析心理学について理解する。	「精神分析、分析心理学について」 精神分析、分析心理学の定義と治療方法について説明できる。	菅 吉基

16	前期	「心理療法 (2)」 遊戯療法について理解する。	「遊戯療法について」 遊戯療法の定義と治療方法について説明できる。	菅 吉基
17	前期	「心理療法 (3)」 行動療法、認知療法、認知行動療法について理解する。	「行動療法、認知療法、認知行動療法について」行動療法、認知療法、認知行動療法の定義と治療方法について説明できる。	菅 吉基
18	前期	「心理療法 (4)」 クライアント中心療法、家族療法について理解する。	「クライアント中心療法、家族療法について」クライアント中心療法、家族療法の定義と治療方法について説明できる。	菅 吉基
19	前期	「心理療法 (5)」 集団療法について理解する。	「集団療法について」 集団療法の定義と治療方法について説明できる。	菅 吉基
20	前期	「科目試験」	「科目試験と解説、まとめ」	菅 吉基
成績評価方法	<p>科目試験にて 100 点満点で、90 点は 5 択の選択問題 10 点は自由記述問題です。 記述問題は自己内省の程度により採点させていただきます。</p> <p>A10 点 B7 点 C4 点 D1 点の 4 段階評価として、下記基準にて評価します。</p> <p>A テーマについて行動・思考・感情についての十分な記載がなされた場合。 B テーマについて行動・思考・感情のいずれか 2 つのみ、もしくは十分な記載がない場合。 C テーマについて行動・思考・感情のいずれか 1 つのみ、もしくは表面的な記載の場合。 D テーマについて記載されているが、文章量が乏しく、自己内省の程度を判断できない場合。</p>			
準備学習など	<p>言語聴覚士・対人援助職にとって、他者の心を理解することは、重要な技術になります。他者理解を深めるために、自己理解を深めてください。</p> <p>国家試験に向けて、過去問の対策も進めて頂ければ幸いです。</p> <p>疑問がありましたら、どんなことでもご質問ください。</p>			
留意事項	特になし			

学科・年次	言語聴覚科 1年	
科目名	生涯発達心理学	
担当者	菅 吉基	
単位数(時間数)	2単位(40時間)	
学習方法	講義	
教科書・参考書	教科書 プリント配布	参考書

授業概要と目的
<p>授業概要</p> <p>臨床心理士・公認心理師資格取得、カウンセリングの実務経験がある者が非常勤講師として、言語聴覚士になるために必要とされる生涯発達心理学の基礎理論と実際を教える。</p> <p>授業目的</p> <p>生涯発達心理学の基礎理論と実際を学ぶことにより、自己理解と他者理解を深めることで、患者の見立てや、対人支援に活かせるようにする。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	「発達心理学概論」 生涯発達心理学とは何かについて理解する。	「オリエンテーション、授業内容の説明」 発達心理学的な考え方を説明できる。	菅 吉基
2	前期	「発達の概念(1)」 発達の規定要因について理解する。	「発達の規定要因についての学説」 Gebell,A. Lorenz,K. Portmann,A. の学説について説明できる。	菅 吉基
3	前期	「発達の概念(2)」 発達研究法について理解する。	「縦断的研究法と横断的研究法」 それぞれの研究法の特徴を説明できる。	菅 吉基
4	前期	「発達の概念(3)」 発達理論について理解する。	「発達段階説」 Erikson と Piaget の発達段階説について説明できる。	菅 吉基
5	前期	「新生児期・乳児期の発達(1)」 知覚・認知の発達について理解する。	「新生児期・乳児期の知覚・認知」 新生児期・乳児期の発達過程、視覚的断崖実験、選好注視法について説明できる。	菅 吉基

6	前期	「新生児期・乳児期の発達 (2)」 運動の発達について理解する。	「新生児期・乳児期の運動の発達」 新生児期のみ見られる、特殊な反射活動について説明できる。	菅 吉基
7	前期	「新生児期・乳児期の発達 (3)」 愛着の発達について理解する。	「新生児期・乳児期の愛着」 Bowlby の愛着理論、Ainsworth のストレンジシチュエーション法について説明できる	菅 吉基
8	前期	「乳児期・児童期の発達 (1)」 遊びと認知機能の発達について理解する。	「乳児期・児童期の遊びと認知機能」 Parten の遊びに関する発達段階について説明できる。	菅 吉基
9	前期	「乳児期・児童期の発達 (2)」 自己・他者認知の発達と仲間関係について理解する。	「乳児期・児童期の自己・他者認知と仲間関係」心の理論、ギャングエイジについて説明できる。	菅 吉基
10	前期	「乳児期・児童期の発達 (3)」 保育・学校教育と発達について理解する。	「乳児期・児童期の保育・学校教育」 保育・学校教育の定義を理解し、集団生活での変化や発達について説明できる。	菅 吉基
11	前期	「青年期の発達 (1)」 親子関係・友人関係について理解する。	「青年期の親子関係・友人関係」 青年期での親子・友人の関係性の変化について説明できる。	菅 吉基
12	前期	「青年期の発達 (2)」 自我同一性について理解する。	「自我同一性の確立」 Erikson の自我同一性理論、Marcia の自我同一性地位について説明できる。	菅 吉基
13	前期	「青年期の発達 (3)」 知的機能の発達について理解する。	「青年期の知的機能」 青年期の知的機能の変化・拡大と、仮説演繹的思考について説明できる。	菅 吉基
14	前期	「成人期・老年期の発達 (1)」 職業生活・家族生活について理解する。	「成人期の職業・家族生活」 職業選択や、家庭環境が心理的にどのように影響するのかについて説明できる。	菅 吉基
15	前期	「成人期・老年期の発達 (2)」 エイジングとパーソナリティについて理解する。	「老年期の知的機能」 Cattell の結晶性知能・流動性知能の特性の違いについて説明できる。	菅 吉基

16	前期	「成人期・老年期の発達 (3)」 死への対応について理解する。	「死の受容の過程」 Kubler-Ross の死の受容、5 段階の過程を説明できる。	菅 吉基
17	前期	「発達障害 (1)」 知的障害について理解する。	「知的障害への対応」 知的障害の定義と対応について説明できる。	菅 吉基
18	前期	「発達障害 (2)」 自閉症スペクトラム障害について理解する。	「自閉症スペクトラム障害への対応」 自閉症スペクトラム障害の定義と対応について説明できる。	菅 吉基
19	前期	「発達障害 (3)」 学習障害、注意欠陥多動性障害について理解する。	「学習障害、注意欠陥多動性障害への対応」 学習障害、注意欠陥多動性障害の定義と対応について説明できる。	菅 吉基
20	前期	「科目試験」	「科目試験と解説、まとめ」	菅 吉基
成績評価方法		<p>科目試験にて 100 点満点で、90 点は 5 択の選択問題 10 点は自由記述問題です。 記述問題は自己受容の程度により採点させていただきます。 A10 点 B7 点 C4 点 D1 点の 4 段階評価として、下記基準にて評価します。 A テーマについて行動・思考・感情についての十分な記載がなされた場合。 B テーマについて行動・思考・感情のいずれか 2 つのみ、もしくは十分な記載がない場合。 C テーマについて行動・思考・感情のいずれか 1 つのみ、もしくは表面的な記載の場合。 D テーマについて記載されているが、文章量が乏しく、自己内省の程度を判断できない場合。</p>		
準備学習など		<p>言語聴覚士・対人援助職にとって、他者の気持ちを理解することは、大切な技術になります。 他者理解を深めるために、自己理解を深めてください。 国家試験に向けて、過去問の対策も進めて頂ければ幸いです。 疑問がありましたら、どんなことでもご質問ください。</p>		
留意事項		特になし		

学科・年次	言語聴覚科 1 学年	
科目名	学習・認知心理学	
担当者	堀田 千絵	
単位数（時間数）	2 単位（30 時間）	
学習方法	講義	
教科書・参考書	教科書 心理学 第5版 鹿取広人、杉本敏夫著 東京 大学出版会	参考書

<p>授業概要と目的</p> <p>授業概要</p> <p>知覚・学習・記憶・思考の領域に関するこれまでの実験心理学的研究ならびにそれらに基づいて構築された心理学理論について示す。</p> <p>なお、学習・認知心理学についての研究・教育経験のあるものが講義を担当する。</p> <p>授業目的</p> <p>知覚・学習・記憶・思考の領域に関する指導の基本について理解を深めるために、実験心理学的研究に基づいて構築された心理学理論を理解し、それらに基づいた支援の重要性を認識することができる。</p>
--

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「心理学の視点」 心理学とはどのような学問であるのかについて理解する。	「心理学の視点と基本」 心理学の基本について具体的に述べ、説明することができる。	堀田千絵
2	前期	「学習・認知心理学の位置づけ」 学習認知心理学とは心理学の中のどのような位置づけにあるのか理解する。	「学習認知心理学の位置づけ：心理学の歴史的観点から」 心理学の歴史について何も見ずにその流れを説明できること、その上で学習認知心理学の成り立ちを具体的に説明することができる。	堀田千絵
3	前期	「感覚・知覚(1)」 心理学における感覚・知覚の領域について理解する。	「感覚・知覚の仕組み：感覚の基本的な種類精神物理学的測定法、視知覚系の仕組みについて」 感覚・知覚の仕組みについて、視知覚系の仕組みを説明しながら、その具体的な測定法としての精神物理学の種々の方法を具体例と共に説明することができる。	堀田千絵

4	前期	「感覚・知覚（２）」 心理学における感覚・知覚の領域について理解する。	「感覚・知覚の仕組み：形の知覚、奥行き知覚、運動知覚について」 感覚・知覚の仕組みについて、形、奥行き、運動の観点から、それらを比較しながらその仕組みを具体的に述べることができる。	堀田千絵
5	前期	「学習（１）」 心理学における学習の領域について、主に条件づけの観点から理解する。	「学習の仕組み：古典的条件付けについて」 古典的条件付けの実験手続きを踏まえ、学習の基本的な原理を捉え、人の学習の仕組みに応用しながら何も見ないで説明することができる。	堀田千絵
6	前期	「学習（２）」 心理学における学習の領域について、主に条件づけの観点から理解する。	「学習の仕組み：道具的条件付けについて」 道具的条件付けの実験手続きを踏まえ、学習の基本的な原理を捉え、人の学習の仕組みに応用しながら何も見ないで説明することができる。	堀田千絵
7	前期	「学習（３）」 心理学における学習の領域について、主に技能学習、社会的学習の観点から理解する。	「学習の仕組み：技能学習・社会的学習について」 技能学習、社会的学習における学習の基本的な原理を捉え、人の行動の仕組みを理解し、何も見ないで説明することができる。	堀田千絵
8	前期	「注意」 心理学における認知の領域について、主に注意の観点から理解する。	「注意の仕組み：自動処理と制御処理について」 人の注意の仕組みを理解することで、感覚・知覚に次ぐ重要な処理過程であることについて具体的実験デモンストレーションを体験した上で説明することができる。	堀田千絵
9	前期	「記憶（１）」 心理学における認知の領域について、主に記憶の観点から理解する。	「記憶の仕組み：時間的観点からの理解」 人の記憶の仕組みについて時間的観点（特に、感覚記憶、短期記憶、長期記憶）の観点から何も見ずに説明することができる。ワーキングメモリの必要性についても具体例と共に述べることができる。	堀田千絵

10	前期	「記憶（２）」 心理学における認知の領域について、主に記憶の観点から理解する。	「記憶の仕組み：処理的観点からの理解」 人の記憶の仕組みについて処理的観点（特に、符号化、検索、処理水準）の観点から何も見ずに説明することができる。	堀田千絵
11	前期	「記憶（３）」 心理学における認知の領域について、主に記憶の観点から理解する。	「記憶の仕組み：忘却からの理解」 人の記憶の仕組みについて忘却の観点から、忘却の生起要因について具体的実験手続きと共に、何も見ずに説明することができる。	堀田千絵
12	前期	「記憶（４）」 心理学における認知の領域について、主に記憶の観点から理解する。	「記憶の仕組み：時間、処理を含む総合的な視点で理解する」 人の記憶の仕組みについて、時間、処理、忘却の一連の過程を捉え、多様な観点から何も見ずに説明することができる。	堀田千絵
13	前期	「概念形成・概念獲得」 心理学における認知の領域について、主に概念の観点から理解する。	「概念形成・概念獲得の過程について」 概念形成並びに概念獲得の過程について、逆転学習と非逆転学習の具体的実験に基づき発達的な観点を踏まえながら具体的に説明することができる。	堀田千絵
14	前期	「思考・知能・推論・問題解決」 心理学における認知の領域について、主に思考・知能・推論・問題解決の観点から理解する。	「思考・知能の仕組みについて」 知能のとらえ方や発達的な観点からとらえた知能の定義の変遷、推論のタイプ、問題解決にかかわる妨害要因について何も見ずに説明することができる。	堀田千絵
15	前期	「まとめと評価（科目試験）」 科目試験とまとめで学習・認知心理学の全概要を理解する。	「学習認知心理学全体の振り返りと評価（科目試験）」 学習・認知心理学の各領域のポイントと領域間の流れを何も見ずに具体的に述べる ことができる。	堀田千絵
成績評価方法		学科試験にて100点満点で60点は多肢選択方式、語句の穴埋め、40点は記述式です。記述式は誤字脱字、必要な語が含まれない場合に減点する方式で採点します。		
準備学習など		言語聴覚士にとって学習・認知心理学は必要不可欠な知識になります。臨床で役立つ内容にしていますので積極的に取り組んでください。疑問があればどんどん質問してください。		
留意事項		特になし		

学科・年次	言語聴覚科・1年次
科目名	心理測定法
担当者	長橋 宙夢
単位数(時間数)	1単位(30時間)
学習方法	講義(一部, 演習と実習)
教科書・参考書	教科書: なし 参考書: 「心理測定法への招待-測定から見た心理学入門」サイエンス社

授業概要と目的	
<p>授業概要: 心理学はしばしば「人間を含む生活体がどのような状況の下で、どのように行動するかを客観的に記述し、生活体の行動を理解し、予測し、統御するための行動の法則を求める科学」と定義される。ここでは心の科学としての心理学のその研究対象や方法について概説する。なお、心理測定法について研究経験のあるものが講義を担当する。</p> <p>授業目的: 本講座では、日常における事象を心理学的観点から理解する力、およびその事象を測定するための手法を理解し修得することを目的とする。</p>	

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	通年	「イントロダクション」 一般目標: 本講義の目標および評価方法を理解する	「心理学, 心理測定法について学ぶ」 到達目標: なぜ心理測定法が重要か, 心理学的観点にもとづき, 他の人に説明できる	長橋 宙夢
2	通年	「心理測定法の概観」 一般目標: 心理測定法の内容およびその目的を理解する	「代表的な心理測定法について学ぶ」 到達目標: 心理学の代表的な研究例, 心理的測定法の主要法を挙げることができる	長橋 宙夢
3	通年	「心理統計の基礎」 一般目標: 心理統計に用いられる初歩的な用語を理解する	「初歩的な統計用語について学ぶ」 到達目標: 平均値や分散, 標準偏差, 相関などの統計用語について, 具体的な例を示しながら説明できる	長橋 宙夢
4	通年	「テスト理論」 一般目標: 古典的テスト理論の特徴や重要概念について理解する	「古典的テスト理論について学ぶ」 到達目標: 古典的テスト理論の重要性, および信頼性・妥当性の違いについて説明でき	長橋 宙夢

			る。信頼性の測定法・妥当性の種類について挙げるができる	
5	通年	「精神物理学」 一般目標：精神物理学がどのような学問体系か、および精神物理学における測定法を理解する	「精神物理学における重要用語と閾値の測定法について学ぶ」 到達目標：精神物理学における重要用語について説明できる。特に、閾値の各測定方法について、他の方法との類似点・相違点を示しつつ説明できる。	長橋 宙夢
6	通年	「実験法の概説」 一般目標：実験法の特徴と実験法で用いられる用語を理解する	「実験法の特徴、長所・短所について学ぶ」 到達目標：実験法の特徴、および長所と短所について説明できる	長橋 宙夢
7	通年	「実験法の実習」 一般目標：実験法の枠組みにもとづき、具体的な研究計画を構想する	「具体的な実験計画を立案する」 到達目標：独立変数と従属変数を定める形で、複数の実験計画を考案できる	長橋 宙夢
8	通年	「調査法の概説」 一般目標：調査法の特徴および実験法で用いられる用語を理解する	「調査法の特徴、長所・短所について学ぶ」 到達目標：調査法の特徴、および長所と短所について、既習の実験法と対比しながら説明できる	長橋 宙夢
9	通年	「調査法の実習」 一般目標：調査法の枠組みのもとづき、具体的な質問項目を作成する方法を修得する	「調査法で用いる質問項目の作成について学ぶ」 到達目標：測定したい心理的概念に相応しい質問項目を複数考案することができる	長橋 宙夢
10	通年	「観察法の概説」 一般目標：観察法の特徴および実験法で用いられる用語を理解する	「観察法の特徴、長所・短所について学ぶ」 到達目標：観察法の特徴、および長所と短所について、既習の実験法・調査法と対比しながら説明できる	長橋 宙夢
11	通年	「観察法の実習」 一般目標：観察法の枠組みにもとづき、人の行動を測定する方法を修得する	「観察法で用いる行動指標の測定手法について学ぶ」 到達目標：測定したい心理的概念に相応しい行動指標を考案することができる	長橋 宙夢

12	通年	「その他の測定法」 一般目標：検査法，面接法などの測定法の特徴および実験法で用いられる用語を理解する	「検査法・面接法の特徴，長所・短所について学ぶ」 到達目標：検査法・面接法の特徴，および長所と短所について，既習の測定法と対比しながら説明できる	長橋 宙夢
13	通年	「心理統計の応用」 一般目標：心理統計に用いられる応用的な用語を理解する	「応用的な統計用語について学ぶ」 到達目標：各統計的分析手法と，それが適用可能なデータ・仮説を正しく組み合わせることができる	長橋 宙夢
14	通年	「まとめと国家試験対策」 一般目標：国家試験に頻出される範囲の事項について理解する	「精神物理学，尺度，信頼性・妥当性について学ぶ」 到達目標：精神物理学，尺度，信頼性・妥当性について説明できる。国家試験過去問のうち，これらを含む典型的な問題に正解できる	長橋 宙夢
15	通年	「評価と解説（まとめ）」 一般目標：試験を通して，自身の理解度を確認し，今後の学習方針を定める	「科目試験」 到達目標：規程の点数をクリアする。テストの振り返りを受講し，今後の学習方針を立てる	長橋 宙夢
成績評価方法	科目試験（100%）			
準備学習など	予習復習に努めること。特に，本講座は国家試験の該当範囲のため，講義で学んだ内容に関する範囲の過去問を解いてみるなどの復習を積極的に行うと効果的と思います			
留意事項	講義が中心ですが，ほとんどの授業においてグループワークを設けます。グループワークに積極的に取り組んで，授業内容に関する興味と理解を深めてください。			

学科・年次	言語聴覚科 1 学年	
科目名	言語学	
担当者	久保田樹	
単位数（時間数）	2 単位（40 時間）	
学習方法	講義	
教科書・参考書	教科書	参考書 佐久間淳一，町田健，加藤重広『言語学入門－これから始める人のための入門書－』研究社

授業概要と目的
<p>授業概要</p> <p>言語類型論，音声学，音韻論，形態論，統語論，意味論，社会言語学，文字論，語用論，日本語文法といった幅広い言語学の幅広い諸分野を学ぶ。なお、言語学についての研究・教育経験のあるものが講義を担当する。</p> <p>目的</p> <p>身につけた言語に対する個々の知識を総合し，人間の言語の本質を理解する。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「言語学概論」 人間の言語の役割と特徴を理解する。	「人間言語に共通する特徴」 全言語に共通の特徴，人間の言語と動物の「言語」との違いを説明することができる。	久保田樹
2	前期	「言語類型論」 言語の系統，言語類型において日本語を位置づける。	「世界の言語と日本語」 系統や複数の文法的特徴による分類において，日本語がどのタイプか言える。	久保田樹
3	前期	「音声学」 国際音声字母に慣れ，音声器官や構音法の種類を知る。	「日本語の調音音声学」 日本語のすべての音について，構音位置，構音法，有声か無声かを正しく言える。	久保田樹
4	前期	「音韻論」 音声学と音韻論の違いを理解し，日本語の音韻体系を把握する。	「音韻体系，日本語のアクセント」 日本語の語のモーラ数／音節数が数えられ，どのアクセントパターンか判別できる。	久保田樹

5	前期	「形態論①」 形態素の種類や語の内部構造を知る。	「日本語の語」 日本語の語の内部構造の特徴について修得し、形態素数を数えることができる。	久保田樹
6	前期	「形態論②」 合成語、複合語といった語形成について理解を深める。	「日本語の複合語」 日本語の複合語についてそのパターンを峻別することができる。	久保田樹
7	前期	「形態論③」 日本語の語彙の種類とそれぞれの特徴、品詞を理解する。	「語種、項」 動詞が1項なのか2項なのか3項なのか、形容詞が1項なのか2項なのか判断できる。	久保田樹
8	前期	「統語論①」 日本語の文の内部構造を考察する。	「直接構成素分析、従属節」 文の構造を[]を使って表すことができる。従属節の始まりを指摘できる。	久保田樹
9	前期	「統語論②」 意味役割、文法関係、格、情報構図という各レベル内の分類を把握する。	「項と述部の関係」 特に、格助詞「が」と副助詞「は」の違いを明確に述べることができる。	久保田樹
10	前期	「中間まとめ」 第9回までの内容を振り返り、疑問点を解決する。	「第1回～第9回の復習」 これまでに得た知識を活用して国家試験過去問が解ける。	久保田樹
11	前期	「意味論①」 意味の分析法、語の意味関係にどのようなものがあるかを修得する。	「語とその意味」 語同士の意味関係を指摘できる。語のペアが同音異義語なのか多義語なのか判別できる。	久保田樹
12	前期	「意味論②」 比喻の種類を把握する。語の連なりに意味的制約があることに気づく。	「比喻、語の連なり」 比喻を、直喩、隠喩、換喩、提喩に分類できる。	久保田樹
13	前期	「語用論」 文脈を意識し、文そのままの意味で発話されていない場合があることを認識する。	「発話の意味」 意味論的意味と語用論的意味の違いを正確に述べることができる。	久保田樹
14	前期	「敬語」 待遇表現としての日本語の敬語の分類を理解する。	「日本語の敬語体系」 敬語表現の種類を分類できる。特に謙譲語と丁重語を区別できる。	久保田樹

15	前期	「社会言語学・文字論」 ことばのバリエーション、文字の特性と種類を把握する。	「社会方言、日本語の文字」 社会方言にどのようなものがあるか列挙できる。漢字、カタカナ、平仮名の各特徴を説明することができる。	久保田樹
16	前期	「テンス・アスペクト」 動詞範疇の種類を覚える。日本語における過去／非過去、完了／未完了の違いを押さえる。	「過去／非過去、完了／未完了」 「～タ」「～テイル」が文中においてどのような意味用法で用いられているか言える。	久保田樹
17	前期	「ヴォイス・モダリティ」 日本語のヴォイスとモダリティにどのようなものがあるかを理解する。	「受身、可能、自発、使役」 「～レル」という形式が「ら抜き」なのかどうか判別できる。直接受身と間接受身を区別できる。	久保田樹
18	前期	「その他の日本語文法」 音便、助詞、オノマトペ、連体修飾、動詞の活用の種類を修得する。	「連体修飾の種類」 連体修飾が外の関係なのか内の関係なのか、制限的連体修飾なのか非制限的連体修飾なのか識別できる。	久保田樹
19	前期	「まとめ」 第11回から第18回までの内容を振り返り、疑問点を解決する。	「第11回～第18回の復習」 カタカナの言語学用語を聞いてその意味が正しく分かる。国家試験過去問が解ける。	久保田樹
20	前期	「学科試験、解説」	「学科試験、解説」	久保田樹
成績評価方法		学科試験 100%。国試と同形式の5択。		
準備学習など		特になし		
留意事項		特になし		

学科・年次	言語聴覚科 1 学年	
科目名	音声学	
担当者	橋本 慎吾	
単位数 (時間数)	2 単位 (60 時間)	
学習方法	講義	
教科書・参考書	教科書 なし	参考書 『言語聴覚士のための基礎知識 音声学・言語学』医学書院

授業概要と目的
<p>授業概要</p> <p>言語聴覚士に必要な日本語音声に関する知識、特に構音に関する知識を身につける。</p> <p>なお、音声学についての研究・教育経験のあるものが講義を担当する。</p> <p>授業目的</p> <p>私たちが普段使っている日本語の音声コミュニケーションに関する理解を深め、日本語の音声的側面について客観的に考察することができるようになる。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「子音の構音特性 1: 構音器官と構音点」 言語音の発音を理解するために「構音」について学ぶ	「構音点について」 「パ・タ・カ」をどのように発音しているかが説明できる。	橋本 慎吾
2	前期	「子音の構音特性 2: 破裂音・摩擦音・鼻音」 言語音の発音を理解するために「構音」について学ぶ	「構音法について」 「サ・タ・ナ」をどのように発音しているかが説明できる。	橋本 慎吾
3	前期	「子音の構音特性 3: その他の音」 言語音の発音を理解するために「構音」について学ぶ	「構音法について」 「ヤ・ラ・ワ」などをどのように発音しているかが説明できる	橋本 慎吾
4	前期	「母音の構音特性」 言語音の発音を理解するために「構音」について学ぶ	「母音の構音特性について」 子音と母音の違いを理解し、母音をどのように発音しているかが説明できる	橋本 慎吾

5	前期	「日本語の母音」 言語音の発音を理解するために 「構音」について学ぶ	「日本語5母音の構音特性について」 「アイウエオ」をどのように発音しているか が説明できる。	橋本 慎吾
6	前期	「日本語にない音」 日本語では使わない音があるこ とを学び、音を聞き取るプロセ スについて考察する	「音声と音韻について」 外国語の音を日本語の音としてどのよう に理解しているかが説明できる	橋本 慎吾
7	前期	「音韻論1：音素」 日本語の音韻について学ぶ	「音素について」 日本語の意味理解に必要な音韻とはどのよ うなものかが説明できる。なぜ「タカ」と 「サカ」が違う意味の語だと分かるのかが 説明できる。	橋本 慎吾
8	前期	「音韻論2：異音」 日本語の音韻について学ぶ。	「異音について」 日本語には聞き分けている音と聞き分けて いない音があることが説明できる。	橋本 慎吾
9	前期	「拍」 日本語の音の単位である拍につ いて学ぶ	「拍について」 日本語の音を子音母音ではなく拍で捉えて いることが説明できる。	橋本 慎吾
10	前期	「拍と音節」 言語の音の単位である音節につ いて学ぶ。また拍と音節の違い について学ぶ	「拍と音節の違いについて」 音節とはどのような単位か、拍とどう違う かが説明できる。	橋本 慎吾
11	前期	「超分節的特徴1：語アクセ ント」 分節音（子音・母音）より大き な範囲で起きる音声現象につ いて学ぶ	「アクセントについて」 「はし」をどのように「箸」「橋」「端」に 言い分けるかが説明できる。	橋本 慎吾
12	前期	「超分節的特徴2：複合アクセ ント」 分節音（子音・母音）より大き な範囲で起きる音声現象につ いて学ぶ	「複合アクセントについて」 「名古屋」と「名古屋市役所」のアクセ ントの違いについて説明できる	橋本 慎吾
13	前期	「超分節的特徴3：イントネ ーション」 分節音（子音・母音）より大き な範囲で起きる音声現象につ いて学ぶ	「イントネーションについて」 文の意味をどのように表しているかが説明 できる。	橋本 慎吾

		て学ぶ		
14	前期	「構音まとめ」 誤った発音の原因を一つ一つの 単音（子音・母音）の構音から 考察する	「子音・母音の構音について」 何も見ずに「パ」の子音と母音の構音特性 を正しく書くことができる	橋本 慎吾
15	前期	「演習」 構音特性、超分節的特徴、音素 と異音などについて演習問題を 解く	「日本語の音声について」 何も見ずに構音特性やアクセント・イント ネーションなどについて正しく説明するこ とができる。	橋本 慎吾
16	前期	「拡大五十音図」 日本語の音韻と音声の対応につ いて学ぶ	「行における異音について」 「サシスセソ」の「シ」のように、同じ 行に異なる子音があることが説明でき る	橋本 慎吾
17	前期	「音声（IPA）表記」 日本語の音を国際音声字母 （IPA）で音声表記することを学 ぶ	「日本語の音声表記について」 「フジサン」を正しく音声表記すること ができる。	橋本 慎吾
18	前期	「二項分類1：弁別的特徴」 音を特徴を基に分類し体系化す ることについて学ぶ	「弁別的特徴について」 なぜ「タカ」と「サカ」が違う意味だと分 かるのかが説明できる。	橋本 慎吾
19	前期	「二項分類2：欠如的対立」 音を特徴を基に分類し体系化す ることについて学ぶ	「二項分類について」 なぜ「タカ」と「サカ」が違う意味だと分 かるのかが説明できる。	橋本 慎吾
20	前期	「子音の音韻論的解釈」 子音を特徴を基に分類し体系化 することについて学ぶ	「子音の二項分類について」 日本語の子音がどのような音韻体系になっ ているかが理解できる。	橋本 慎吾
21	前期	「母音の音韻論的解釈」 母音を特徴を基に分類し体系化 することについて学ぶ	「母音の二項分類について」 日本語の母音がどのような音韻体系になっ ているかが理解できる。	橋本 慎吾
22	前期	「音韻現象1：同化」 環境によって生じる音の変化に ついて学ぶ	「同化について」 なぜ「さんま」と「さんか」の「ん」が異 なる音になるのかが説明できる。	橋本 慎吾

23	前期	「音韻現象2：強化・弱化など」 環境によって生じる音の変化について学ぶ	「音韻現象について」 どのような環境でどのような音の変化が生じるかが説明できる	橋本 慎吾
24	前期	「音韻現象まとめ・副次構音」 環境によって生じる音の変化について学ぶ	「副次構音について」 どのような環境でどのような音の変化が生じるかが説明できる	橋本 慎吾

25	前期	「超分節的特徴と文法」 文の文法構造と韻律との対応について学ぶ	「文法構造と韻律について」 文の文法をどのように音声で表すかが理解できる。	橋本 慎吾
26	前期	「音響音声学1：高さ・長さ」 日本語音声の音響的側面から理解する	「基本周波数について」 音の高さ（基本周波数）が音声とどのように対応しているかが理解できる。	橋本 慎吾
27	前期	「音響音声学2：単音」 日本語音声の音響的側面から理解する	「子音と母音の音響的特徴について」 「アイウエオ」の音響的相違が説明できる。	橋本 慎吾
28	前期	「音響音声学3：構音特性と音響特徴」 日本語音声の音響的側面から理解する	「構音特性と音響特徴の対応について」 破裂音と摩擦音が音響的にどのように違うかが説明できる。	橋本 慎吾
29	前期	「聴覚音声学：音声の知覚」 日本語音声を知覚的側面から理解する	「言語音の知覚について」 「カタ」と「カッタ」をどのように聞き分けているかが理解できる。	橋本 慎吾
30	前期	「定期試験」 科目試験を通して各回の講義内容を理解する。	科目試験の問題を解くことができる。	橋本 慎吾

成績評価方法	学科試験 100%			
準備学習など	言語聴覚士にとって構音などの音声学的知識は必要不可欠です。普段何も考えずに行なっている自分自身の発音を客観的に捉えてみましょう。			
留意事項	特になし			

学科・年次	言語聴覚科 1 学年	
科目名	音響学	
担当者	橋本 慎吾	
単位数 (時間数)	1 単位 (30 時間)	
学習方法	講義	
教科書・参考書	教科書 なし	参考書 『言語聴覚士のための基礎知識 音声学・言語学』医学書院 『言語聴覚士のための音響学』医歯薬出版 『言語聴覚士のための音響学入門』海文堂

授業概要と目的
<p>授業概要</p> <p>言語音声は音であるから、言語的側面だけでなく音の側面の理解も必要になる。この授業では、音の3属性（高さ・大きさ・音色）を基本として、音、特に言語音を音響的に理解することを目指す。</p> <p>なお、音響学についての研究・教育経験のあるものが講義を担当する。</p> <p>授業目的</p> <p>音響知識を学ぶことにより、言語音を音の側面から見るができるようになる。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	「音の3属性・音の高さ」 音の3属性（高さ・大きさ・音色）を理解する	「音の3属性・音の高さ」 音の感覚量（高さ・大きさ・音色）に対応する物理量（周波数など）を理解し、音速・周期・波長の意味が説明できる	橋本 慎吾
2	通年	「音色1：純音と複合音」 複合音（周期複合音と雑音）の特徴を理解する	周期音と非周期音の違いが説明できる。基本周波数とは何かを説明できる。	橋本 慎吾
3	通年	「音色2：スペクトル」 周期複合音の音色を表す倍音構造を理解する	線スペクトルと連続スペクトルの違いが説明できる。スペクトルによって音色を表すことができることを理解する。	橋本 慎吾
4	通年	「共鳴と定常波」 言語音生成の基礎となる共鳴を理解する	定常波（共鳴）の発生条件と、共鳴周波数が計算できる。	橋本 慎吾

5	通年	「閉管の共鳴」 言語音生成の基礎となる閉管 (声道)の共鳴を理解する	人間の声道で起きている共鳴を理解するために、閉管の共鳴の発生条件と共鳴周波数が計算できる。	橋本 慎吾
6	通年	「母音の音響的特徴」 母音の構音特性と音響特徴の対応を理解する	5母音の音響特徴がフォルマント周波数にあることを理解し、音響特徴から母音の特定ができる。	橋本 慎吾
7	通年	「声道フィルタ理論と音源」 言語音生成プロセスを 声帯振動と声道共鳴で理解する	声帯と声道の機能を理解し、母音生成機構 (喉頭原音から母音発生まで)が説明できる。	橋本 慎吾
8	通年	「子音の音響的特徴」 子音生成プロセスと音響特徴の 対応を理解する	スペクトログラムを使って子音の音響特徴 を捉え、破裂音・摩擦音・鼻音の音響特徴 が説明できる。	橋本 慎吾
9	通年	「言語音の音の高さと長さ」 言語音における高さ・長さに関 係する音響特徴を理解する	高さに関する特徴(アクセント・イント ネーションなど)と長さに関する特徴 (拍・特殊拍など)が説明できる	橋本 慎吾
10	通年	「音の大きさ1:強さレベル」	音の大きさをデシベルで表現することの意 味を理解し、強さに基づく強さレベルの計 算ができる。	橋本 慎吾
11	通年	「音の大きさ2:音圧レベル」	音の大きさをデシベルで表現することの意 味を理解し、音圧に基づく強さレベルの計 算ができる。また、強さと音圧の変化の違 いが説明できる。	橋本 慎吾
12	通年	「言語音の音響的特徴」 言語音の特徴に対応する音響特 徴を理解する	分節音の分節的特徴・超分節的特徴など、 言語音を音響の面から説明できる。	橋本 慎吾
13	通年	「音響特徴と知覚」 言語音の知覚に対応する音響特 徴を理解する	言語音の音響特徴が知覚とどのように関係 しているかが説明できる。	橋本 慎吾
14	通年	「デジタル信号処理とサンプリ ング その他」 音のデジタル化を理解する。	言語音に直接関係しない音響的側面が理解 できる。音をデジタル化すること(デジタ ルサンプリング)、屈折や回折などが理解 できる。	橋本 慎吾

15	通年	「学科試験」 科目試験を通して各回の講義内容を理解する。	科目試験の問題を解くことができる。	橋本 慎吾
成績評価方法		学科試験 100%		
準備学習など		少しだけ数学の知識が必要ですが、それが本筋ではありませんので、計算なしでも理解できるように授業を進めていきます。また理解確認のための問題を示しますので、分からないところがあれば質問してください。		
留意事項		特になし		

学科・年次	言語聴覚学科 1 学年	
科目名	聴覚心理学	
担当者	岩月 真也	
単位数 (時間数)	1 単位 (30 時間)	
学習方法	講義	
教科書・参考書	教科書指定なし	参考書 『言語聴覚士のための音響学』、吉田友敬、海文堂など

授業概要と目的
<p>授業概要</p> <p>様々な「音」の聴取に関する実験結果を提示することによって音の認識がいかに行われているかを解説する。</p> <p>なお、聴覚心理学についての研究・教育経験のあるものが講義を担当する。</p> <p>目的</p> <p>人間がどのように日常周りにある「音」を聞き、認識しているかを理解できるようにする。またさまざまな聴取実験・検査等のしくみを音響学的に理解することを目標とする。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	「聴覚心理学とは何か」 聴覚心理学の概要について理解する。	「聴覚心理学と他の分野のかかわりについて」 聴覚心理学と他の分野、殊に音声学と音響学とのかかわりについて理解できるようになる。	岩月 真也
2	通年	「音の強さと大きさ」 音の大きさ強さの関係・違いを理解する。また音の基本的な特徴についても復習をする。	「音とは何か」 音とはどんな実態を持ったものなのかを理解し、大きさと強さの違いについて説明できる。	岩月 真也
3	通年	「音のエネルギーとデシベル」 デシベルという尺度が意味するところを対数の計算から理解する。	「デシベルとは何か」 音の大きさや強さを理解するうえで極めて重要なデシベルについて理解をする。デシベル値はそれ自体は絶対的な音の強さを表すものではないことを説明できる。	岩月 真也

4	通年	「デシベルの基準値 SPL」 音圧レベル (SPL) とはどのようなものかを理解する。	「物理的な尺度となる SPL」 SPL について、音の強さを表す絶対的な尺度であることが説明できる。	岩月 真也
5	通年	「デシベルの基準値聴力レベル (HL) と音の等感曲線」 2つ目のデシベルの基準値である HL の特性を理解する。	「音の等感曲線」 HL にはさまざまな基準があることを理解し、音の等感曲線が読めるようになる。	岩月 真也
6	通年	「デシベルの基準値感覚レベル (SL)」 3つ目のデシベルの基準値である SL について理解する。	「感覚レベルの意味するところ」 聴覚検査などでも多用される SL の理解し、説明できる。	岩月 真也
7	通年	「音の等感曲線と phon」 Phon という尺度を導入する。これがどのような意味を持つのかを理解する。	「phon 尺度」 phon 尺度を使って音の大きさを評価できるようになる。	岩月 真也
8	通年	「フェヒナーの法則」 フェヒナーの法則について理解し、デシベルとの関係を理解する。	「フェヒナーの法則の理解」 人間が多様な量の刺激に反応できるしきりを理解できるようになる。またそれがデシベルとどう関わりがあるかも理解し、説明できる。	岩月 真也
9	通年	「スティーブンスのべき法則」 スティーブンスのべき法則を理解し、フェヒナーの法則との違いが分かるようにする。	「スティーブンスのべき法則と sone 尺度」 フェヒナーの法則とスティーブンスのべき法則の違いを理解でき、sone 尺度が使えるようになる。	岩月 真也
10	通年	「音の高さとオクターブ」 音の高さに関する知覚がどのように行われているかを理解する。	「音の高さとオクターブ」 音の高さに関する概要を理解し、次回以降の知覚の仕組みを理解するうえでの基礎を作ることが出来る。	岩月 真也
11	通年	「mel 尺度」 音の高さの感覚尺度である mel 尺度について理解を深める。	「音の高さの感覚と mel 尺度」 音の高さの感覚と mel 尺度に関して理解し、高さがどのように知覚されているのかを説明できる。その際、大きさの知覚との比較もできるようになる。	岩月 真也
12	通年	「同時マスクング」 同時マスクングについて、理解をする。	「同時マスクングと雑音」 同時マスクングについて理解し、どのような雑音が最も効果的かを判断できるようにする。	岩月 真也

13	通年	「そのほかのマスクング」 その他のマスクング継時マスク ングやカクテルパーティー効果 について理解する。	「マスクングのまとめ」 マスクングについて概要を理解し、心理実 験などで使用できるようにする。	岩月 真也
14	通年	「両耳聴、国試演習」 音を両耳で聞くことのようなこ とが起こるか理解する。国家試験 の問題を解けるようにする。	「両耳聴、国試演習」 両耳加算効果や MLD、ハース効果などを 理解して使えるようにする。また国家試験 の問題演習を通して、全体のまとめをする。	岩月 真也
15	通年	「学科試験」	「学科試験」	岩月 真也
成績評価方法		学科試験による。記述30点程度、選択70点程度。		
準備学習など		本科目と関連の深い音響学および音声学の復習をよくしておくこと。		
留意事項		特になし		

学科・年次	言語聴覚科 1 学年	
科目名	言語発達学	
担当者	久保田 樹	
単位数（時間数）	2 単位（40 時間）	
学習方法	講義	
教科書・参考書	教科書 岩立志津夫ほか（2017）『よくわかる言語発達 改訂新版』ミネルヴァ書房.	参考書

授業概要と目的
<p>授業概要</p> <p>子どもの言語発達について、認知能力や社会性の発達との関係をふまえつつ、その過程と仕組みとを学修する。なお、言語発達学について研究・教育経験のあるものが講義を担当する。</p> <p>授業目的</p> <p>人間の言語発達の特徴を理解することを目指し、乳児期から児童期にかけてのことばに関係する発達について、その出現順序・時期、発達同士の相互関係、発達の要因等を体系的に把握する。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	「母語獲得のゴール」 言語発達学を学ぶにあたって、母語獲得のゴールを理解する。	「母語話者の言語能力」 母語話者の言語能力について、言語能力の性質、種類、状態を具体例とともに説明できるようになる。	久保田 樹
2	通年	「前言語期の発達 1：言語に関する発達」 前言語期の言語的発達について理解する。	「初語出現に至るまでの過程」 誕生から初語出現までの、発声面・言語理解面の発達を時系列に沿って説明できるようになる。	久保田 樹
3	通年	「前言語期の発達 2：認知・社会性の発達」 前言語期の認知・社会性の発達について理解する。	「認知・社会性の発達、言語発達との関連性」 誕生から初語出現までの、認知・社会性に関する発達の順序・時期、また、それらと言語発達との関係について説明できるようになる。	久保田 樹
4	通年	「音声に関する発達」	「音声知覚・産出の発達」	久保田 樹

		音声知覚・産出の発達について理解する。	音声知覚に関しては、生得的特徴、発達の過程、知覚の方略について説明できるようになる。発音に関しては、発達の順序・時期について説明できるようになる。	
5	通年	「語彙に関する発達1：初期の発達」 前言語期、1語期、2語期の語彙発達の特徴について理解する。	「前言語期、1語期、2語期の語彙発達」 前言語期に関しては、理解語彙の特徴について説明できるようになる。1語期、2語期に関しては、両時期の語彙発達の特徴について、相違点を明確にしながら説明できるようになる。語彙発達と認知能力・傾向との関係も説明できるようになる。	久保田 樹
6	通年	「語彙に関する発達2：語彙獲得の順序」 語彙獲得の順序・時期、その順序の理由について理解する。	「語彙発達の順序・時期」 大小、多少、高低、長短等に関する語彙、感情に関する語彙、指示語、疑問語などの発達順序・時期について説明できるようになる。また、その順序となる理由についても説明できるようになる。	久保田 樹
7	通年	「文法に関する発達1：発達の過程」 1語期、2語期、そして、その先の文法発達の過程について理解する。	「1語期、2語期、その先の文法発達」 文構成語数増加の過程や、助詞・助動詞の発達過程について説明できるようになる。	久保田 樹
8	通年	「文法に関する発達2：文法の誤用」 助詞の誤用について、その特徴を理解する。	「助詞誤用の特徴」 助詞の誤用について、誤用の多い助詞、誤用の原因、改善の過程などについて説明できるようになる。	久保田 樹
9	通年	「文法に関する発達3：発達鳥瞰」 既学習事項を鳥瞰的な視点から整理・理解する。	「発達過程の全体像」 文法発達の過程の全体像を、音・語彙・認知・社会性に関する発達の過程と併せて把握し、乳幼児期の発達について鳥瞰的な視点をもって説明できるようになる。	久保田 樹
10	通年	「問題演習1：到達度・課題の確認」 問題演習と教員からの解説とをとおして、自らの到達度・課題を確認する。	「既学習事項に関する到達度・課題の確認」 第1回～第9回までの学習事項について、確認問題に取り組み、教員の解説によって復習することで、自らの理解度を把握し、到達度・課題を認識する。	久保田 樹

11	通年	「語用に関する発達」 状況や常識などを考慮に入れて適切に言語を使用・理解する能力の発達について理解する。	「適切な言語使用・理解の発達」 日常の言語使用・理解において状況や常識等を把握することの重要度の高さについて、また、それらを考慮に入れた間接的表現の発達について説明できるようになる。	久保田 樹
12	通年	「談話に関する発達」 会話や語りにおいて適切に話のまとまりを形成する能力の発達について理解する。	「適切な会話、語りの発達」 会話に関する社会的ルールの獲得過程について、また、語りにおける情報提示の発達過程について説明できるようになる。	久保田 樹
13	通年	「読み書きに関する発達」 読み書きの発達、およびそれに関連する認知能力の発達について理解する。	「読み書きの発達、関連能力の発達」 読み書きの兆し、読み書きの発達、関連する認知能力の発達、発達の支援について、発達時期に分けて説明できるようになる。	久保田 樹
14	通年	「メタ言語能力に関する発達」 メタ言語能力とは何か、また、それはどのような行為・事象として現れ、どう発達していくのかについて理解する。	「メタ言語能力の特徴、発達過程」 言語能力とメタ言語能力との違いについて説明できるようになる。また、メタ言語能力の発達時期・段階を事例を用いて説明できるようになる。	久保田 樹
15	通年	「言語獲得理論1：学習論」 言語獲得の仕組みに関する「学習論」の立場について理解する。	「学習論の支持者・主張・問題点」 学習論の代表的な研究者は誰で、何を根拠にどのような主張をしており、その主張に対してどのような問題点が指摘されているかを説明できるようになる。	久保田 樹
16	通年	「言語獲得理論2：生得論」 言語獲得の仕組みに関する「生得論」の立場について理解する。	「生得論の支持者・主張・問題点」 生得論の代表的な研究者は誰で、何を根拠にどのような主張をしており、その主張に対してどのような問題点が指摘されているかを説明できるようになる。	久保田 樹
17	通年	「言語獲得理論3：認知論・社会認知論」 言語獲得の仕組みに関する「認知論・社会認知論」の立場について理解する。	「認知論・社会認知論の支持者・主張」 認知論・社会認知論の支持者とその主張について、主張同士の異同を明確にしながら説明できるようになる。	久保田 樹

18	通年	「言語獲得理論4：まとめ」 各言語獲得理論を俯瞰的に整理・理解する。	「言語獲得理論鳥瞰」 学習論，生得論，認知論・社会認知論の特徴を体系的に把握し，各論の異同について説明できるようになる。	久保田 樹
19	通年	「問題演習2：到達度・課題の確認」 問題演習と教員からの解説とをとおして，自らの到達度・課題を確認する。	「既学習事項に関する到達度・課題の確認」 第1回～第18回までの学習事項について，確認問題に取り組み，教員の解説によって復習することで，自らの理解度を把握し，到達度・課題を認識する。	久保田 樹
20	通年	「科目試験」 科目試験と教員からの解説とをとおして，自らの到達度・課題を確認する。	「最終到達度・課題の確認」 本授業での学習事項について，科目試験の問題に取り組み，教員の解説によって復習することで，自らの理解度を把握し，到達度・課題を認識する。	久保田 樹
成績評価方法	科目試験 100%。国家試験と同形式の5択。			
準備学習など	各回の授業ののち，教科書にて，その回で取り上げたテーマに関連する部分を読んで学習事項の復習を行うこと。			
留意事項	特になし。			

学科・年次	言語聴覚科1年	
科目名	コミュニケーション学	
担当者	西脇 克浩 ・ 大内田 潤子 ・ 百々 加奈子 ・ 天白 陽介	
単位数（時間数）	1単位（15時間）	
学習方法	講義 演習	
教科書・参考書	教科書 PT・OT・STのためのコミュニケーション実践ガイド 第3版	参考書： 指定なし

授業概要と目的	
授業概要 現場で従事した経験を持つ教員が、言語聴覚療法に必要なコミュニケーションに関する知識・技能を伝達する	
授業目的 様々な場面においてのコミュニケーションの方法について学び、実践できるようになる。	

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	医療職を目指す学生が学ぶべきコミュニケーションについて理解する	医療職の特性について知り、心身共に健康な医療者として自分自身が成長するために必要な事柄について学ぶ	大内田 潤子
2	前期	コミュニケーションの基本的知識について学ぶ	コミュニケーションの種類について学び、それぞれの理解を深めると共にコミュニケーション能力は何かを知りその向上のために必要な自身の課題を知る	天白 陽介
3	前期	観察眼を養うため、また良い聞き手になるためにその方策を学ぶ	人を「みる」とはどういうことか、また良い聞き手になるために必要なことは何かを考える	西脇 克浩 大内田 潤子 百々 加奈子 天白 陽介
4	前期	人に伝わる話し方について学ぶ	伝えるとはどういうことか 自分の伝える力はどういうものなのかを演習を通じて学ぶ	大内田 潤子
5	前期	電話や電子メールでのマナーについて学ぶ	電話のかけ方、出かたについてのマナーを具体的に学ぶ ビジネスメールのマナーについて理解する	大内田 潤子

6	前期	スーパーバイザーとのコミュニケーションについて考える	臨床実習でお世話になるスーパーバイザーの先生とのコミュニケーションについて学ぶ	西脇 克浩
7	前期	困ったコミュニケーション事例について考え、対処方法について学ぶ	臨床場面である患者とのコミュニケーションについて、対応しにくい事例について考え対処を学ぶ	西脇 克浩 大内田 潤子 百々 加奈子 天白 陽介
8	前期	科目試験とまとめ	コミュニケーション論にて学習した内容についての科目試験に合格することができる	西脇 克浩
成績評価方法		科目試験は記述式・選択問題で 計100点満点の試験		
準備学習など		特になし		
留意事項		特になし		

学科・年次	言語聴覚科 1年次
科目名	医療福祉教育・関係法規
担当者	中村 浩
単位数（時間数）	1単位（15時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	教科書：新体系看護学全書 関係法規 15版 メヂカルフレンド社

授業概要と目的
<p>授業概要</p> <p>社会生活の中で生活し、活動するために必要な社会的規範について解説する。</p> <p>授業目的</p> <p>医療関係者を目指すものに必須な保健、医療、福祉関係法規の知識を深め理解する。</p> <p>医師がその経験を活かし授業をおこなう</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	「健康支援と法律」 法律の基礎知識を理解する。	「人間生活と法律」 法律の基礎知識を修得し生活と法律を関係づけることができる。	中村浩
2	通年	「関係法規1」 医療職種と医療施設に関する法律について理解する。	「関係法規1」 医療職種と医療施設についての法律を踏まえ説明することが出来る。	中村浩
3	通年	「関係法規2」 疾病予防・健康増進に関する法律について理解する。	「関係法規2」 疾病予防・健康増進に関する各法規について学び生活と関係づけて説明できる。	中村浩
4	通年	「関係法規3」 母子・高齢者・社会福祉及び障害者に関連する法律について理解する。	「関係法規3」 母子・高齢者・社会福祉及び障害者に関連する法律について学び生活と関係づけて説明することが出来る。	中村浩

5	通年	「関連法規4」 医療保険・医薬品・医療機器・食品に関連する法律について理解する。	「関連法規」 母子・高齢者・社会福祉及び障害者に関連する法律について学び生活と関係づけて説明することが出来る。	中村浩
6	通年	「関係法規5」 労働・教育・環境・生活衛生に関連する法律について理解する。	「関係法規5」 母子・高齢者・社会福祉及び障害者に関連する法律について学び生活と関係づけて説明することが出来る。	中村浩
7	通年	「関係法規6」 言語聴覚士法について理解する。	「関係法規6」 言語聴覚士法について理解し具体的に述べる事が出来る。	中村浩
8	通年	「科目試験とまとめ」 科目試験とまとめを通じて関係法規の概要を理解する。	「科目試験とまとめ」 科目試験の問題を解くことが出来る。	中村浩
成績評価方法		科目試験は100点満点で60点以上が合格です。		
準備学習など		生活者の健康を守る大切な法律を十分に理解するために、前もって教科書に目を通しておくとよい。		
留意事項		特になし		

学科・年次	言語聴覚科・1年次	開講期間	前期
科目名	言語聴覚障害概論		
担当者	百々 加奈子 諸橋 麻衣子		
単位数(時間数)	2単位(40時間)	履修方法	講義・演習(一部)
教科書・参考書	小児:「最新言語聴覚講座 言語発達障害学」医歯薬出版		

授業概要
<p>言語聴覚障害の全体像および言語聴覚士の職務・倫理・法的基盤を理解する。言語とコミュニケーション、摂食嚥下の生物学的基盤を理解した上で、多様な障害の種類、原因、およびそれらに対する言語聴覚療法の概要を学ぶ。また、本校言語聴覚科が開催する「脳の健康教室」において、地域の高齢者とのコミュニケーション機会を設ける。</p> <p>なお、成人領域は言語聴覚士として急性期・維持期病院、訪問看護ステーションで臨床経験のあるものが講義を担当し、小児領域は言語聴覚士として児童発達支援センターで臨床経験のあるものが講義を担当する。</p>
授業の目的(意義)
<p>本科目は、言語聴覚士や言語聴覚障害の基礎を学ぶ入門編となる。</p> <p>言語聴覚士として求められる専門的役割および倫理・法的責任を理解し、多様な障害への言語聴覚療法の基本的アプローチを理解することを目的とする。また、言語聴覚障害の全体像を体系的に理解し、各専門科目の修得に向けた足掛かりとしていく。</p>
関連する学科のDP
<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験に合格できる知識を身に付けている ・言語聴覚士としての専門的な知識をもち、根拠に基づいた言語聴覚療法を実践できる ・専門家としての自覚をもち、常に学び続ける意識をもつ ・相互理解を深め、チーム医療の一員として多職種連携に貢献する

回 (コマ)	「授業項目」(单元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	「言語聴覚士について」 言語聴覚士の役割と専門的対応の多 面性を理解する。	「言語聴覚士について①」 言語聴覚士の役割や専門の多様さについて、自 分なりの考えを持つことができる。	百々加奈子 諸橋麻衣子
2		「言語聴覚士について②」 言語聴覚士の役割について、疑似体験を通して 理解する。	百々加奈子 諸橋麻衣子

3		「言語聴覚士について③」 言語聴覚士の職務や言語聴覚療法の歴史について理解する。	諸橋麻衣子
4	「言語聴覚士について」 言語聴覚士の役割と専門的対応の多面性を理解する。	「言語聴覚士について④」 言語聴覚士の職業倫理やリスクマネジメント、多職種連携および ICF について理解することができる。	百々加奈子
5	「言語とコミュニケーション」 言語・コミュニケーションについて学ぶ。	「言語とコミュニケーション」 言語やコミュニケーションについて理解でき、その機能や手段などがわかる。	諸橋麻衣子
6	「ことばのメカニズム」 ことばの生成に必要な生理学的器官とそのメカニズムについて理解する。また、脳と神経系の構造についても併せて理解する。	「ことばのメカニズム」 発声発語器官の解剖およびそれに関連する神経系の構造について整理し、説明することができる。	百々加奈子
7	「きこえのメカニズム」 音が聞こえるしくみを学ぶ。	「聴覚機構」 音が聞こえるしくみを理解し、説明することができる。	諸橋麻衣子
8	「言語・認知系の障害（小児）」 小児期にみられる言語・認知系の障害について、障害の種類、それぞれの特徴を学ぶ。	「小児の言語・認知系の障害」 小児期にみられる言語・認知系の障害について、障害の種類、それぞれの特徴が理解できる。	諸橋麻衣子
9	「言語・認知系（成人）①高次脳機能障害」 成人期にみられる言語・認知系の障害における高次脳機能障害について、その障害の種類および特徴を学ぶ。	「成人の言語・認知系の障害①」 成人期にみられる言語・認知系の障害における高次脳機能障害について、その障害の種類および特徴を理解し、説明することができる。	百々加奈子
10	「脳健康教室①」 地域の高齢者とのコミュニケーションにおける留意点、伝わりあうための工夫を学ぶ。	「脳健康教室①」 地域の高齢者とのコミュニケーションにおける留意点や伝わりあうための工夫が理解できる。また、目的をもってレクリエーションを企画することができる。	百々加奈子

11	「脳健康教室②」 実際の脳健康教室に参加する。 相手を意識したコミュニケーション を理解する。	「脳健康教室②」 実際の脳健康教室に参加し、地域の高齢者や 集団を意識したコミュニケーションを 実践できる。	百々加奈子
12	「言語・認知系（成人）②失語症」 成人期にみられる言語・認知系の障 害における失語症について、その障 害の種類および特徴を学ぶ。	「成人の言語・認知系の障害②」 成人期にみられる言語・認知系の障 害における失語症について、その障 害の種類および特徴を理解し、説明 することができる。	百々加奈子
13	「発声発語（小児）」 小児期にみられる発話障害、吃音・流 暢性障害について、障害の種類、そ れぞれの特徴が理解できる。	「小児の発声発語系の障害」 小児期にみられる発話障害、吃音・流 暢性障害について、障害の種類、そ れぞれの特徴が理解できる。	諸橋麻衣子
14	「発声発語（成人）」 成人期にみられる音声障害および構 音障害について、障害の種類および 特徴を学ぶ。	「成人の発声発語系の障害」 成人期にみられる音声障害および構 音障害について、障害の種類および 特徴を理解し、説明することができる。	百々加奈子
15	「聴覚（小児・成人）」 聞こえの障害の種類とその特徴、お よび聴覚補償機器について学ぶ。	「聴覚障害」 聞こえの障害の種類とその特徴につ いて理解できる。また聴覚補償機 器にはどんなものがあるかが列挙 できる。	諸橋麻衣子
16	「摂食嚥下」 摂食嚥下器官の解剖および神経機 構について理解し、「食べる仕組み」と 「食べられなくなる仕組み」につ いて学ぶ。	「摂食嚥下障害」 摂食嚥下器官の解剖および神経機 構について理解し、「食べる仕組み」と 「食べられなくなる仕組み」につ いて理解し、説明することができる ようになる。	百々加奈子
17	「脳健康教室③」 地域の高齢者とのコミュニケーション における留意点、伝わりあうた めの工夫を学ぶ。	「脳健康教室③」 前回の情報をもとにし、具体的な課 題を設定し、指導計画に反映させ ることができる。	百々加奈子
18	「脳健康教室④」 実際の脳健康教室に参加する。 相手を意識したコミュニケーション を理解する。	「脳健康教室④」 実際の脳健康教室に参加し、地域の 高齢者や集団を意識したコミュニ ケーションを実践できる。	百々加奈子
19	「体験の振り返り」 コミュニケーションや言語聴覚療 法の視点で脳健康教室を振り返る。	「学びの振り返り」 第1回～18回までの内容を振り返 り、教員によるまとめおよび解説 を行い、知識の確認をする。	諸橋麻衣子 百々加奈子

	「学びの振り返り」 第 1 回～18 回までの内容を振り返り、知識の確認、疑問点を整理する。		
20	「まとめと科目試験」 科目試験を通して、講義内容の理解度を確認する。	「まとめと科目試験」 講義の内容を理解し、科目試験の問題を解くことができる。	諸橋麻衣子
成績評価方法	<p>最終講義にて筆記試験（100 点）を行い、60 点以上を合格とする。</p> <p>筆記試験は、選択式および記述式（穴埋め・論述による説明）による回答で行う。論述による説明は減点方式により採点し、誤字や脱字・必要な語が含まれていない・要点を押さえられていない場合に減点とする。</p> <p>講義の 2/3 以上の出席をもって科目試験の受験を可能とする。</p>		
準備学習/事後学習	<p>準備学習：特にありません。</p> <p>事後学習：各論の前に該当箇所の復習をしておくが良いと思います。</p>		
関連科目	<p>「言語聴覚障害概論」⇒「言語聴覚障害診断学Ⅰ」「言語発達障害Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「失語症Ⅰ」「構音障害Ⅰ」「嚥下障害Ⅰ」「聴覚障害Ⅰ」「音声障害」</p>		
その他（履修者へのアドバイス等）	<p>わからない点があれば積極的に質問に来てください。</p>		

学科・年次	言語聴覚科 ・1年次	開講期間	前期
科目名	言語聴覚障害診断学Ⅰ（小児）		
担当者	大内田 潤子		
単位数（時間数）	1単位（30時間）	履修方法	講義・演習（一部）
教科書・参考書	教科書 最新言語聴覚障害学 言語発達障害学 医歯薬出版株式会社		

授業概要
<p>相談から評価、評価後の言語訓練、訓練開始時の課題設定までを1つの流れとしてイメージし、評価の重要な指標である検査法について学ぶ。</p> <p>なお言語聴覚士として、小児の臨床経験のあるものが授業を担当する</p>
授業の目的（意義）
<p>実際の検査器具を使用し、実施の手順、採点、結果の読み取り方を理解し、総合的な評価につなげることを目的とする。評価方法を通して、言語発達障害の評価へと繋げる</p>
関連する学科のDP
<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験に合格できる知識を身に着けている ・言語聴覚士としての専門的な知識をもち、根拠に基づいた言語聴覚療法を実践できる ・正確な評価技術を身に着け、効果的なりハビリテーションを実践する ・専門家としての自覚をもち、常に学び続ける意識をもつ

回 (コマ)	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	「評価」 評価の目的、観点、標準化について学ぶ	「評価の目的について」 評価の目的、観点がわかり、評価に必要な信頼性、妥当性について説明できる	大内田 潤子
2	「評価の手順」 評価の手順、バッテリーの組み方について学ぶ	「評価の手順と検査バッテリーについて」 評価の手順、バッテリーの組み方について説明できる	大内田 潤子
3	「発達検査」 新版 K 式発達検査の概要を理解する	「新版 K 式発達検査の概要について」 下位検査の構成を説明できる マニュアルを使用して結果の採点ができる	大内田 潤子
4	「発達検査」 新版 K 式発達検査の結果の読み取りができるようになる。	「新版 K 式発達検査の結果について」 マニュアルを使用して結果の採点ができる。結果から子どもの発達の様子を説明できる。	大内田 潤子

5	「その他の発達検査」 発達検査を知る 各検査の測定しているものを理解する	「その他の発達検査について」 発達検査の名前を列挙できる 各検査の結果の読み方を説明できる	大内田 潤子
6	「知能検査①」 田中ビネー知能検査の概要を理解する	「田中ビネー知能検査について」 目的、対象年齢、結果の数値の意味、検査の構成が説明できる	大内田 潤子
7	「知能検査②」 ウェクスラー式知能検査の概要を理解する	「ウェクスラー式知能検査について」 目的、対象年齢、結果の数値の意味、検査の構成が説明できる。	大内田 潤子
8	「その他の知能検査」 知能検査を知る 各検査の測定しているものを理解する	「その他の発達検査について」 知能検査の名前を列挙できる 各検査の結果の読み方を説明できる	大内田 潤子
9	「学習・認知検査①」 DN-CAS の概要を理解する	「DN-CAS について」 目的、対象年齢、結果の数値の意味、検査の構成が説明できる。	大内田 潤子
10	「学習・認知検査②」 KABC-II の概要を理解する	「KABC-II について」 目的、対象年齢、結果の数値の意味、検査の構成が説明できる。	大内田 潤子
11	「言語検査」 PVT-R の概要を理解する	「PVT-R 検査について」 目的、対象年齢、結果の数値の意味、検査の構成が説明できる。	大内田 潤子
12	「検査の実施演習①」 WISC-V の検査の手順を確認する。また結果に基づいた採点を学ぶ	「検査の実施について」 WISC-V をマニュアルを見ながら実施できる。 結果のまとめができる	大内田 潤子
13	「検査の実施演習②」 DN-CAS・KABC の手順を確認する。また結果に基づいた採点を学ぶ	「検査の実施について」 DN-CAS・KABC をマニュアルを見ながら実施できる。 結果のまとめができる	大内田 潤子
14	「評価のまとめ」 検査結果をもとに、評価のまとめ方を学ぶ	「評価のまとめ」 検査結果をもとに総合評価をまとめることができる	大内田 潤子

15	「まとめ・科目試験」	「まとめ・科目試験」	大内田 潤子
成績評価方法	<p>出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。</p> <p>最終講義にて筆記試験（100 点）を行い、60 点以上を合格とする。</p>		
準備学習/事後学習	<p>準備学習：「言語聴覚障害概論」の資料を見直しておくこと。</p> <p>事後学習：学習した検査を種類ごとの表を作成し、整理する。</p>		
関連科目	「言語聴覚障害概論」「言語発達障害 I・II・III・IV」		
その他（履修者へのアドバイス等）	言語発達障害の評価の主要となる科目です。少し複雑とは思いますが、わからないことは積極的に質問してください。		

学科・年次	1年次	開講期間	後期
科目名	言語聴覚療法管理学		
担当者	鬼頭司		
単位数（時間数）	30時間(15コマ)	履修方法	講義・筆記試験
教科書・参考書	標準言語聴覚障害学 言語聴覚療法管理学		

授業概要
<p>組織・マネジメントといった管理学の基本的な事項から、保険・医療・福祉を取り巻く諸制度、職業倫理、言語聴覚療法業務のマネジメント、言語聴覚士のキャリア教育、マネジメントの実際といった内容を講義形式で行う。</p> <p>なお、言語聴覚士として現在も臨床現場で経験を続けているものが授業を担当する。</p>
授業の目的（意義）
<p>超後期高齢者社会を迎え、多くの医療提供施設、介護保険事業所など多様な働き方をするようになり、複数の言語聴覚士がチームを形成し組織的に働くことが求められるようになってきている。そのために基本的事項の理解とともに、多くの関係者との連携の重要性、職場や地域におけるチーム運営のためのマネジメント力を身につけることが要求されているため、その成り立ちや制度などを学ぶことを目的とする。また諸制度などの理解を深めることで臨床現場に出た際の自らの働き方の参考に繋げられたらと思う。</p>
関連する学科の DP
<ul style="list-style-type: none"> ・ 国家試験に合格できる知識を身に着けている ・ 言語聴覚士としての専門的な知識をもち、根拠に基づいた言語聴覚療法を実践できる ・ 専門家としての自覚をもち、常に学び続ける意識をもつ ・ 相互理解を深め、チーム医療の一員として多職種連携に貢献する

回 (コ マ)	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	オリエンテーション 管理学総論 管理マネジメントの概念、流れ 提供の流れ	言語聴覚障害管理学総論について学び組織とマネジメントの関係や他職種連携、組織の中でのSTの役割を学ぶ	鬼頭 司
2	言語聴覚療法に関連する制度と法律(1) 社会保障制度と法律の概要	社会保障制度の全体像と関連する法律等について学ぶ	鬼頭 司

3	言語聴覚療法に関連する制度と法律(2)医療・介護を取り巻く諸制度について	医療保険制度 介護保険制度とその仕組みについて学ぶ	鬼頭 司
4	言語聴覚療法に関連する制度と法律(3)福祉、保健医療、公衆衛生に関する諸制度について	障害者福祉制度、保健医療と公衆衛生について学ぶ	鬼頭 司
5	言語聴覚療法に関連する制度と法律(4)医療介護福祉領域の視覚と言語聴覚士法について	医療 介護 福祉従事者の資格法 言語聴覚士の業務と資格法について学ぶ	鬼頭 司
6	生命倫理、職業倫理、研究倫理について	人間の尊厳、自己決定の権利、医療倫理の4原則と研究倫理等について学ぶ	鬼頭 司
7	医療・介護・福祉分野における業務マネジメント (1) 診療情報 診療記録 情報の取り扱いについて	診療情報 個人情報の取り扱い 診療記録 関連帳票 言語聴覚士の業務に関わりのある福祉サービス等	鬼頭 司
8	医療・介護・福祉分野における業務マネジメント (2) 診療報酬 介護報酬制度	診療報酬について 言語聴覚療法の対象疾患 基本診療料の施設基準	鬼頭 司
9	医療・介護・福祉分野における業務マネジメント (3) 介護報酬 障害福祉サービス等報酬	介護報酬の概要 支払いの流れ 介護サービスの種類と施設基準 法律に基づく給付・事業等	鬼頭 司
10	医療・介護・福祉分野における業務マネジメント (4) 言語聴覚療法を提供する組織、提供の流れ	フォロワーシップ リーダーシップ 目標設定 人事考課 専門職のインセンティブ ストレスチェック 後輩育成 等	鬼頭 司
11	リスク管理 危機管理について	リスク管理 有害事象 医療事故 安全管理推進のためのガイドライン 業務におけるリスク管理 等	鬼頭 司
12	キャリア形成について	養成教育 指定規則 教員および学生とのマネジメント 国家試験受験 生涯教育のマネジメント 等	鬼頭 司

13	他職種連携について	他職種連携 チーム医療について学ぶ	鬼頭 司
14	言語聴覚士として果たすべき社会的役割について	地域包括ケアシステム 介護予防 災害リハビリテーション 職能活動（日本言語聴覚士会）等	鬼頭 司
15	科目試験とまとめ	言語聴覚療法管理学の科目試験を実施する	鬼頭 司
成績評価 方法	講義の 2/3 以上の出席を持って試験の受験を可とする 最終講義の際に講義で行った内容を中心に筆記試験を行い、60%以上の得点をとったものを合格とする。		

準備学習/事後学習	準備学習：参考書・講義で提供した資料を見直しておく 事後学習：理解がより深まるように関連教科と照らし合わせて復習、ノートにまとめるなど国家試験に向けて自分なりに資料をまとめて、自ら説明できるようにする。
関連科目	地域言語聴覚療法
その他（履修者へのアドバイス等）	時代に合わせて様々な制度やニーズがあるため、自らの選択肢や働き方を決められるように理解を進めていただけたらと思います。内容が難しく学生の内には必要ない知識もあるかもしれませんが現場に出ると、改めて重要なことであると実感できることが多いです。できる限り退屈にならないように進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。

学科・年次	言語聴覚科 1学年	
科目名	失語症 I (基礎理論・訓練理論)	
担当者	辰巳 寛	
単位数 (時間数)	2単位 (40時間)	
学習方法	講義・演習	
教科書・参考書	教科書 標準言語聴覚障害学 失語症 藤田 郁代 医学書院	参考書

授業概要と目的
<p>授業概要</p> <p>言語聴覚士として失語症リハビリテーション経験のある教員がその経験を踏まえ、一般の臨床現場で行われている機能評価、治療プログラムの立案、およびリハビリテーションの実際まで指導する。</p> <p>授業目的</p> <p>臨床失語症学に関する基本的知識を習得し、臨床現場で必要な評価法と鑑別法、および治療法についての基礎を身につける。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	「脳と言語とコミュニケーション」 大脳と言語機能との関連について理解する。	「脳の局在と言語機能」 大脳半球の機能局在を理解し、脳と言語との関係性について説明できる。	辰巳 寛
2	通年	「失語症の定義」 失語症について理解する。	「失語症の理解」 失語症とは何か、簡単に説明できる。	辰巳 寛
3	通年	「失語の歴史」 臨床失語症の歴史を理解し、現在の失語学の問題を理解する。	「失語の歴史」 失語症の古典論を説明できる。	辰巳 寛
4	通年	「失語症の言語症状」 失語症による言語症状の数々について理解する。	「失語症の言語症状」 失語症によって出現する様々な言語症状について説明できる。	辰巳 寛
5	通年	「失語症タイプ分類1」 古典論的失語分類について理解する。皮質性失語編	「失語症タイプ分類」 Broca および Wernicke 以来の古典論的失語分類について説明できる。	辰巳 寛

6	通年	「失語症タイプ分類2」 古典論的失語分類について理解する。超皮質性失語編	「失語症タイプ分類」 Broca および Wernicke 以来の古典論的失語分類について説明できる。	辰巳 寛
7	通年	「失語症の評価1」 失語症の客観的定量的検査 (SLTA など) について理解する。	「失語症の評価」 SLTA の内容および手技について簡単に説明できる。	辰巳 寛
8	通年	「失語症の評価2」 失語症の掘り下げ検査 (Token Test など) について理解する。	「失語症の評価」 失語症の掘り下げ検査の数々について、その内容および手技について簡単に説明できる。	辰巳 寛
9	通年	「失語症の治療1」 失語症のリハビリテーションの基礎について理解する。	「失語症の治療」 一般的な失語リハビリテーションの手法について説明できる。	辰巳 寛
10	通年	「失語症の治療2」 失語症のリハビリテーションの応用的活用について理解する。	「失語症の治療」 失語リハビリテーションの特異的手法について、簡単に説明できる。	辰巳 寛
11	通年	「失語症の訓練計画」 失語症の訓練プログラムの構成について理解する。	「失語症の訓練計画」 失語リハビリテーションのプログラムを立案することができる。	辰巳 寛
12	通年	「失語症における要素症状のアプローチ」 発語失行、錯語症など基本的な要素的失語症状に対するアプローチについて理解する。	「失語症における要素症状のアプローチ」 発語失行、錯語症など基本的な要素的失語症状に対するアプローチについて、簡単に説明できる。	辰巳 寛
13	通年	「急性期の失語症治療」 急性期病院における失語症治療について理解する。	「急性期の言語治療」 急性期病院における失語症治療について、その注意点などについて簡単に説明できる。	辰巳 寛
14	通年	「回復期の失語症治療」 回復期リハビリテーション病棟における失語症治療について理解する。	「回復期の失語症治療」 回復期リハビリテーション病棟における失語症治療について、簡単に説明できる。	辰巳 寛

15	通年	「維持期の失語症治療」 在宅療養および訪問リハビリテーションにおける失語症治療について理解する。	「維持期の失語症治療」 在宅療養および訪問リハビリテーションにおける失語症治療について、簡単に説明できる。	辰巳 寛
16	通年	「失語症リハビリテーションの実際」 一般的病院における失語症治療の実際を DVD にて供覧し、リハビリテーションの方法について理解する。	「失語症リハビリテーションの実際」 DVD からの情報を踏まえて、実際のなりリハビリテーションの方法について、簡単に説明できる。	辰巳 寛
17	通年	「失語症の検査報告書の書き方」 各種検査所見の取り方とまとめ方、報告書作成の手順について理解する。	「失語症の検査報告書の書き方」 失語症の検査を実施後に提出する報告書を作成できる。	辰巳 寛
18	通年	「失語症者の社会復帰援助」 失語症に対する障害福祉制度を理解し、適切な社会復帰支援について理解する。	「失語症者の社会復帰援助」 失語症に対する障害福祉制度と社会復帰支援法について、簡単に説明できる。	辰巳 寛
19	通年	「コミュニケーション障害の支援のあり方」 失語症を代表とするコミュニケーションの困難な方に対する包括的支援について理解する。	「コミュニケーション障害の支援のあり方」 包括的コミュニケーション支援の実際について、簡単に説明できる。	辰巳 寛
20	通年	「科目試験とまとめ」 科目試験とまとめを通じて失語症の概要を理解する。	「科目試験とまとめ」 科目試験の問題を解くことができる。	辰巳 寛
成績評価方法		学科試験にて 100 点満点のマークシート方式（5 択）です。		
準備学習など		言語聴覚士にとって失語症学は必要不可欠な講義です。臨床現場で必須の知識と技能を習得できる内容ですので、積極的に取り組んで下さい。講義終了前後に質問時間を設けますので、積極的に質問してください。		
留意事項		特になし		

学科・年次	言語聴覚科・1年次	開講期間	後期
科目名	失語症Ⅱ（検査）		
担当者	百々 加奈子		
単位数（時間数）	2単位（40時間）	履修方法	講義・演習（一部）
教科書・参考書	「標準失語症検査マニュアル 改訂第二版（新興医学出版社）」		

授業概要
<p>言語聴覚士の専門分野のうち失語症領域の科目として、標準失語症検査（SLTA）を中心に検査の意義や手技について理解する。また、失語症検査以外にも非言語性のスクリーニング検査等の意義や手技も理解する。</p> <p>なお、言語聴覚士として急性期・維持期病院、訪問看護ステーションで臨床経験のあるものが講義を担当する。</p>
授業の目的（意義）
<p>本科目は、失語症領域の中でも評価方法の手技を学ぶ科目である。失語症が疑われる患者の言語症状を正しく把握するために検査の手技を学び、操作することができるようにする。また、検査時に患者から得られた反応に対して根拠に基づいた評価・説明ができるようになる。</p> <p>この科目を修めることで失語症領域における評価方法を身に付け、その検査結果の分析方法を実践的に学ぶ「失語症Ⅲ・Ⅳ」へと繋げる。</p>
関連する学科の DP
<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験に合格できる知識を身に付けている ・言語聴覚士としての専門的な知識をもち、根拠に基づいた言語聴覚療法を実践できる ・正確な評価技術を身に付け、効果的なりハビリテーションを実践する ・専門家としての自覚をもち、常に学び続ける意識をもつ

回 (コマ)	「授業項目」(単元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	「SLTA 演習 聴く」 標準失語症検査 (SLTA) の検査目的や実施前の注意点について理解する。「聴く」検査の実施・評価方法を理解する。	「検査概要・聴く①」 標準失語症検査 (SLTA) の「聴く」検査を円滑に実施し、根拠に基づいた評価・説明ができる。	百々 加奈子
2		「聴く②」 標準失語症検査 (SLTA) の「聴く」検査を円滑に実施し、根拠に基づいた評価・説明ができる。	百々 加奈子
3	「SLTA 演習 話す」 標準失語症検査 (SLTA) の「話す」検査の実施・評価方法を理解する。	「話す①」 標準失語症検査 (SLTA) の「話す」検査を円滑に実施し、根拠に基づいた評価・説明ができる。	百々 加奈子

4		「話す②」 標準失語症検査 (SLTA) の「話す」検査を円滑に実施し、根拠に基づいた評価・説明ができる。	百々 加奈子
5	「SLTA 演習 読む」 標準失語症検査 (SLTA) の「読む」 検査の実施・評価方法を理解する。	「読む①」 標準失語症検査 (SLTA) の「読む」検査を円滑に実施し、根拠に基づいた評価・説明ができる。	百々 加奈子
6		「読む②」 標準失語症検査 (SLTA) の「読む」検査を円滑に実施し、根拠に基づいた評価・説明ができる。	百々 加奈子
7	「SLTA 演習 書く・計算」 標準失語症検査 (SLTA) の「書く」 「計算」検査の実施・評価方法を理解する。	「書く・計算①」 標準失語症検査 (SLTA) の「書く」「計算」検査を円滑に実施し、根拠に基づいた評価・説明ができる。	百々 加奈子
8		「書く・計算②」 標準失語症検査 (SLTA) の「書く」「計算」検査を円滑に実施し、根拠に基づいた評価・説明ができる。	百々 加奈子
9	「SLTA 全体演習」 標準失語症検査 (SLTA) を、模擬患者である教員に対して円滑に実施・操作できる。	「SLTA 全体演習①」 標準失語症検査 (SLTA) を模擬患者である教員に対して実施し、根拠に基づいた評価・説明ができる。	百々 加奈子
10		「SLTA 全体演習②」 標準失語症検査 (SLTA) を模擬患者である教員に対して実施し、根拠に基づいた評価・説明ができる。	百々 加奈子
11	「非言語性スクリーニング検査」 コース立方体組み合わせテストやレーヴン色彩マトリックス検査などの非言語性のスクリーニング検査について理解する。	「非言語性スクリーニング検査①」 コース立方体組み合わせテストやレーヴン色彩マトリックス検査などの非言語性のスクリーニング検査を実施し、評価できる。	百々 加奈子
12		「非言語性スクリーニング検査②」 コース立方体組み合わせテストやレーヴン色彩マトリックス検査などの非言語性のスクリーニング検査を実施し、評価できる。	百々 加奈子

13	「WAB 演習 I～IV」 WAB 失語症検査における「I. 自発話」「II. 話し言葉の理解」「III. 復唱」「IV. 呼称」の目的や実施前の注意点について理解する。また、各検査項目の実施・評価方法を理解する。	「WAB I～IV①」 WAB 失語症検査の「自発話」「話し言葉の理解」「復唱」「呼称」検査を円滑に実施し、根拠に基づいた評価・説明ができる。	百々 加奈子
14		「WAB I～IV②」 WAB 失語症検査の「自発話」「話し言葉の理解」「復唱」「呼称」検査を円滑に実施し、根拠に基づいた評価・説明ができる。	百々 加奈子
15	「WAB 演習 V～VIII」 WAB 失語症検査における「V. 読み」「VI. 書字」「VII. 行為」「VIII. 構成行為・視空間行為・計算」の目的や実施前の注意点について理解する。また、各検査項目の実施・評価方法を理解する。	「WAB V～VIII①」 WAB 失語症検査の「読み」「書字」「行為」「構成行為・視空間行為・計算」検査を円滑に実施し、根拠に基づいた評価・説明ができる。	百々 加奈子
16		「WAB V～VIII②」 WAB 失語症検査の「読み」「書字」「行為」「構成行為・視空間行為・計算」検査を円滑に実施し、根拠に基づいた評価・説明ができる。	百々 加奈子
17	「その他の失語症検査」 標準失語症検査補助テストやトークンテスト、重度失語症検査などの掘り下げ検査を実施し、評価できる。	「その他の失語症検査①」 標準失語症検査補助テストやトークンテスト、重度失語症検査などの掘り下げ検査を実施し、評価できる。	百々 加奈子
18		「その他の失語症検査②」 標準失語症検査補助テストやトークンテスト、重度失語症検査などの掘り下げ検査を実施し、評価できる。	百々 加奈子
19	「SLTA 臨床技能試験」 標準失語症検査 (SLTA) で、指定した検査項目の臨床技能試験を実施する。	「SLTA 臨床技能試験」 指定した検査項目で臨床技能試験を実施し、評価内容を説明できる。	百々 加奈子 西脇 克浩
20			百々 加奈子 西脇 克浩
成績評価方法		<p>最終講義にて臨床技能試験 (100 点) を行い、60 点以上を合格とする。</p> <p>臨床技能試験では模擬患者 (教員) に対して、あらかじめ指定された SLTA の下位検査を実施する。「態度」「身だしなみ」「コミュニケーション」「手続き」「記録」「評価」などで構成された 10 項目の評価をおこなう。</p> <p>講義の 2/3 以上の出席をもって受験を可能とする。</p>	

準備学習/事後学習	<p>準備学習：「失語症Ⅰ」の「失語症の症状・タイプ分類」に関する資料を見直しておくこと。</p> <p>事後学習：「失語症Ⅲ・Ⅳ」に向けて、SLTA の評価項目および採点基準を押さえておくこと。</p>
関連科目	<p>「失語症Ⅰ」⇒「失語症Ⅱ」⇒「失語症Ⅲ・Ⅳ」「高次脳機能障害Ⅱ」「言語聴覚障害診断学Ⅱ」</p>
その他（履修者へのアドバイス等）	<p>本科目は、SLTA を中心とした多くの検査について学びます。2年次の「失語症Ⅲ・Ⅳ」「高次脳機能障害Ⅱ」では、失語症Ⅱで学んだ検査で実践的に評価・レポート作成をしていきます。同じく2年次の「言語聴覚障害診断学Ⅱ」では、SLTA および非言語性スクリーニング検査（コース立方体組み合わせテスト・レーヴン色彩マトリックス検査）の臨床技能試験があるので、1年次のうちにしっかりと身に着けておきましょう。</p> <p>わからない点があれば積極的に質問に来てください。</p>

学科・年次	言語聴覚科 1年	開講期間	前期 後期 通年
科目名	高次脳機能障害 I (基礎理論・検査)		
担当者	西脇 克浩		
単位数 (時間数)	1 単位 (30 時間)	履修方法	講義(一部演習)
教科書・参考書	医学書院 標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学 第4版		

授業概要
脳損傷に起因する失語症以外の高次脳機能障害について症状、責任病巣、発生機序、障害のとらえ方等を理解する視点を学ぶ。なお、言語聴覚士として総合病院で臨床経験のある教員が講義を担当する。
授業の目的 (意義)
高次脳機能障害および関連障害に関する知識を修得する 高次脳機能障害の評価・診断・訓練などの概要を学ぶ
関連する学科の DP
国家試験に合格できる知識を身に着けている 言語聴覚士としての専門的な知識をもち、根拠に基づいた言語聴覚療法を実践できる

回 (コマ)	「授業項目」(単元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	講義「高次脳機能とは」 高次脳機能障害・神経心理学の考え方 リハビリテーションの基本原則について学ぶ	「高次脳機能について」 高次脳機能が日常の人の行動に関与することを説明できる 高次脳機能を修飾し影響を与える背景情報を説明できる 高次脳機能障害に対してSTが行うリハビリの流れを説明できる	西脇 克浩
2	講義「視覚性失認」 視覚性失認について学ぶ	「視覚性失認について」 視覚障害の種類 症状を説明できる 視覚性失認の種類や症状 病巣を説明できる	西脇 克浩
3	講義「聴覚・触覚性失認」 聴覚・触覚性失認について学ぶ	「聴覚性失認について」 聴覚性失認種類、症状、病巣を説明できる 「触覚性失認について」 触覚性失認の種類、症状、病巣を説明できる	西脇 克浩
4	講義「視空間障害と身体図式・病態 認知の障害」 視空間障害と身体図式・病態認知の	「視空間障害について」 半側空間無視の症状、病巣等を説明できる 「身体図式、病態認知の障害について」	西脇 克浩

	障害について学ぶ	ゲルストマン症候群の4徴候、病巣を説明できる。病態失認の症状、病巣を説明できる	
5	講義「動作、行為の障害」 動作、行為の障害について学ぶ	「動作、行為の障害について」 最近の失行のとらえ方を説明できる 失行の種類、症状、病巣を説明できる 失行関連の種類、症状、病巣を説明できる	西脇 克浩
6	講義「記憶障害その1」 記憶の基本概念と分類 記憶障害 の原因疾患と症状について学ぶ	記憶の処理過程について説明できる 記憶障害の種類、症状、病巣を説明できる	西脇 克浩
7	講義「記憶障害その2」 記憶障害の評価、リハビリテーション について学ぶ	記憶障害の評価について説明できる 記憶障害の訓練、指導、支援の原則を説明できる	西脇 克浩
8	講義「前頭葉と高次脳機能障害」 前頭葉障害に関わる高次脳機能障 害について学ぶ	前頭葉障害の種類、症状、病巣を説明できる 注意障害を正しく説明できる 遂行機能障害を正しく説明できる 社会的行動障害正しく説明できる	西脇 克浩
9	講義「半球離断症候群」 半球離断症状について学ぶ	大脳の側性化と脳梁の役割を説明できる 半球離断症状の種類、症状、病巣を説明できる	西脇 克浩
10	講義「認知症 その1」 正常加齢と認知症、認知症の基本概 念と分類などについて学ぶ	認知症の種類、症状、病巣について説明できる 生涯発達における正常加齢の特性を説明できる 認知症における	西脇 克浩
11	講義「認知症その2」 認知症の評価について、認知症に対 するアプローチについて学ぶ	認知症の評価について説明できる 認知症検査の内容を理解したうえで実施できる	西脇 克浩
12	講義「外傷性脳損傷」 外傷性脳損傷について学ぶ	外傷性脳損傷を説明できる 外傷性脳損傷による高次脳機能障害の種類、症 状、病巣を説明できる。	西脇 克浩
13	講義「認知コミュニケーション障 害」様々な疾患によって生じる認知 コミュニケーション障害について 学ぶ	外傷性脳損傷、右半球損傷による認知コミュニケ ーション障害を説明できる。ALS やパーキンソン 病が高次脳機能障害を呈する可能性があること を理解し説明できる。	西脇 克浩
14	演習「神経心理学検査について」 神経心理学検査について学ぶ。	高次脳機能障害を評価する様々な神経心理学検 査について学ぶ。実際に検査を実施するなどして 学びを深める。様々な神経心理学検査を確認し、 検査目的が説明できるようになる	西脇 克浩
15	試験 科目試験とまとめ 科目試験とまとめを通じて高次脳	科目試験とまとめ 科目試験を解き、規定の点数を得ることができる	西脇 克浩

	機能障害への理解を深める		
成績評価方法	<p>出席は 2/3 以上の出席をもって科目試験受験を可とする。</p> <p>最終講義に科目試験を実施し、100 点満点中 60 点以上を合格とする。</p> <p>筆記試験は選択形式と記述問題の両方で構成される</p>		
準備学習/事後学習	<p>障害の当事者や家族・介護者によって上梓された関連書籍などを参照することは障害の全体像の把握にとっても有益であるため推奨します。</p>		
関連科目	<p>高次脳機能障害Ⅱ 失語症Ⅰ～Ⅳ 言語聴覚障害診断学Ⅱ</p>		
その他（履修者へのアドバイス等）	<p>高次脳機能障害Ⅱ に向けての入門編となります。数ある神経心理学検査は科目の中で触れますが時間数も限られており、最低限となります。2 年次に履修する高次脳機能障害Ⅱ や臨床実習に向けて自発的に検査の内容を確認しておくことをお勧めします。</p>		

学科・年次	言語聴覚科・1年次	開講期間	通年
科目名	言語発達障害Ⅰ（概論・評価・支援指導）		
担当者	大内田 潤子		
単位数（時間数）	2単位（40時間）	履修方法	講義
教科書・参考書	教科書 最新言語聴覚障害学 言語発達障害学 医歯薬出版株式会社		

授業概要
言語聴覚士として臨床経験のある教員が言語発達障害児の言語臨床の経験を活かし、子どもの発達段階や特性に即した評価や訓練プログラム立案、指導におけるポイントを理解する。 なお、言語聴覚士として、小児の臨床経験のあるものが授業を担当する。
授業の目的（意義）
小児の言語発達障害について、「概論から指導までの流れを理解すること、言語発達障害の評価（情報収集・面接・検査）の意味と技法の修得」「指導プログラムの立案方法の修得」を目的とする。小児分野の言語聴覚療法臨床全般を学ぶことにより「言語発達障害Ⅲ」の発達障害の各論、「言語発達障害Ⅱ」の演習へとつなげる。
関連する学科のDP
<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験に合格できる知識を身に着けている ・言語聴覚士としての専門的な知識をもち、根拠に基づいた言語聴覚療法を実践できる ・正確な評価技術を身に着け、効果的なりハビリテーションを実践する ・専門家としての自覚をもち、常に学び続ける意識をもつ

回 (コマ)	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	「標準的言語発達」 言語発達を支える発達の基礎と言語・コミュニケーションの獲得の過程を学ぶ。	「標準的言語発達について」 言語獲得に必要な発達の基盤を知る。 言語・コミュニケーションの発達の順序を説明できる。	大内田 潤子
2	「言語発達障害」 言語発達障害の定義や分類を理解する。	「言語発達障害の基本について」 言語発達障害の定義や分類を説明できる。	大内田 潤子
3	「言語発達障害の臨床」 小児の言語聴覚士の仕事の目的と内容を理解する。	「言語発達障害の臨床について」 言語発達障害の臨床の目的、手順を説明できる。	大内田 潤子
4	「評価①」 評価の目的と手順を理解する。	「評価の目的と手順について」 評価の目的・手順を説明できる。	大内田 潤子

5	「評価②」 国リハ式<S-S 法>言語発達遅滞検査の目的と概要を学ぶ。	「言語検査について」 検査の枠組みを知り、説明できる。	大内田 潤子
6	「評価③」 国リハ式<S-S 法>言語発達遅滞検査の内容を学ぶ。	「言語検査について」 検査の大まかな内容を知り、説明できる。	大内田 潤子
7	「評価④」 国リハ式<S-S 法>言語発達遅滞検査の結果の見方を学ぶ	「言語検査について」 検査結果から子どもの言語発達を把握できる。	大内田 潤子
8	「評価③」 LC-Rの目的と手順を学ぶ	「言語検査について」 検査の目的、実施の流れを説明できる。	大内田 潤子
9	「評価④」 LCSAの目的と手順を学ぶ	「言語検査について」 検査の目的、実施の流れを説明できる。	大内田 潤子
10	「評価⑤」 LC-R・LCSAの実施手順を学ぶ	「検査の実施について」 検査を実際に実施できる。	大内田 潤子
11	「評価⑥」 LC-R・LCSAの実施手順を学ぶ	「検査の実施について」 検査を実際に実施できる。	大内田 潤子
12	「評価⑦」 LC-R・LCSAの結果の見方を学ぶ	「言語検査について」 LC-R・LCSAの結果から子どもの言語発達を把握できる。	大内田 潤子
13	「評価⑧」 検査バッテリーの組み方を学ぶ。	「検査バッテリーについて」 検査バッテリーの組み方についての基本的な考え方を説明できる。	大内田 潤子
14	「評価⑨」 各種検査の結果を統合した評価と指導・支援の目標設定を学ぶ	「検査結果のまとめについて」 複数の検査の結果を踏まえて評価できる。 総合的な評価から指導・支援の目標が設定できる。	大内田 潤子
15	「指導・支援①」 発達段階に応じた指導・支援について学ぶ。	「前言語期の指導・支援について」 前言語期の指導・支援を説明できる。	大内田 潤子
16	「指導・支援②」 発達段階に応じた指導・支援について学ぶ	「幼児期の指導・支援について」 幼児期の指導・支援を説明できる。	大内田 潤子

17	「指導・支援③」 発達段階に応じた指導・支援について学ぶ。	「学童期の指導・支援について」 学童期の指導・支援について説明できる。	大内田 潤子
18	「支援・指導④」 指導・支援の方法と原則について学ぶ	「指導・支援の方法について」 指導支援の方法を列挙できる それぞれの方法を説明できる	大内田 潤子
19	「指導・支援⑤」 環境調整・地域連携について学ぶ	「環境調整・地域連携について」 環境調整について説明できる 言語聴覚士と地域の連携について説明できる	大内田 潤子
と	「まとめと試験」 試験を通して、自身の理解度を確認する。	「まとめと試験」 試験と振り返りを通して、知識の確認をする	大内田 潤子
成績評価方法	出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 最終講義にて筆記試験（100 点）を行い、60 点以上を合格とする。		
準備学習/事後学習	準備学習：「言語聴覚障害概論」の小児に関する部分の資料を見直しておくこと。 「言語聴覚障害診断学Ⅰ」の資料を見直しておくこと。 事後学習：言語発達障害の臨床の流れのフロチャートを講義ごとに見直し書き足していくこと		
関連科目	「言語聴覚障害概論」「言語聴覚障害診断学Ⅰ」「言語発達障害Ⅱ・Ⅲ」		
その他（履修者へのアドバイス等）	言語発達障害の臨床の基本となる科目となります。わからないことは積極的に質問してください。		

学科・年次	言語聴覚科・1年次	開講期間	後期
科目名	言語発達障害Ⅱ（各論・評価・実習）		
担当者	諸橋 麻衣子 ・ 大内田 潤子		
単位数（時間数）	2単位（70時間）	履修方法	演習
教科書・参考書	なし		

授業概要	
<p>発達の遅れのある子どもたちの評価・指導立案・指導を、実際に症例を通して理解する なお、言語聴覚士として、病院等で臨床経験のあるものが、その経験を活かし演習指導を行う 授業目的：子どもの評価方法・指導計画の立案・指導方法を修得する</p>	
授業の目的（意義）	
<p>「言語聴覚療法診断学Ⅰ」「言語発達障害Ⅰ」で学んだ知識を活かし、実際の症例を通して「評価・指導立案の方法の修得」、「言語発達障害児への接し方のポイントの理解」を目的とする</p>	
関連する学科のDP	
<ol style="list-style-type: none"> ① 国家試験に合格できる知識を身につけている ② 言語聴覚士として専門的な知識をもち、根拠に基づいた言語聴覚療法を実践できる ③ 正確な評価技術を身につけ、効果的なりハビリテーションを実践する ④ 信頼される医療従事者としてのコミュニケーションスキルを身につける ⑤ 専門家としての自覚をもち、常に学び続ける意識をもつ ⑥ 相互理解を深め、チーム医療の一員として多職種連携に貢献する 	

回 (コマ)	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	「指導実施上の注意」 子どもの指導の一般的な注意点を理解する	「指導実施上の注意」 指導にあたって注意すべき点を列挙できる	諸橋麻衣子 大内田潤子
2	「観察記録の書き方①」 観察記録の書き方を学ぶ	「観察記録の書き方①」 指導場面を見て、メモを取ることができる	諸橋麻衣子 大内田潤子
3	「観察記録の書き方②」 観察記録の書き方を学ぶ	「観察記録の書き方②」 メモを取り、その中から必要な情報を取り出すことができる	諸橋麻衣子 大内田潤子
4	「観察記録の書き方③」 観察記録の書き方を学ぶ	「観察記録の書き方③」 観察した情報をまとめることができる	諸橋麻衣子 大内田潤子

5	「指導計画」 指導目標・計画の立案について学ぶ	「指導計画の立案」 対象児の情報をもとに指導目標を立てることができる 目標に沿った指導計画を立てることができる	諸橋麻衣子 大内田潤子
6・7	「指導案の作成」 指導計画をもとに課題を考える。 指導案作成について学ぶ。	「指導案の作成」 指導計画をもとに課題を設定することができる。 指導案作成ができる。	諸橋麻衣子 大内田潤子
8・9	「指導準備」 指導の準備をする	「指導準備」 課題の手順を把握する 課題遂行の留意点を理解する	諸橋麻衣子 大内田潤子
10・11	「指導演習 A-1」 実際に指導を行う ポイントを踏まえた観察の仕方を理解する	「指導演習 A-1・観察」 対象児に指導ができる 結果・反応を観察記録にまとめ、対象児の様子を考察できる	諸橋麻衣子 大内田潤子
12・13	「指導演習 B-1」 実際に指導を行う ポイントを踏まえた観察の仕方を理解する	「指導演習 B-1・観察」 対象児に指導ができる 結果・反応を観察記録にまとめる、対象児の様子を考察できる	諸橋麻衣子 大内田潤子
14・15	「指導計画の再構成」 実際の指導を振り返り、今後の指導について考える	「指導の確認と再構成」 実施した指導の良かった点、改善点を述べる ことができる 今後の指導計画を再構成ができる	諸橋麻衣子 大内田潤子
16・17	「観察記録の作成」 前回の演習内容について観察記録をまとめる まとめた記録をもとに考察する	「観察記録の作成」 観察メモをもとに記録をまとめることができる 結果・反応をもとに対象児の言語面を考察できる	諸橋麻衣子 大内田潤子
18・19	「指導演習 A-2」 実際に指導を行う ポイントを踏まえた観察の仕方を理解する	「指導演習 A-2・観察」 対象児に指導ができる 結果・反応を観察記録にまとめ、対象児の様子を考察できる	諸橋麻衣子 大内田潤子
20・21	「指導演習 B-2」 実際に指導を行う ポイントを踏まえた観察の仕方を理解する	「指導演習 B-2・観察」 対象児に指導ができる 結果・反応を観察記録にまとめ、対象児の様子を考察できる	諸橋麻衣子 大内田潤子

22・23	「経過の確認と指導計画の再作成」 実際の指導を振り返り、今後の指導について考える	「指導の確認と再構成」 実施した指導の良かった点、改善点を述べることができる 今後の指導計画を再構成することができる	諸橋麻衣子 大内田潤子
24・25	「指導演習 A-3」 実際に指導を行う ポイントを踏まえた観察の仕方を理解する	「指導演習 A-3・観察」 対象児に指導ができる 結果・反応を観察記録にまとめ、対象児の様子を考察できる	
26・27	「指導演習 B-3」 実際に指導を行う ポイントを踏まえた観察の仕方を理解する	「指導演習 B-3・観察」 実際に指導を行う 結果・反応を観察記録にまとめ、対象児の様子を考察できる えた観察ができる	諸橋麻衣子 大内田潤子
28・29	「指導計画の再構成」 実際の指導を振り返り、今後の指導について考える	「指導の確認と再構成」 実施した指導の良かった点、改善点を述べることができる 今後の指導計画を再構成ができる	諸橋麻衣子 大内田潤子
30・31	「指導演習 A-4」 実際に指導を行う ポイントを踏まえた観察の仕方を理解する	「指導演習 A-4・観察」 対象児に指導ができる 結果・反応を観察記録にまとめ、対象児の様子を考察できる	諸橋麻衣子 大内田潤子
32・33	「指導演習 B-4」 実際に指導を行う ポイントを踏まえた観察の仕方を理解する	「指導演習 B-4・観察」 対象児に指導ができる 結果・反応を観察記録にまとめ、対象児の様子を考察できる	諸橋麻衣子 大内田潤子
34	「症例報告書作成」 全指導内容を検討し、症例の全体像を理解し、症例報告書を作成の仕方を知る	「症例報告書作成」 対象児の症例報告書の作成ができる	諸橋麻衣子 大内田潤子
35	「症例報告会」 症例報告をもとに発表する	「症例報告会」 症例発表ができる。 事例を振り返ったうえで、適切な質問ができる。	諸橋麻衣子 大内田潤子
成績評価方法	症例報告書、指導実施、指導案作成 観察記録のレポート、合計 100 点で評価する。		

準備学習/事後学習	<p>準備学習：「言語聴覚障害診断学Ⅰ」「言語発達障害Ⅰ」の資料を復習すること</p> <p>事後学習：実際の体験で得た技法を次回に活かすことができるようポイントをまとめておくこと</p>
関連科目	「言語発達障害概論」「言語聴覚障害診断学Ⅰ」「言語発達障害Ⅰ・Ⅲ」
その他（履修者へのアドバイス等）	<p>診断学や言語発達障害の概論などで学んだことを実際に体験しながら知識を深め修得していく科目となります。よりよい演習のために知識を整理しておくとうよいと思います</p>

学科・年次	言語聴覚科・1年次	開講期間	後期
科目名	言語発達障害Ⅲ (ID・SLI・ASD・LD)		
担当者	大内田 潤子		
単位数 (時間数)	2単位 (40時間)	履修方法	講義
教科書・参考書	教科書 最新言語聴覚障害学 言語発達障害学 医歯薬出版株式会社		

授業概要
発達障害の各障害像や診断基準、言語聴覚士としての各障害に対するアプローチ法について学ぶ。一般的な言語発達障害の臨床に加えて特性に応じた臨床を理解する。 なお、言語聴覚士として、病院等で臨床経験のあるものが、その経験を活かし講義を行う
授業の目的 (意義)
小語聴覚士として発達障害の子どもへのアプローチ方法を身につけるため、各障害像、診断基準を理解し、言語聴覚士が個々の特性を踏まえたアプローチの基本を理解することができる。言語聴覚士として臨床経験のある教員が言語発達障害児の言語臨床の経験を活かし、子どもの発達段階や特性に即した評価や訓練プログラム立案、指導におけるポイントを理解する。
関連する学科の DP
<ul style="list-style-type: none"> ・ 国家試験に合格できる知識を身に付けている ・ 言語聴覚士としての専門的な知識をもち、根拠に基づいた言語聴覚療法を実践できる ・ 正確な評価技術を身に付け、効果的なリハビリテーションを実践する ・ 専門家としての自覚をもち、常に学び続ける意識をもつ

回 (コマ)	「授業項目」(単元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	「発達障害とはなにか」 発達障害の概要を理解する	「発達障害とはなにか」 発達障害の定義を述べることができる 発達障害に含まれる障害を列挙することができる	大内田 潤子
2	「自閉スペクトラム症 (ASD) について」 ASD の定義・診断基準・症状を学ぶ	「ASD の概要」 定義・診断基準・症状を説明できる	大内田 潤子
3	「自閉スペクトラム症 (ASD) について」 ASD の評価、特性に合わせた支援	「ASD の支援」 ASD の評価・支援を説明できる	大内田 潤子

	について学ぶ		
4	「注意欠如多動症 (ADHD) について」 ADHD の定義・診断基準・症状を学ぶ	「ADHD の概要」 定義・診断基準・症状を説明できる	大内田 潤子
5	「注意欠如多動症 (ADHD) について」 ADHD の評価、特性に合わせた支援について学ぶ	「ADHD の支援」 ADHD の評価・支援を説明できる	大内田 潤子
6	「限局性学習症 (SLD) について」 SLD の定義・診断基準・症状を学ぶ	「SLD の概要」 定義・診断基準・症状を説明できる	大内田 潤子
7	「限局性学習症 (SLD) について」 SLD の評価について学ぶ	「SLD の支援」 SLD の評価を説明できる	大内田 潤子
8	「読み書き検査について」 読み書き検査について学ぶ	「読み書き検査」 読み書き検査を列挙できる それぞれの検査の概要を説明できる	大内田 潤子
9	「読み書きに関連する検査について」 視知覚認知検査について学ぶ	「視知覚認知検査について」 視知覚検査を列挙できる それぞれの検査の概要を説明できる	大内田 潤子
10	「読み書きの指導について」 読み書きの指導について整理する	「読み書きの指導」 支援方法について説明できる	大内田 潤子
11	「知的発達症 (ID/IDD) について」 ID の定義・診断基準・症状を学ぶ	「ID/IDD の概要」 定義・診断基準・症状を学ぶ	大内田 潤子
12	「知的発達症 (ID/IDD) について」 ID の評価、特性に合わせた支援について学ぶ	「ID の支援」 ID の評価・支援を説明できる	大内田 潤子
13	「特異的言語発達障害 (SLI) について」	「SLI の概要」 定義・診断基準・症状を学ぶ	大内田 潤子

	SLI の定義・診断基準・症状を学ぶ		
14	「特異的言語発達障害 (SLI) について」 SLI の評価、特性に合わせた支援について学ぶ	「SLI の支援」 SLI の評価・支援を説明できる	大内田 潤子
15	「後天性言語発達障害について」 後天性言語発達障害の定義・診断基準・症状を学ぶ	「後天性言語発達障害の概要」 定義・診断基準・症状を説明できる	大内田 潤子
16	「後天性言語発達障害について」 後天性言語発達障害の評価、特性に合わせた支援について学ぶ	「後天性言語発達障害について」 後天性言語発達障害の評価・支援を説明できる	大内田 潤子
17	「その他の発達障害について」 発達性協調運動障害等の概要と診断・病態を理解する	「その他の発達障害の概要」 発達性協調運動障害の定義を述べることができる	大内田 潤子
18	「発達障害児支援における言語聴覚士の役割」 発達障害の言語の問題と言語聴覚士の役割を理解する	「発達障害の支援における ST の役割」 発達障害児支援における言語聴覚士の役割を述べることができる	大内田潤子
19	「保護者・家族支援について」 保護者・家族支援について学ぶ	「保護者・家族支援について」 ライフステージに応じた保護者・家族支援を説明できる	大内田 潤子
20	まとめと科目試験と 講義全般の要点を理解する	「まとめと科目試験」 講義全般の要点を再確認し、知識を整理する	大内田潤子

成績評価方法	出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 最終講義にて筆記試験 (100 点) を行い、60 点以上を合格とする。
準備学習/事後学習	準備学習: 「言語聴覚障害概論」「言語聴覚障害診断学 I」「言語発達障害 I」の資料を見直しておくこと。 事後学習: 言語発達障害と併存する各障害の特性の理解を深めるため定義を確認する
関連科目	「言語聴覚障害概論」「言語聴覚障害診断学 I」「言語発達障害 I・II」「言語発達学」
その他 (履修者へのアドバイス等)	言語発達障害の臨床の応用編といえる科目となります。わからないことは積極的に質問してください。

学科・年次	言語聴覚科 1年	
科目名	言語発達障害学Ⅳ(CP・重心)	
担当者	中島 雅史	
単位数(時間数)	1単位(30時間)	
学習方法	講義・演習(COVID19の感染拡大の状況によっては演習を講義に置き換えることがあります)	
教科書・参考書	アドバンスシリーズ/コミュニケーション障害の臨床 第3巻「脳性麻痺」; 日本聴能言語士協会講習会実行委員会・編集/定価 3,780円(税込)	脳性麻痺リハビリテーションガイドライン 第2版(金原出版)

授業概要と目的
<p><授業概要></p> <p>脳性麻痺児に対する言語臨床の経験がある者が、脳性麻痺リハビリテーションガイドラインをベースに</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 臨床現場で必要とされる脳性麻痺臨床の基礎知識(定義、発生機序、症状分類と麻痺によるタイプ分類、合併症などについて) ② 臨床現場で必要とされる粗大運動発達や微細運動発達とその障害、それらに伴う神経発達学的な言語・コミュニケーション障害の発生機序、症状、評価の仕方に関して ③ 臨床現場で行われている神経発達学的な pre-speech approach にもとづく機能評価と治療手技、家族とともに行う乳幼児期からの全般的発達指導の進め方に関して ④ 臨床現場で行われている言語・コミュニケーション機能の評価と指導を AAC Approach という視点から解説する。なお、pre-speech approach については演習(あるいは実演)を通して解説する。 <p><授業目的></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 脳性麻痺に関する基礎知識について、その大枠を理解する。 ② 脳性麻痺児とその家族が抱える困り感について、その大枠を理解する。 ③ 脳性麻痺児が抱える摂食・嚥下機能および言語・コミュニケーション発達の特徴とその障害像について、その大枠を理解する。 ④ 脳性麻痺児に対する摂食・嚥下リハビリテーション、言語・コミュニケーション支援の方向性および進め方について、適切な判断を持って遂行できるようになる。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	通年	「脳性麻痺とは 1」 障害の歴史と定義を理解する。 脳性麻痺の原因と発生率・経年的変化について理解する。	「脳性まひについての基礎知識1」 脳性麻痺とは何か、発生の原因とその経年的変化、最近の脳性麻痺の特徴について、その概要を説明できる。	中島 雅史

2	通年	「脳性麻痺とは 2」 脳性麻痺のタイプ分類と症状、状態像を、標準化された機能分類システムを介して理解する。	「脳性まひについての基礎知識2」 脳性麻痺のタイプ別症状、状態像を、標準化された機能分類システムを参考に理解し、説明することができる。	中島 雅史
回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
3	通年	「麻痺の分布と合併症」 麻痺の分布と合併症の多様性を理解する。重症心身障害の状態像を理解する。	「麻痺の分布と合併症、重症心身障害」 麻痺の分布と合併症の多様性を表記し解説できる。重症心身障害の状態像の把握について、キーワードを基に説明できる。	中島 雅史
4	通年	「正常な姿勢運動発達の基礎」 正常な姿勢運動発達のベースになる部分を、正常な反射と異常な反射を学び理解することで、言語臨床における重要性を学ぶ。	「正常な姿勢運動発達の基礎」 中枢神経の発達の過程で表面化する反射の正常な働きと異常な働き、それが子ども自身の生活面にどのような表れるのかを意識しながら、反射検査の目的を説明できる。	中島 雅史
5	通年	「姿勢運動の正常発達」 粗大運動発達の法則とは何か、それを支える反射の意味を知ること、粗大運動発達と言語発達との密接な関連性を理解する。	「粗大運動発達の法則と正常発達」 粗大運動発達の法則を要とし、その進展がことばの獲得や社会性の発達に大きく貢献していることを、反射の営みがかもつ意味と環境要因との絡み合いから説明できる。	中島 雅史
6	通年	「微細運動の正常発達」 微細運動発達の法則とは何か、特に目と手／手と口の協応運動の発達が、言語発達にいかに関与しているのかについて理解する。	「微細運動発達の法則と正常発達」 微細運動発達の法則を要とし、協応運動など巧緻性の発達が言語発達やコミュニケーションや遊びの発達と密接に関係していることを説明できる。	中島 雅史
7	通年	「呼吸のメカニズムと障害」 呼吸のメカニズムを理解することで、呼吸ケアの重要性と嚥下や発語訓練を行う上で重要な視点と、技法の視点を理解する。	「呼吸ケアと言語リハの関連性」 呼吸と胸郭運動の関係をj知ること、脳性麻痺特有の呼吸ケア、発語や嚥下機能などへの支援を行う際の注意点と、支援技能のいくつかを的確に説明できる。	中島 雅史
8	通年	「摂食・咀嚼嚥下機能の発達」 哺乳を可能にする反射とは何か、離乳食開始の条件とは何か、摂食嚥下および咀嚼機能の発達が他の発達領域とどのように絡み合いながら進むのかを理解する。	「乳児期の摂食・咀嚼嚥下機能の正常発達」 哺乳を可能にする反射、離乳食開始の条件とは何か、また咀嚼機能の発達過程を他の領域の発達過程と絡み合わせながら、系列的に説明することができる。	中島 雅史

9	通年	「Per-speech Approach 1」 Pre-speech の目的を、神経発達の多様性という視点から実践的なアセスメントの進め方を、評価のポイントをもとに学ぶ。加えて、支援のあり様についても理解を深める。	「Per-speech Approach 1」 神経発達学的な多様性という視点を学ぶことで、Pre-speech の目的と支援の進め方はどうあると良いのかについて、その概要を説明することができる。また、実践的なアセスメントの対象と、進め方、評価とまとめ方の基本を概説できる。	中島 雅史
回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
10	通年	「Pre-speech Approach 2」 タイプや実際に示す状態像に即した支援技法の多様性、評価と治療の柔軟的な進め方を理解する。	「Per-speech Approach 2」 タイプにより異なる支援の進め方、リアルな状態に即した評価と具体的な支援を学ぶことで、評価と治療のあり方を説明できる。	中島 雅史
11	通年	「言語発達の特徴と支援」 脳性麻痺のある子どもたちに見られる言語発達の特徴を4つの言語的側面とタイプ別で捉えることで、その特徴と支援の在り方を理解する。	「脳性麻痺言語発達の特徴と支援」 脳性麻痺のある子どもたちに特有とされる言語発達の特徴と、タイプによって異なる特徴とについて説明できる。同時に、支援のあり様についても、例を挙げて説明できる。	中島 雅史
12	通年	「言語・コミュニケーション支援」 事例を通して評価の仕方、支援の進め方を理解する。	「言語・コミュニケーション支援」 事例を通して評価の仕方、支援の進め方を読み解くことができる。	中島 雅史
13	通年	「家庭生活における言語・コミュニケーション障害と家族支援」 実際の家庭生活の場で感じ取ることができるリアルな困難さと家族を支える重要な視点を学ぶ	「家庭生活における言語・コミュニケーション障害と家族支援」 実際の家庭生活の場で感じ取ることができるリアルな困難さと家族を支える重要な視点について解説することができる	中島 雅史
14	通年	「AAC approach」 生活と生きがい、コミュニケーションを支え促通する AAC の意義と技法について理解する。 事例を通して評価の仕方、支援の進め方を理解する。	「AAC approach」 生活と生きがい、コミュニケーションを支え促通する AAC の意義と技法について説明できる。 事例を通して評価の仕方、支援の進め方を読み解くことができる。	中島 雅史
15	通年	まとめ 学科試験	まとめ 学科試験	中島 雅史

成績評価	<p>選択方式と記述方式による学科試験にて評価する。</p> <p>選択問題7割、記述問題3割からなる試験、合計100点満点で評価する。</p> <p>60点に満たない者は再試の対象とする。</p>
準備学習など	<p>からだの機能や運動発達、咀嚼機能の発達、そして障害の学習は、馴染みづらいかも知れませんが、小児領域で働こうと考えている学生にとっては必須の授業です。</p> <p>成人領域で働こうと考えている学生にとっても重要な授業です。</p> <p>しっかり予習をして臨みましょう。</p>
留意事項	<p>特になし</p>

学科・年次	言語聴覚科 1 学年	
科目名	音声障害	
担当者	田中康博	
単位数 (時間数)	1 単位 (30 時間)	
学習方法	講義・演習	
教科書・参考書	教科書 ST のための音声障害診療 マニュアル, インテルナ 出版, 廣瀬 肇 (著, 監 修, 監修)	参考書 ② 新編 声の検査法, 医歯薬出版, 音声言語医学会(編); ②Voice and Voice Therapy 10th Edition, Pearson, D Boone et al (著); ③デ ィサースリアの基礎と臨床 第3巻-臨床実用編-, インテルナ出版, 西尾正輝 (著); ④言語聴覚療法シリーズ 14 改訂 音声障害, 建帛社, 荻安誠・城本 修 (編)

授業概要と目的
発声に関する基礎事項を理解し, 声の障害における原因, 症状, 検査, 訓練について学ぶ, 臨床で活用できるレベルにまで音声の評価法(音響分析)を理解し, 国際社会に通じる最先端の音声治療法について実技を通して修得する. なお, 言語聴覚士として臨床経験のある講師がその経験を活かし授業を行う

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「音声障害の概要と聴覚的評価」 音声障害の概要を理解する.	「音声障害の症状・所見と聴覚的評価」 音声障害が, どのような背景で出現しどのような症状となるのかを説明でき, 互いに関連付けることができる.	田中 康博
2	後期	「発声の基礎 (解剖学的, 生理学的な内容)」 発声に関する解剖学的所見と生理的運動を理解する	「喉頭の解剖と声帯運動」 発声に関わる喉頭の解剖学的構造とその筋肉運動について, ノート等を見ながらでも説明できる.	田中 康博
3	後期	「発声の基礎 (病態とその所見)」 音声障害を呈する疾患について理解する.	「音声障害の病態と声帯変化を理解する」 音声障害を呈する疾患の症状とそのリスクファクターについて関連付けて説明でき, 周辺環境にも存在するリスク因子について留意する/気づくことができる.	田中 康博
4	後期	「音声の評価について (生理, 音響, 聴覚的, 心理社会的)」 音声障害を評価する様々な評価	「音声評価の種類」 音声障害を評価する方法について各種評価の利点・欠点を対比し説明できる.	田中 康博

		媒体について理解する.		
5	後期	「音響学的検査(パラメータ説明)」 音響分析の特徴を理解する.	「音響パラメータの理解」 音響分析で得られるパラメータについてノートを見ながらでも説明でき、音響分析の利点と欠点について説明できる.	田中 康博
6	後期	「生理学的評価と心理社会的評価」 音声の評価である生理学的評価と心理社会的評価について理解する	「生理的・心理社会的評価の理解」 各種評価の種類の特徴について説明でき、分類できる。またその利点と欠点について説明できる.	田中 康博
7	後期	「音響分析 (実践 1)」 音響分析機器を用いて自身の声の特徴を客観的に把握するとともに、その特徴と聴覚的評価との相違・乖離について理解する.	「音響分析機器の操作と分析 (実技)」 音響分析機器を操作できる。音響分析を実施する際の留意事項を把握し実践できる。音響分析で使用される各種パラメータについて教科書を見ながらでも説明できる。聴覚的評価と関連付けて分析できる.	田中 康博
8	後期	「音響分析 (実践 2)」 音響分析機器を用いて自身の声の特徴を客観的に把握するとともに、その特徴と聴覚的評価との相違・乖離について理解する.	「音響分析機器の操作と分析 (実技)」 音響分析機器を操作できる。音響分析を実施する際の留意事項を把握し実践できる。音響分析で使用される各種パラメータについて教科書を見ながらでも説明できる。聴覚的評価と関連付けて分析できる.	田中 康博
9	後期	「評価のまとめ」 音声障害の評価法について再考し、その分類や世界的な流れを理解する.	「その他の評価法の紹介と評価のまとめ」 世界で利用されている各種評価法を知り、その特徴について解説できる.	田中 康博
10	後期	「音声治療 1: 症状対処的」 音声障害治療における症状対処的治療法について理解し修得する	「症状対処的音声治療(実技)」 D Boone らの発表した症状対処的治療法を中心に留意事項を厳守し、実施することができる。 例：プッシング法、あくびため息法	田中 康博
11	後期	「音声治療 2: 症状対処的」 音声障害治療における症状対処的治療法について理解し修得する	「症状対処的音声治療(実技)」 前講義で紹介した包括的音声治療法以外に利用されている治療法について留意事項を厳守し、実施することができる.	田中 康博

			例：チューブ発声法、グッズマン法(指圧法)	
12	後期	「音声治療 3: 包括的」 音声障害治療における包括的治療法について理解し修得する	「包括的音声治療(実技)」 包括的治療法について留意事項を厳守し、実施することができる。またその特徴と限界について説明できる。 例：LSVT, LMRVT, SPEAK OUT!	田中 康博
13	後期	「無喉頭音声 1: 概要」 無喉頭音声患者の病態と症状について理解する	「無喉頭音声の理解」 無喉頭音声の原因とその病態ならびに他の音声障害との違いについて説明できる。また無喉頭音声の音声障害以外の症状についても説明できる。	田中 康博
14	後期	「無喉頭音声 2: 治療」 代替音声について理解する。	「無喉頭音声患者の治療 (治療)」 電気式人工喉頭の利用法について実践できる。食道発声法についてその種類と相違について理解し実践できる。 その他の治療法について利点と欠点について説明でき、他の治療法との対比ができる。	田中 康博
15	後期	「学科試験」	「学科試験」(実技試験含む)	田中 康博
成績評価方法		試験は実技試験と紙面の試験の双方を実施します。実技試験は約 20%の配分で、「異常音声の発声」と「発声治療法」の双方を実施予定です。「異常音声」については基準のサンプルに近いほど点数は高値となる。「発声治療法」については留意事項を厳守し正確に実行できるかを評価の対象とする。紙面での試験は記述、穴埋め、選択式で約 60%の配分で採点する。レポート課題を課すことも考えており 10%の配分で評価に含める。		
準備学習など		発声の基礎となる、呼吸器ならびに喉頭の解剖学は理解しておくことが必要である。講義内で伝達した音声障害の程度は再生機器などを用いて聴覚的に慣れておくことが必要。また発声治療法についてはクラス内もしくは個々人で練習をし、修得しておくことが大切である。		
留意事項		講義内の実技場面では、クラス内での個々の協調性を重視します。		

学科・年次	言語聴覚科・1年次	開講期間	前期
科目名	構音障害 I (運動障害性基礎理論)		
担当者	天白陽介		
単位数 (時間数)	1 単位(30 時間)	履修方法	講義・演習(一部)
教科書・参考書	ディサースリア臨床標準テキスト第 2 版 西尾正輝著 医師薬出版		

授業概要
<p>言語聴覚士が対象とする分野の一つである構音障害における最初の科目としてディサースリアの基礎を学び、支援としての言語聴覚療法を理解する。ディサースリアにおける言語聴覚療法の中でも必須となる解剖・生理や評価法に関してその意義・目的・方法を理解する。</p> <p>なお、言語聴覚士として病院などで臨床経験を有するものが授業を担当する。</p>
授業の目的 (意義)
<p>本科目はディサースリアの基礎となる。「解剖や生理を理解すること」、「患者の評価 (発声発語器官、音声の評価) の意味と言語聴覚療法の修得」を目的とする。この科目を修了することで、言語聴覚士の領域の一つであるディサースリアの基礎を身につけ、1年次の「音声障害」や発達的な学びである「構音障害II」へと繋げる。</p>
関連する学科の DP
<ul style="list-style-type: none"> ・ 国家試験に合格できる知識を身につけている。 ・ 言語聴覚士としての専門的な知識をもち、根拠に基づいた言語聴覚療法を実践できる。 ・ 正確な評価技術を身につけ、効果的なリハビリテーションを実践する。 ・ 専門家としての自覚をもち、常に学び続ける意識を持つ。

回 (コマ)	「授業項目」(単元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	「ディサースリアとは何か」 ディサースリアの定義や障害構造、臨床的プロフィールの特徴に関して理解できる。	「ディサースリアとは何か」 ディサースリアの定義や障害構造、臨床的プロフィールの特徴について説明できる。	天白 陽介
2	「発声発語の基礎と障害①」 発声発語に関する解剖・生理に関して理解できる。	「発声発語の基礎と障害①」 発声発語に関する正常な解剖・生理に関して説明することができる。	天白 陽介
3	「発声発語の基礎と障害②」 ディサースリアの原因となる疾患に関して理解できる。	「発声発語の基礎と障害②」 ディサースリアの原因となる疾患に関して説明することができる。	天白 陽介
4	「ディサースリアの基礎理解」 ディサースリアのタイプ分類及	「ディサースリアの基礎理解」 ディサースリアのタイプ分類及び原因疾患、運	天白 陽介

	び原因疾患、運動能力障害、聴覚的印象に関して理解できる。	動機能障害、聴覚的印象に関して説明することができる。	
5	「痙性、弛緩性、失調性ディサースリア」 痙性、弛緩性、失調性ディサースリアの原因疾患と病態特徴を理解できる。	「痙性、弛緩性、失調性ディサースリア」 痙性、弛緩性、失調性ディサースリアの原因疾患と病態特徴を説明することができる。	天白 陽介
6	「運動低下性、運動過多性、UUMN、混合性ディサースリア」 運動低下性、運動過多性、UUMN、混合性ディサースリアの原因疾患と病態特徴を理解できる。	「運動低下性、運動過多性、UUMN、混合性ディサースリア」 運動低下性、運動過多性、UUMN、混合性ディサースリアの原因疾患と病態特徴を説明することができる。	天白 陽介
7	「初回面接と言語評価」 実臨床における初回面接と言語評価から問題点の抽出に関して理解できる。	「初回面接と言語評価」 実臨床における初回面接と言語評価の実際を学び、問題点の抽出方法に関して説明することができる。	天白 陽介
8	「標準ディサースリア検査①」 標準ディサースリア検査の物品や検査手続きに関して理解できる。	「標準ディサースリア検査①」 標準ディサースリア検査の物品や検査手続きに関して説明することができる。	天白 陽介
9	「標準ディサースリア検査②」 標準ディサースリア検査の物品や検査手続きに関して理解できる。	「標準ディサースリア検査②」 標準ディサースリア検査の物品や検査手続きに関して説明することができる。	天白 陽介
10	「標準ディサースリア検査演習①」 標準ディサースリア検査の実践を正しく理解できる。	「標準ディサースリア検査演習①」 標準ディサースリア検査の実践を正しく説明できる。	天白 陽介
11	「標準ディサースリア検査演習②」 標準ディサースリア検査の実践を正しく理解できる。	「標準ディサースリア検査演習②」 標準ディサースリア検査の実践を正しく説明できる。	天白 陽介
12	「その他の構音検査」 標準失語症検査補助テストについて理解できる。	「その他の構音検査」 標準失語症検査補助テストの実際に関して正しく説明することができる。	天白 陽介
13	「検査結果のまとめ方」 検査結果からタイプ分類を行い、問題点の抽出に関して理解できる	「検査結果のまとめ方」 検査結果からのタイプ分類、問題点の抽出に関して正しく説明することができる。	天白 陽介
14	「音声サンプル評価演習」 ディサースリアの発話サンプルを聴き、タイプごとの発話特徴に関	「音声サンプル評価演習」 ディサースリアの発話サンプルを聴き、タイプごとの発話特徴について正しく説明することが	天白 陽介

	して理解する。	できる。	
15	「まとめと科目試験」 まとめと科目試験でディサースリアの概要を理解する。	「まとめと科目試験」 科目試験を解くことができる。	天白 陽介
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とします。 ・最終講義にて筆記試験(100 点)を行い、60 点以上を合格とします。 		
準備学習/事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：教科書の該当箇所に目を通しておくとう理解がしやすいです。該当箇所は前回の授業後に指示します。 ・事後学習：授業の最初に復習の時間を設ける。授業後には当日学んだ内容に関して復習し、理解の定着を図ることが望ましいです。 		
関連科目	「構音障害Ⅰ」・「音声障害」→「構音障害Ⅱ」		
その他（履修者へのアドバイス等）	ディサースリアへの理解が深まることで嚙下障害の理解を深めることになります。音声サンプルを用いて授業を行います。授業中には積極的な質問や発言を求めます。		

学科・年次	言語聴覚科・1年次	開講期間	通年
科目名	構音障害Ⅱ(運動障害性総合・演習)		
担当者	天白陽介		
単位数(時間数)	1単位(30時間)	履修方法	講義・演習(一部)
教科書・参考書	ディサースリアの基礎と臨床 第3巻 西尾正輝著 インテルナ出版		

授業概要
<p>言語聴覚士が対象とする分野の一つであるディサースリアにおける障害構造ごとの治療方法を理解する。また、リスク管理を適切に行った上で適切な治療プランを立案し、事例報告書を作成する。講義に加えて演習を実施することで、その実際を理解することができる。</p> <p>なお、言語聴覚士として病院などで臨床経験を有するものが授業を担当する。</p>
授業の目的(意義)
<p>本科目はディサースリアの基礎となる「構音障害Ⅰ」で学んだ知識を活かし、「障害構造ごとの治療方法を理解し」、「適切なリスク管理を行った上で治療プログラムを立案し」、「事例報告書を作成する」ことを目的とする。この科目を修了することで、言語聴覚士領域の一つであるディサースリアに対する実践力を身につける。</p>
関連する学科のDP
<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験に合格できる知識を身につけている。 ・言語聴覚士としての専門的な知識をもち、根拠に基づいた言語聴覚療法を実践できる。 ・正確な評価技術を身につけ、効果的なリハビリテーションを実践する。 ・信頼される医療従事者としてのコミュニケーションスキルを身につけている。 ・専門家としての自覚をもち、常に学び続ける意識を持つ。 ・相互理解を深め、チーム医療の一員として多職種連携に貢献する。

回 (コマ)	「授業項目」(単元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	「訓練の実際」 ディサースリア訓練の実際及びリスク管理に関して理解できる。	「訓練の実際」 ディサースリア訓練の実際及びリスク管理に関して正しく説明することができる。	天白 陽介
2	「呼吸機能①」(基礎) 呼吸器についての解剖、生理を復習し、訓練の内容を理解できる。	「呼吸機能①」(基礎) 呼吸器についての解剖、生理を復習し、訓練の内容について概要を正しく説明することができる。	天白 陽介
3	「呼吸機能②」(訓練) 呼吸機能への訓練法に関して実践し、その実際を理解することがで	「呼吸機能②」(訓練) 呼吸機能への訓練法に関して、実践を行うことでその理論や目的に関して正しく説明すること	天白 陽介

	きる。また、呼吸ケアに関しても実践を交えて解説を行う。	ができる。	
4	「発声機能①」(基礎) 発声機能の訓練法に関して解説し、その実際を理解する。	「発声機能①」(基礎) 発声機能の訓練の内容に関して概要を正しく説明することができる。	天白 陽介
5	「発声機能②」(訓練) 発声機能の訓練方法を実践し、その実際を理解することができる。	「発声機能②」(訓練) 発声機能の訓練方法に関して実践することで、その実際を正しく説明することができる。	天白 陽介
6	「顔面の機能①」(基礎) 顔面の機能に関する訓練法に関して解説し、その実際を理解する。	「顔面の機能①」(基礎) 顔面の機能に関する訓練の内容に関して概要を正しく説明することができる。	天白 陽介
7	「顔面の機能②」(訓練) 顔面の機能に関する訓練方法を実践し、その実際を理解することができる。	「顔面の機能②」(訓練) 顔面の機能に関して実践することで、その実際を正しく説明することができる。	天白 陽介
8	「舌の機能①」(基礎) 舌の機能に関する訓練法に関して解説し、その実際を理解する	「舌の機能①」(基礎) 舌の機能に関する訓練の内容に関して概要を正しく説明することができる。	天白 陽介
9	「舌の機能②」(訓練) 舌の機能に関する訓練方法を実践し、その実際を理解することができる。	「舌の機能②」(訓練) 舌の機能に関して実践することで、その実際を正しく説明することができる。	天白 陽介
10	「鼻咽腔閉鎖機能」(基礎・訓練) 鼻咽腔閉鎖機能に関する訓練方法に関して解説し、実践することでその実際を理解する。	「鼻咽腔閉鎖機能」(基礎・訓練) 瓶空閉鎖機能に関する訓練方法に関して概要及びその実際を正しく理解することができる。	天白 陽介
11	「拡大・代替コミュニケーション(AAC)について①」 AAC の実際について解説し、実際に作成、体験することで理解する。	「拡大・代替コミュニケーション(AAC)について①」 AAC の実際について解説し、実際に作成、体験することでその実際を正しく説明することができる	天白 陽介
12	「拡大・代替コミュニケーション(AAC)について②」 AAC の実際について解説し、実際に作成、体験することで理解する。	「拡大・代替コミュニケーション(AAC)について②」 AAC の実際について解説し、実際に作成、体験することでその実際を正しく説明することができる	天白 陽介

13	「症例報告①」 症例報告及びレポートを作成することができる。	「症例報告①」 実際の対象者の動画を供覧し、学生間で討議を行うことで問題点を抽出することができる。	天白 陽介
14	「症例報告②」 作成した症例報告に基づき、症例発表を行うことができる。	「症例報告②」 作成した症例報告に基づき発表を行い、学生同士で意見交換を実施することができる。	天白 陽介
15	「まとめと科目試験」 まとめと科目試験でディサースリアの訓練を理解する。	「まとめと科目試験」 科目試験を解くことができる。	天白 陽介
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とします。 ・最終講義にて筆記試験(100 点)を行い、60 点以上を合格とします。 		
準備学習/事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：教科書の該当箇所に通して目を通しておくことで理解がしやすいです。該当箇所は前回の授業後に指示します。 ・事後学習：授業の最初に復習の時間を設ける。授業後には当日学んだ内容に関して復習し、理解の定着を図ることが望ましいです。 		
関連科目	「構音障害 I」・「音声障害」の内容と大きく関連します。また、嚥下障害とも関連する部分があります。		
その他（履修者へのアドバイス等）	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に体を動かす場面が多くあります。動きやすい服装で参加してください。 ・授業中に必要な物品に関しては適宜指示します。 		

学科・年次	言語聴覚科・1年次	開講期間	通年
科目名	嚥下障害Ⅰ（基礎理論）		
担当者	百々 加奈子		
単位数（時間数）	1単位（30時間）	履修方法	講義・演習（一部）
教科書・参考書	「言語聴覚学講座 摂食嚥下障害学（医歯薬出版）」		

授業概要
<p>言語聴覚士の専門領域となる摂食嚥下分野の最初の科目として、解剖や摂食嚥下のメカニズムなどの基礎を理解する。また、摂食嚥下障害の原因や病態、評価方法（スクリーニングから嚥下造影検査・嚥下内視鏡検査等）や訓練方法（間接訓練から直接訓練まで）などの基礎を理解する。</p> <p>なお、言語聴覚士として急性期・維持期病院、訪問看護ステーションで臨床経験のあるものが講義を担当する。</p>
授業の目的（意義）
<p>本科目は、摂食嚥下分野の最初の科目である。「解剖学」「臨床神経学Ⅰ」で学んだ知識を活かし、「食べる仕組み」と「食べられなくなる仕組み」を理解することを目的とする。また、摂食嚥下障害の評価方法や訓練方法は多岐にわたる。これら多くの評価・訓練の意義や手技を整理し、修得していくことを目的とする。この科目を修めることで、摂食嚥下分野の基礎を身に付け、応用・演習となる「嚥下障害Ⅱ」「嚥下障害Ⅲ」へと繋げる。</p>
関連する学科のDP
<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験に合格できる知識を身に付けている ・言語聴覚士としての専門的な知識をもち、根拠に基づいた言語聴覚療法を実践できる ・正確な評価技術を身に付け、効果的なリハビリテーションを実践する ・専門家としての自覚をもち、常に学び続ける意識をもつ

回 (コマ)	「授業項目」(単元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	「摂食嚥下器官の解剖」 摂食嚥下器官（口腔，咽頭，喉頭， 食道）の解剖および神経機構について理解する。	「口腔・咽頭の解剖」 主に咀嚼や食塊形成において重要となる「舌筋群」「咀嚼筋群」「唾液腺」、鼻咽腔閉鎖において重要となる「咽頭筋群」の解剖および支配神経について説明できるようになる。	百々 加奈子
2		「喉頭・食道の解剖」 嚥下反射惹起における気道防御において重要となる「内喉頭筋」、喉頭挙上において重要となる「外喉頭筋」、食塊を胃へと送り込む「食道」の解剖および支配神経について説明できるようになる。	百々 加奈子

3	「嚥下動態と嚥下モデル」 健常者の摂食嚥下動作をもとに、摂食嚥下の「期」と「相」について理解する。また、摂食嚥下の5期モデルやプロセスモデルについて理解する。	「食塊移送と気道防御」 嚥下動態における「食塊移送」と「気道防御」を、それぞれの関連器官とその運動目的を整理し説明することができる。	百々 加奈子
4		「摂食嚥下モデル」 摂食嚥下にかかわる器官の協調運動によって、5期モデルやプロセスモデルが成立していることを説明できるようになる。	百々 加奈子
5	「摂食嚥下障害と誤嚥」 摂食嚥下障害の発生メカニズムを「食塊移送の障害」「食道期の障害」「気道防御の障害」に分けて整理し、理解する。また、誤嚥の定義と分類について理解する。	「摂食嚥下障害と誤嚥」 嚥下モデルを理解したうえで、それぞれの期で起こりうる障害について説明できるようになる。また、各モデルと誤嚥のタイプを結び付けられるようになる。	百々 加奈子
6	「摂食嚥下障害の合併症」 誤嚥性肺炎の原因と病態とを結びつける。併せて、誤嚥性肺炎のリスクとなる要因について理解する。また、加齢と摂食嚥下障害の関係についても理解する。	「誤嚥性肺炎の原因と病態」 誤嚥性肺炎のリスク要因が、嚥下動態へどのように影響し、嚥下モデルのどの期の障害となるのか推測することができるようになる。	百々 加奈子
7		「スクリーニング検査」 スクリーニング検査の目的や観察ポイントを正しく理解し、正しい手技で検査を行うことができる。また、スクリーニングを行う前の「情報収集」「問診」「観察」における摂食嚥下障害を疑うポイントについて挙げることができる。	百々 加奈子
8	「摂食嚥下障害の評価方法」 摂食嚥下障害を評価する際の「観察ポイント」「手技」について理解する。また、評価を行う前の身体所見の観察ポイントについても理解する。	「VFとVE①」 嚥下造影検査(VF)および嚥下内視鏡検査(VE)の目的と適応、実施方法について説明できるようになる。また、映像資料において正常例を観察し、1～2回講義で学んだ解剖と検査像とを結びつけることができるようになる。	百々 加奈子
9		「VFとVE②」 嚥下造影検査(VF)と嚥下内視鏡検査(VE)それぞれの長所と短所について比較し、説明することができる。また、映像資料において異常例を観察し、正常例と比較して問題点の抽出をすること	百々 加奈子

		ができるようになる。	
10		「その他の嚥下機能検査」 嚥下圧検査や筋電図検査の目的と適応について説明することができる。VF・VEと比較して、どのようなポイントに特化した検査なのか違いを説明できる。	百々 加奈子
11	「摂食嚥下障害のリハビリテーション」	「間接的嚥下訓練」 間接的嚥下訓練の目的と適応を理解し、正しい手技で実施できるようになる。	百々 加奈子
12	摂食嚥下訓練における間接訓練および直接訓練の「目的」「適応」「手技」の違いを理解する。	「直接的嚥下訓練」 直接的嚥下訓練の目的と適応を理解し、正しい手技で実施できるようになる。また、直接的嚥下訓練のリスク管理の重要性を理解し、説明することができるようになる。	百々 加奈子
13	「摂食嚥下障害の代償的アプローチ」 代償的に食形態を調整する際の目的や嚥下調整食の種類について理解する。また、誤嚥性肺炎を予防するアプローチについても理解する。	「代償的アプローチと環境改善的アプローチ」 嚥下調整食をつくることや水分にとろみをつけること、摂食時に姿勢調整をすることの目的や方法について説明できるようになる。また、とろみ水を正しい濃度と手順で作ることができるようになる。	百々 加奈子
14	経口摂取以外の代替的栄養手段について理解する。	「代替栄養手段」 摂食嚥下障害によって経口摂取が困難な場合の代替栄養手段について正しく理解し、説明することができるようになる。静脈栄養法と経腸栄養法の目的や適応の違いについて説明することができる。	百々 加奈子
15	「まとめと科目試験」 まとめと科目試験で、摂食嚥下障害の概要を理解する。	「まとめと科目試験」 科目試験の問題を解き、規定の点数をクリアすることができる。	百々 加奈子
成績評価方法	<p>最終講義にて筆記試験（100点）を行い、60点以上を合格とする。</p> <p>筆記試験は、選択式および記述式（穴埋め・論述による説明）による回答で行う。論述による説明は減点方式により採点し、誤字や脱字・必要な語が含まれていない・要点を押さえていない場合に減点とする。</p> <p>講義の2/3以上の出席をもって科目試験の受験を可能とする。</p>		

準備学習/事後学習	<p>準備学習：「解剖学」の「摂食嚥下にかかわる器官」の資料を見直しておくこと。</p> <p>事後学習：「嚥下障害Ⅱ」に向けて、嚥下機能評価と訓練法の整理をしておくこと。</p>
関連科目	「解剖学」「臨床神経学」⇒「 嚥下障害Ⅰ 」⇒「嚥下障害Ⅱ・Ⅲ」「臨床実習Ⅰ・Ⅱ」
その他（履修者へのアドバイス等）	<p>本科目は、摂食嚥下分野の入門編となります。基礎知識となる解剖や摂食嚥下のメカニズムを理解することが重要となります。わからない点があれば積極的に質問に来てください。</p>

学科・年次	言語聴覚科 1 学年	
科目名	吃音	
担当者	廣 嶋 忍	
単位数 (時間数)	1 単位 (15 時間)	
学習方法	講義	
教科書・参考書	教科書 子どもがどもっていると感じたら 廣嶋忍・堀彰人、大月書店	参考書 発声発語障害学 第2版 熊倉勇美、今井智子編集、医学書院

授業概要と目的
<p>授業概要</p> <p>吃音の原因や特性、吃音臨床に必要な評価・指導法について講義する。吃音者の心理について、当事者の作文等を利用して解説する。</p> <p>授業目的</p> <p>吃音の原因や特性について十分に理解し、吃音のライフステージに合わせた評価および支援の方法を立案・実施できるようになる。臨床経験のある非常勤講師がその経験を活かし授業を行う。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	「吃音の特徴について」 吃音の症状について理解する。	「吃音のタイプと発吃」 吃音の言語症状を説明できる。 発吃の時期と幼児期の吃音の特徴を説明できる。	廣嶋忍
2	通年	「吃音の進展について」 吃音は問題が変化することを理解する。	「Van Riper の吃音の進展段階」 Van Riper の吃音の進展段階が説明できる。進展段階の問題点が解説できる。	廣嶋忍
3	通年	「吃音の原因論について」 吃音の原因論について、学習論の内容を理解する。	「診断起因説」 ジョンソンの診断起因説を説明できる。 診断起因説の功罪を説明できる。	廣嶋忍
4	通年	「吃音の原因論について」 吃音の原因論について、器質論を理解する。	「吃音者の脳と遺伝」 脳機能の計測方法や遺伝の研究方法が説明でき、吃音者の脳や遺伝の特徴が説明できる。	廣嶋忍

5	通年	「吃音の評価について」 吃音の評価方法について理解する。	「吃音の包括的評価」 吃音の包括的評価の重要性を説明し、方法を例示できる。	廣 嵩 忍
6	通年	「吃音の検査について」 吃音検査法の概要を理解する。	「吃音検査法」 吃音検査法の検査項目を説明し、実施方法を解説できる。	廣 嵩 忍
7	通年	「吃音の言語訓練について」 吃音の言語訓練の方法を理解する。	「流暢性促進法と吃音修正法」 流暢性促進法と吃音修正法のそれぞれについて、方法および問題点を説明できる。	廣 嵩 忍
8	通年	「吃音の心理的支援について」 吃音の心理療法や自助グループの役割を理解する。 「まとめ・科目試験」 各回の講義内容を理解する	「認知行動療法とセルフヘルプグループ」 吃音の認知行動療法が説明できる。 吃音者のセルフヘルプグループによる支援の利点を説明できる。 「まとめ・科目試験」 科目試験の問題を解くことができる	廣 嵩 忍
成績評価方法		100点満点の学科試験により評価する。○×方式、語句の穴埋め、記述式の問題を出題する。○×方式 30点、語句の穴埋め 20点、記述式 50点の配点とする。記述式は、必要な語句が含まれない場合に減点する方式で採点する。予習プリントの実施程度をチェックし、予習を行っていない場合は、最終成績評価より 10点減点する。ただし、予習による最終成績評価への加点は行わない。		
準備学習など		事前に配布されたプリントを、授業前に予習する。		
留意事項		特になし		

学科・年次	言語聴覚科・1学年
科目名	聴覚障害Ⅰ（小児）
担当者	長嶋 比奈美
単位数（時間数）	1単位（30時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	「改訂 聴覚障害Ⅰ基礎編」「改訂 聴覚障害Ⅱ臨床編」 山田弘幸編著 建帛社

授業概要と目的
<p>小児聴覚障害の診断とリハビリテーションに必要な基礎知識を知り、臨床活動の概要を学ぶ。</p> <p>なお、言語聴覚士として、病院等で臨床経験のあるものが、その経験を活かし講義を行う。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	通年	「聴覚障害の基礎知識」 聴覚器官の概要を知る 聴覚器官各部の機能を知る	「聴覚器官の構造・機能とその障害」 外耳、中耳、内耳、聴覚伝導路の構造と、 それぞれの果たす機能を説明できる。	長嶋 比奈美
2	通年	「聴覚障害の種類と性質」 障害部位によって異なる聴覚障害の 区分と性質を学ぶ	「障害部位による種別と特性」 伝音難聴、感音難聴、後迷路性難聴などの 特性が説明できる。 代表的疾患を分類できる。	長嶋 比奈美
3	通年	「聴覚障害の影響」 難聴の程度や聴力型によって異なる 障害の影響について学ぶ	「難聴の程度・聴力型とその影響」 代表的聴力型の種類と特徴が説明できる。 平均聴力と難聴の程度分類を説明できる。 日常生活や言語発達への影響が分かる。	長嶋 比奈美
4	通年	「乳幼児の聴覚評価」 聴性行動発達の概要を知る 各種乳幼児聴力検査について学ぶ	「乳幼児聴覚検査法と聴覚評価」 乳幼児の行動的聴力検査の基礎となる聴性 行動発達の概要が説明できる。 各種検査の装置、方法、適用年齢等が説明 できる。	長嶋 比奈美
5	通年	「乳幼児聴力検査法」 各種乳幼児聴力検査の実施法を学ぶ	「行動的聴力検査の実際」 BOA、VRA、COR、ピープショウテス	長嶋 比奈美

			ト、遊戯聴力検査が実施できる。	
6	通年	「他覚的聴力検査Ⅰ」 聴性脳幹反応検査の方法と聴力の推定について学ぶ	「聴性誘発反応と聴性脳幹反応検査」 聴性脳幹反応の原理と特徴を説明できる。 検査の実施法と推定聴力の算出について説明できる。	長嶋 比奈美
7	通年	「他覚的聴力検査Ⅱ」 ASSR、OAE 検査の方法と診断上の意義について学ぶ	「聴性定常反応(ASSR)と耳音響放射(OAE)」 検査の原理と方法を説明できる。 検査結果を正しく解釈できる。	長嶋 比奈美
8	通年	「聴覚障害児の早期発見」 早期発見の必要性について知る 聴覚スクリーニングについて学ぶ	「早期発見の必要性和スクリーニング」 難聴の発見が遅れることの影響を理解し、 聴覚スクリーニングの方法と現状について説明できる。	長嶋 比奈美
9	通年	「コミュニケーションメディア」 聴覚障害児者の用いる各種メディアを知る	「聴覚障害児者と各種メディア」 手話・指文字・キューサイン・音声言語・ 文字(筆談)等の概要と特性について説明できる。	長嶋 比奈美
10	通年	「教育方法」 各種教育方法の基本的思想と方法、 特徴について学ぶ	「聴覚障害児教育の各種方法論」 音声言語を中心とする各方法、手指メディア を用いる各方法の概要と特徴について説明 できる。	長嶋 比奈美
11	通年	「補聴手段」 聴覚障害児の指導を理解する上で必要 な補聴器と人工内耳の効果と特性を 理解する	「補聴器と人工内耳の適用範囲と特性」 補聴器や人工内耳はどのような場合に有効 であり、どのような効果が期待できるかに ついて説明できる。	長嶋 比奈美
12	通年	「聴覚障害児の指導機関」 各種指導機関について知る 「福祉サービスの基礎」 聴覚障害乳幼児に關与する福祉サー ビスの概要を知る	「聴覚障害児訓練指導機関の種類と特徴」 訓練指導に關する聾学校、通園施設、クリ ニック方式の指導形態と特徴を説明できる。 「身体障害者手帳と福祉サービス」 身体障害者手帳の判定基準を理解し、該 当を判断できる。 手帳に基づく福祉サービスの概要を説明 できる。	長嶋 比奈美

13	通年	「訓練指導の枠組み」 聴覚障害児の臨床活動について実施すべき活動を知る	「訓練指導を構成する要素と時期」 難聴診断後に各時期に応じて展開される訓練指導の各要素の概要を把握できる。	長嶋 比奈美
14	通年	「評価」 聴覚障害による言語発達、構音発達、その他の必要な評価方法を知る	「各種検査法と限界・行動観察」 発達・知能検査、言語検査で得られる情報と限界について説明できる。 行動観察によって評価すべき観点を挙げられる。	長嶋 比奈美
15	通年	まとめ・科目試験」	「全体の総括と科目試験」	長嶋 比奈美
成績評価方法		科目試験（100%）		
準備学習など				
留意事項				

学科・年次	言語聴覚科 1年	開講期間	後期
科目名	聴覚障害Ⅱ（各論・小児演習）		
担当者	諸橋麻衣子		
単位数（時間数）	2単位（46時間）	履修方法	講義・演習
教科書・参考書	「クリア言語聴覚療法 10 聴覚障害」編著：佐藤紀代子・長谷川純 建帛社		

授業概要
<p>聴覚障害児の臨床の全体像を知り、実際の評価、指導について学ぶとともに、必要な技能を身につける。</p> <p>コミュニケーションの基本態度を知って、実践できるようになる。</p> <p>言語聴覚士として臨床経験のあるものが、講義を担当する。</p>
授業の目的（意義）
<p>小児聴覚障害の各論を学ぶ。聴覚障害児とのコミュニケーションの仕方、言語聴覚士の役割となる聴覚障害児の検査や各種評価、結果を踏まえた訓練計画立案、訓練の手技について実際の体験も交えながら学んでいくことを目的とする。</p>
関連する学科のDP
<p>①国家試験に合格できる知識を身に着けている</p> <p>②言語聴覚士としての専門的な知識をもち、根拠に基づいた言語聴覚療法を実践できる</p> <p>③正確な評価技術を身に着け、効果的なりハビリテーションを実践する</p> <p>④信頼される医療従事者としてのコミュニケーションスキルを身に着ける</p> <p>⑤専門家としての自覚をもち、常に学び続ける意識をもつ</p> <p>⑥相互理解を深め、チーム医療の一員として多職種連携に貢献する</p>

回 (コマ)	「授業項目」(単元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	「聴覚障害とは1」 聴覚障害の疑似体験をする。	「疑似難聴体験1」 聴覚障害児の置かれた状況を疑似体験し、学生自身が感じたことを基に難聴の障害像が考えられる。	諸橋麻衣子
2	「聴覚障害とは2」 聴覚障害の疑似体験をする。	「疑似難聴体験2」 聴覚障害児の置かれた状況を疑似体験し、学生自身が感じたことを基に難聴の障害像、伝わりやすい関わり方が考えられる。	諸橋麻衣子
3	「小児聴覚障害概論1」 聴覚障害の発達における影響、早期発見、早期介入について学ぶ。	「小児聴覚障害と発達」 聴覚障害が子どもの発達に及ぼす影響が理解できる。	諸橋麻衣子

		「小児聴覚障害と社会、リハビリテーション」 聴覚障害の早期発見、早期介入の意義、聴覚障害児を取り巻く、現在の日本の体制を理解し、説明できる。	
4	「小児聴覚障害概論2」 小児聴覚障害とその障害特性について学ぶ。	「小児聴覚障害と障害特性」 小児聴覚障害の種類、原因、程度、発症時期等と障害特性の関係について理解できる。	諸橋麻衣子
5	「新生児聴覚スクリーニングと乳幼児健診」 聴覚障害の発見を支える健診制度について学ぶ。	「新生児聴覚スクリーニングと乳幼児健診」 新生児聴覚スクリーニングの目的、手法、新スク後の支援の流れ、健診制度について理解できる。	諸橋麻衣子
6	「小児聴覚障害の評価1」 情報収集の概要、手法および小児聴覚障害を評価する視点を学ぶ。	「情報収集」 養育者から聴取する内容や情報収集における態度や手法について、ロールプレイ形式で実践できる。 「小児聴覚障害の評価の視点」 子どもの現症をとらえて評価をするための土台となる視点を理解できる。	諸橋麻衣子
7	「小児聴覚障害の評価2」 聴覚障害児の聴覚評価、コミュニケーション評価について学ぶ。	「聴覚評価」 聴覚機能の評価、診断の目的、検査の選択、解釈の仕方、乳幼児に実施する上での留意点が理解できる。 「コミュニケーション評価」 乳幼児期、学童期それぞれのコミュニケーション評価について理解できる。	諸橋麻衣子
8	「小児聴覚障害の評価3」 聴覚障害児の言語発達評価、発声発語評価について学ぶ。	「言語発達評価」 語彙、構文、会話、談話、それぞれの発達を踏まえた評価の視点が理解できる。 「発声発語評価」 聴覚障害による音韻および韻律への影響とその評価方法について理解できる。	諸橋麻衣子
9	「小児聴覚障害の評価4」 聴覚障害児の認知発達評価、情緒や社会性の評価について学ぶ。	「認知発達評価」 認知や知能の評価の概要と聴覚障害児に適用する場合の留意点を理解できる。 「行動・情緒・社会性の評価」 情緒や社会性の評価の概要が理解できる。	諸橋麻衣子

10	「評価結果まとめ」 評価の結果をまとめ、訓練計画につなげる一連の流れを学ぶ。	「評価結果の統合と解釈」 評価の結果を解釈し、その結果に基づいた訓練計画、訓練課題が設定できる。	諸橋麻衣子
11	「小児聴覚障害の指導・支援 1」 聴覚障害者のコミュニケーションモードについて学ぶ。	「コミュニケーションモード」 聴覚障害者のコミュニケーションモードがわかり、それぞれの違いを説明できる。	諸橋麻衣子
12	「小児聴覚障害の指導・支援 2」 聴覚補償機器の適応も含めた、聴覚活用について学ぶ。	「聴覚活用 1 言語ベースの聴覚学習」 言語ベースの聴覚学習について学び、模擬ケースを通して具体的に実践できる。	諸橋麻衣子
13	「小児聴覚障害の指導・支援 3」 聴覚活用について学ぶ。	「聴覚活用 2 構成的聴覚学習」 構成的聴覚学習について学び、模擬ケースを通して具体的に実践できる。	諸橋麻衣子
14	「小児聴覚障害の指導・支援 4」 聴覚障害児の評価の結果から訓練計画を立案する。	「リハビリテーション計画立案」 評価の結果と解釈の仕方、結果に基づいた訓練計画を立案できる。	諸橋麻衣子
15	「小児聴覚障害の指導・支援 5」 コミュニケーション指導について、学ぶ。	「コミュニケーション指導」 乳幼児に対するコミュニケーション指導の方法やコミュニケーションを意図した遊び方が理解でき、デモンストレーションできる。	諸橋麻衣子
16	「小児聴覚障害の指導・支援 6」 乳児期の指導について学ぶ。	「乳児期の指導」 乳児期の指導について、この時期の特徴と各側面における指導の目的と概要が理解できる。	諸橋麻衣子
17	「小児聴覚障害の指導・支援 7」 幼児期前期の指導について学ぶ。	「幼児前期の指導」 幼児前期の指導について、この時期の特徴と各側面における指導の目的と概要が理解できる。	諸橋麻衣子
18	「小児聴覚障害の指導・支援 8」 幼児期後期の指導について学ぶ。	「幼児後期の指導」 幼児期後期の指導について、この時期の特徴と各側面における指導の目的と概要が理解できる	諸橋麻衣子
19	「小児聴覚障害の指導・支援 9」 学童期の指導について学ぶ。	「学童期の指導」 学童期の指導について、この時期の特徴と各側面における指導の目的と概要が理解できる	諸橋麻衣子
20	「聴覚障害児の教育」 聴覚障害児の教育上の支援について学ぶ。	「学校教育における聴覚障害児の支援」 環境支援、学習支援等、学校生活支援を想定し演習形式で実践する。	諸橋麻衣子
21	「重複障害の評価と支援」 聴覚重複障害について学ぶ。	「重複障害の評価と支援」 重複障害の実態と言語聴覚士による評価と支援	諸橋麻衣子

		について理解できる。	
22	「特殊な聴覚障害」 聴覚情報処理障害、一側性難聴など について学ぶ。	「特殊な聴覚障害」 聴覚情報処理障害、一側性難聴の概要と支援の実 態について理解できる。	諸橋麻衣子
23	「まとめ・科目試験」	「全体のまとめと科目試験」	諸橋麻衣子
成績評価方法	授業中に行う体験やワーク、提出物と科目試験で総合的に評価。		
準備学習/事後学習	耳鼻咽喉科学（耳科学部分）や聴覚系医学、聴覚障害Ⅰの内容を復習しておくこと、本講義の内容が理解しやすいです。		
関連科目	『耳鼻咽喉科学』『聴覚系医学』『聴覚障害Ⅰ』『言語発達障害Ⅰ』『言語発達障害診断学Ⅰ』『言語発達学』		
その他（履修者へのアドバイス等）	聴覚障害とともに、小児の発達、ことばの発達の知識が総合的に必要になります。それぞれの科目をきちんと理解した上で授業に臨みましょう。		

学科・年次	言語聴覚科・1学年
科目名	視覚・聴覚二重障害
担当者	今井 瑞季
単位数（時間数）	1単位（15時間）
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	「改訂 聴覚障害Ⅱ臨床編」 山田弘幸編著 建帛社

授業概要と目的
<p>視覚・聴覚二重障害（盲ろう）者の現状と課題を理解する。視覚・聴覚二重障害者は、視覚障害、聴覚障害の程度、障害を受けた時期、および障害を受けた順序などによって多様なコミュニケーション手段を使用する。特に、コミュニケーション手段の種類について理解してほしい。なお、盲ろう体験も行い、コミュニケーションの難しさを実感する疑似体験を行う。なお、言語聴覚士として、病院等で臨床経験のあるものが、その経験を活かし講義を行う。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「視覚障害」 視覚の基礎知識を学ぶ 視覚障害疾患の概要を知る	「視覚の基礎知識と疾患」 視覚の仕組みと特性を説明できる。 視覚障害を起こす代表的疾患、特に二重障害に関連しやすい疾患について病名や病態について説明できる。	今井 瑞季
2	後期	「視覚障害の理解と生活」 視力障害と視野障害の影響を知る 視覚障害者の補助機器について知る	「視覚障害児者の不自由とコミュニケーション」 視力障害や視野障害の影響を体験的に理解できる。 視覚障害者が用いる補装具、補助機器とコミュニケーション方法を説明できる。	今井 瑞季
3	後期	「視覚聴覚二重障害を知る」 視覚聴覚二重障害者の置かれる状況を知る 視覚聴覚二重障害者の分類を学ぶ	「視覚聴覚二重障害の現状と多様性」 視覚聴覚二重障害者の置かれる状況について体験的に理解できる。 発症時期や障害の程度によって分類される二重障害者の分類と性質の違いを説明できる。	今井 瑞季
4	後期	「コミュニケーション手段」 視覚聴覚二重障害者が用いるコミュニケーション手段の概要と	「各種コミュニケーション手段の概要」 コミュニケーション手段の概要と使用方法、適用される対象について説明できる。	今井 瑞季

		方法を知る		
5	後期	「介助・通訳の方法」 視覚聴覚二重障害者に対する移動介助・通訳の方法について知る	「移動介助・通訳の原則と具体的方法」 二重障害者に対する移動介助・通訳を行う場合の方法や基本的原則、注意点を挙げられる。	今井 瑞季
6	後期	「介助・通訳体験」 通訳・移動介助の経験を通してその方法を知る 介助を受ける二重障害者の体験を通してその困難と介助の必要性を知る	「通訳・介助を行う体験、受ける体験」 実際の体験によって、通訳・介助の基本的原則や注意点の意味を理解し、その理由まで説明できる。 盲ろう者の困難を理解し、必要な配慮について考察できる。	今井 瑞季
7	後期	「先天性盲ろう児への対応」 先天性盲ろう児の行動特性を知る 先天性盲ろう児への対応の原則と方法を学ぶ	「先天性盲ろう児の特性と介入」 先天性盲ろう児の行動上の特性について理解し、その対応法について説明できる。 コミュニケーション指導とその方法、言語の導入とその方法について説明できる。	今井 瑞季
8	後期	まとめ・科目試験」	「全体の総括と科目試験」	今井 瑞季
成績評価方法		科目試験（100%）		
準備学習など				
留意事項				

学科・年次	言語聴覚科・1 学年
科目名	聴力検査（理論・演習）
担当者	福本和華子
単位数（時間数）	1 単位（30 時間）
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	教科書：日本聴覚医学会編 聴覚検査の実際改訂 4 版 南山堂 参考書：服部浩著 図解 実用的マスキングの手引き 第 4 版 中山書店

授業概要と目的
聴力検査法の原理と実施法を習得する。 なお、言語聴覚士として、病院等で臨床経験のあるものが、その経験を活かし講義を行う

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「聴覚検査の基礎」 聴覚検査を行うために必要な音の基礎知識を学ぶ 検査に対する心構えを理解する	「音の基礎知識と単位」 音とは何か、音の分類を説明できる。 音の 3 要素に関連する物理的要因と単位・表示について説明できる。 「聴覚検査の心構え」 正しい検査を行うことの必要性和責任を自覚し、そのための心構えを述べられる。	福本和華子
2	前期	「オーディオメータ」 オーディオメータの操作と性能維持に必要な手順、注意点について学ぶ	「オーディオメータの構造と操作」 オーディオメータ各部の名称と働き、正しい操作法を説明できる。 オーディオメータで安全に正しく検査するための注意点について説明できる。 「オーディオメータの保守点検」 検査精度を維持するための保守・点検方法について説明できる。	福本和華子
3	前期	「標準純音聴力検査」 標準純音聴力検査の方法を知る オーディオグラムの記載法を知る	「気導聴力検査、骨導聴力検査の方法」 標準純音聴力検査の実施法を説明できる。 検査結果のオーディオグラムへの記載方法を説明できる。	福本和華子
4	前期	「標準純音聴力検査演習」 標準純音聴力検査の実施法を学	「気導聴力検査、骨導聴力検査の実際」 標準純音聴力検査がマニュアルを見ながら	福本和華子

		ぶ	実施できる。	
5	前期	「標準純音聴力検査演習」 標準純音聴力検査の実施法に習熟する	「気導聴力検査、骨導聴力検査の実際」 標準純音聴力検査の実施がマニュアルを見ずスムーズに実施できる。 結果を正しくオーゾグラムに記載できる。	福本和華子
6	前期	「マスキングの基礎」 マスキングの理解に必要な基礎的知識を学ぶ 基本的用語を理解する	「マスキングの必要性と原理」 マスキングの必要な理由を説明できる。 両耳間移行減衰量と交叉聴取が起こる条件を説明できる。 実効マスキングレベルとマスキングの実効レベルの意味を説明し、マスキング効果を算出できる。	福本和華子
7	前期	「マスキングの原則」 マスキング量が増加するに従って生じる反応閾値の変化、左右聴力との関係を理解する マスキングの必要性判断と正しいマスキング量について学ぶ	「マスキング量の変化と反応変化」 マスキングの不足、プラトー、オーバーマスキングが起こる条件について説明できる。 「マスキングの要否判断と正誤判断」 様々な条件でマスキングが必要であるかと特定のマスキングレベルが適切であるかを判断できる。	福本和華子
8	前期	「マスキングの実際」 初歩的マスキング法、プラトー法によるマスキング法、ABCマスキング法について学ぶ。	「実践的マスキングの理解と選択」 各マスキング法の利点、欠点を知り、適切なマスキング法を選択して実施できる。	福本和華子
9	前期	「語音聴力検査」 語音聴力検査の種類、検査の意義、音源の種類と内容を知る 検査の実施法と実施上の注意点について学ぶ	「語音聴力検査の基本と実施法」 語音聴力検査の種類と検査の意義について説明できる。 使用する語表の種類と内容を説明できる。 実際に検査を行う準備、実施法、注意点について説明できる。	福本和華子
10	前期	「インピーダンスオーゾメトリー」 ティンパノメトリーの原理と実施法を学ぶ 音響性耳小骨筋反射の原理と実施法、結果の解釈について学ぶ	「インピーダンスオーゾメトリーの基本と実施法」 ティンパノメトリーと音響性耳小骨筋反射検査の原理と結果の解釈、臨床的意義について説明できる。 両検査の実施に必要な検査方法に関する知	福本和華子

			識を説明できる。	
11	前期	「内耳機能検査」 各種内耳機能検査の原理、適応、実施法について学ぶ 「自記オーディオメトリー」 自記オーディオメトリーの原理と特徴、実施法と結果の解釈を知る	「内耳機能検査の基本と実施法」 ABLB,SISI,DL,MCL,UCL 検査の原理と対象、実施法、結果の解釈を説明できる。 「自記オーディオメトリーの基本と実施法」 自記オーディオメータの構造を説明できる。 自記オーディオメトリーの実施法を説明できる。 Jerger 分類の方法とその臨床的域を説明できる。	福本和華子
12	前期	「その他の検査」 詐聴検査、選別検査、耳管機能検査の概要を知る 「平衡機能検査」 平衡機能検査の概要を知る	「詐聴検査・選別検査・耳管機能検査」 詐聴検査、耳管機能検査の種類を挙げられる。 詐聴検査、耳管機能検査の原理について説明できる。 「平衡機能検査の概要」 平衡機能検査の種類と検査法の概要を説明できる。	福本和華子
13	前期	「各種検査演習 1」 標準純音検査以外の主な聴覚検査を体験する	「各種検査の実際」 ティンパノメトリー、内耳機能検査、語音聴力検査、自記オーディオメトリーが実施できる。	福本和華子
14	前期	「各種検査演習 2」 標準純音検査以外の主な聴覚検査を体験する	「各種検査の実際」 ティンパノメトリー、内耳機能検査、語音聴力検査、自記オーディオメトリーが実施できる。	福本和華子
15	前期	まとめ・科目試験	「全体の総括と科目試験」	福本和華子
成績評価方法		科目試験（100%）		
準備学習など				
留意事項				

学科・年次	言語聴覚科・1学年
科目名	補聴器（理論・演習）
担当者	福本和華子
単位数（時間数）	1単位（30時間）
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	教科書 クリア言語聴覚療法 10 聴覚障害

<p>授業概要と目的</p> <p>補聴器の構造と機能、種類、調整法の実際等、補聴器フィッティングに必要な基礎知識と実際のフィッティング方法、評価法について学習する。</p> <p>なお、言語聴覚士として、病院等で臨床経験のあるものが、その経験を活かし講義を行う</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	「補聴器の種類」 補聴器の種類と各タイプの特徴について学ぶ	「補聴器各タイプの特徴」 補聴器の各タイプの区別と違い、用途、特徴を説明できる。	福本和華子
2	通年	「補聴器の構造と機能」 代表的なタイプの補聴器の構造と各部の名称を知る 補聴器を調整する各種機能の種類と働きを学ぶ	「補聴器各部の名称と調整機能」 補聴器各タイプの構成部分について、その名称と構造を述べるができる。 利得調整、音質調整、出力制限、コンプレッションの働きと用途、方式の種類と特徴について説明できる。	福本和華子
3	通年	「デジタル補聴器」 デジタル補聴器の種類と特徴について学ぶ 「補聴器特性の測定法」 主に JIS 規格に基づいた補聴器特性の測定法とその見方を学ぶ	「デジタル補聴器の特徴と機能」 デジタル補聴器の種類と調整法の違いについて説明できる。 デジタル補聴器の特殊機能を説明できる。 「特性測定装置による特性測定」 JIS 規格に基づいた補聴器特性測定の方法を説明できる。 補聴器特性測定結果から得られる情報の意味について説明できる。 JIS による測定の意味とそれ以外の測定の必要性を説明できる。	福本和華子

4	通年	「特性測定の実際」 実際の特性測定を体験して実際の測定法を知る。	「特性測定装置による測定デモ」 各種測定の方法と、その測定結果の意味について説明できる。	福本和華子
5	通年	「その他の特性測定」 特性測定装置によるデータの限界を知り、より実際の効果に近い測定法を学ぶ	「特性測定装置以外の測定法について」 マネキンを用いた測定、実耳測定の方法と利点について説明できる。 裸耳利得、装用利得、挿入利得、機能利得の測定法とそれぞれの関係について説明できる。	福本和華子
6	通年	「特性測定演習」 特性測定器を用いた補聴器特性試験の方法を知る。	「基本的な特性測定の実施について」 特性測定装置を用いて、最大音響利得、最大出力音圧、周波数レスポンスと音質調整の効果の測定が実施できる。	福本和華子
7	通年	「イヤモールドと採型」 イヤモールドの種類とそれぞれの違いについて学ぶ 耳型採型の方法を学ぶ	「イヤモールドの種類と特性」 各種イヤモールドの種類と性質、用途について説明できる。 「耳型採型の方法と実際」 耳型採型の方法と注意点について説明できる。	福本和華子
8	通年	「各部の変更と音響特性の変化」 音質調整以外の周波数レスポンス調整の方法とその効果について学ぶ	「イヤホン、イヤモールド、ダンパーと周波数レスポンスの変化」 代表的イヤホンと周波数レスポンスの特性について説明できる。 イヤモールドの形状の違い、ベントと音響特性について説明できる。 音響ダンパーの働きについて説明できる。	福本和華子
9	通年	「補聴器フィッティング」 基本的な補聴器フィッティングの方法を学ぶ	「補聴器フィッティングの方法論」 規定選択法と比較選択法を説明できる。 代表的なフィッティングルールの概要を説明できる。	福本和華子
10	通年	「フィッティングの実際1」 情報収集から補聴器の選択、調整、その後の対応の方法を学ぶ	「成人の補聴器フィッティング過程と装用指導」 補聴器フィッティング過程の概要について説明できる。 調整装置の調整法と注意点について説明できる。 装用段階と装用指導について説明できる。	福本和華子

11	通年	「フィッティングの実際2」 小児に対する補聴器フィッティングの特殊性と実際の方法、注意点、指導について学ぶ	「小児の補聴器フィッティング」 小児における補聴器フィッティング過程の概略と注意すべき点について説明できる。	福本和華子
12	通年	「デジタル補聴器の調整」 デジタル補聴器の調整を知る	「フィッティングソフトウェアの操作」 ソフトウェア上での操作ができる。	福本和華子
13	通年	「補聴器適合評価」 補聴器適合検査の指針(2010)に含まれる評価法の理論と方法を学ぶ	「補聴器適合検査の指針(2010)の理解」 補聴器適合検査の種類を挙げられる。 各評価法の実施法を説明できる。 各評価法の評価基準を述べられる。	福本和華子
14	通年	「補聴器装用の実際」 補聴器を使用する上で必要な補聴器の操作と取り扱い方、装用法について学ぶ 不具合がある場合の具体的な対応について学ぶ	「使用上の注意と工夫、トラブル対応」 補聴器装用の工夫と注意点を尋ねられた場合に答えられる。 補聴器の不具合の原因を推測できる。 装用者の訴えに応じた再調整ができる。	福本和華子
15	通年	まとめ・科目試験	「全体の総括と科目試験」	福本和華子
成績評価方法		科目試験（100%）		
準備学習など				
留意事項				

学科・年次	言語聴覚科・1学年
科目名	人工内耳
担当者	福本和華子
単位数(時間数)	1単位(15時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	教科書 言語聴覚療法臨床マニュアル/クリア言語聴覚療法 10 聴覚障害

授業概要と目的
人工内耳の原理、特性、適応判定、マッピング、リハビリテーション等について理解する。 なお、言語聴覚士として、病院等で臨床経験のあるものが、その経験を活かし講義を行う

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	後期	「人工内耳の構造と機能1」 人工内耳の基本的構造と機能を学ぶ	「各部分の名称と機能について」 体内部分各部の名称と機能を説明できる。 体外部分各部の名称と機能を説明できる。	福本和華子
2	後期	「人工内耳の構造と機能2」 刺激モードの違いとテレメトリー機能について学ぶ 「コード化法について」 各社のコード化法の原理と違いを知る	「刺激モードとテレメトリー機能」 単極刺激と双極刺激、コモングラウンドの違いについて説明できる。 テレメトリー機能の種類を挙げ、その機能について説明できる。 「各種コード化法の違いと特徴」 基本的なコード化法の原理と特徴的なコード化法について説明できる。	福本和華子
3	後期	「人工内耳適応基準」 成人と小児の人工内耳適用基準を学ぶ	「成人人工内耳適応基準(2017)」 「小児人工内耳適応基準(2014)」 成人および小児の人工内耳適用基準の概要が説明できる。	福本和華子
4	後期	「適応判定と手術」 適用判定のための検査と判定方法を学ぶ 手術法の概要を知る 手術施設、手術の費用、手術前後のスケジュールを知る	「人工内耳適応判定の実際」 適応判定に必要な検査とその他の検査の種類と得られる情報について説明できる。 手術法と解剖学的な注意点、術後の装置の状態について説明できる 手術施設の条件と現状を説明できる。	福本和華子

			一般的な手術前後のスケジュール、費用について説明できる。	
5	後期	「マッピングの基礎」 マッピングを行うために必要な知識を学ぶ	「マッピングを理解する」 T/C レベルの意味と電流量の制御、各種パラメータの内容と効果、T/C レベルと聞こえとの関係について説明できる。	福本和華子
6	後期	「マッピングの実際」 実際のマッピング手順を知る	「成人の音入れセッションの概要」 音入れのセッション各段階の実施、操作方法について説明できる。 「再マッピングの方法と調整法」 再マッピングにおける作業と聞こえの調整法について説明できる。	福本和華子
7	後期	「小児のマッピング」 小児に用いられる各種マッピング法を学ぶ 「リハビリテーション」 人工内耳のリハビリテーションの内容と方法を学ぶ	「小児の状況に合わせたマッピング法」 小児の発達の状況に合わせたマッピングの方法の概要を説明できる。 「成人と小児のリハビリテーション」 成人の評価、訓練について説明できる。 補助機器等の種類と用途を説明できる。 小児の訓練と補聴器との違いを説明できる。	福本和華子
8	後期	まとめ・科目試験	「全体の総括と科目試験」	福本和華子
成績評価方法		科目試験 (100%)		
準備学習など				
留意事項				

学科・年次	言語聴覚科 1年生	開講期間	前期 後期 通年
科目名	地域言語聴覚療法		
担当者	村瀬文康		
単位数（時間数）	2単位（30時間）	履修方法	講義
教科書・参考書	建帛社『地域言語聴覚療法』		

授業概要
<p>少子高齢化の進展と地域包括ケアの推進を背景として、2024年度より必修化された「地域言語聴覚療法学」の基礎を学ぶ。地域リハビリテーションの理念、関連する法制度、成人・小児の各ライフステージにおける言語聴覚士の役割、多職種連携および地域資源の活用について概観し、地域でその人らしい生活を支える視点を養う。なお、言語聴覚士として臨床経験のあるものが講義を担当する。</p>
授業の目的（意義）
<p>本授業は、言語聴覚士養成課程における地域実践の入門科目である。地域言語聴覚療法の定義と基本概念を理解し、医療・介護・福祉・教育に関わる制度の概要を把握するとともに、成人期および小児期の支援の実際を学ぶ。さらに、多職種協働とインフォーマル支援の意義を理解し、対象者の生活を地域で支えるための基礎的視点を修得する。</p>
関連する学科のDP
<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験に合格できる知識を身に付けている ・言語聴覚士としての専門的な知識をもち、根拠に基づいた言語聴覚療法を実践できる ・専門家としての自覚を持ち、常に学び続ける意識をもつ ・相互理解を深め、チーム医療の一員として多職種連携に貢献する

回 (コマ)	「授業項目」(単元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	地域言語聴覚療法の導入 少子高齢化の進展、地域包括ケアの推進、養成教育における位置づけを踏まえ、地域言語聴覚療法の基本概念を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化と地域支援の必要性を説明できる。 ・地域言語聴覚療法の定義と特徴を説明できる。 ・地域リハビリテーションの基本理念を概説できる。 	村瀬文康
2			
3	地域リハビリテーションと生活支援 対象者の生活機能を地域で支え	<ul style="list-style-type: none"> ・生活機能と参加を踏まえた支援の視点を説明できる。 ・地域における言語聴覚士の役割を列挙でき 	村瀬文康

4	る視点と、言語聴覚士の基本的役割を理解する。	る。 ・家族支援および地域資源活用の意義を説明できる。	
5	地域を支える制度① 医療保険・介護保険	・医療保険制度と介護保険制度の概要を説明できる。	村瀬文康
6	地域言語聴覚療法に関する主要制度の概要を理解する。	・通所・訪問・外来等のサービス形態を区別できる。 ・制度に応じた言語聴覚士の関わりを説明できる。	
7	地域を支える制度② 障害福祉・教育・子ども家庭支援	・障害福祉サービスの概要を説明できる。	村瀬文康
8	福祉・教育・インフォーマル支援を含む地域支援の広がり	・乳幼児健診、ことばの教室、通園施設等の支援を説明できる。	
9	理解する。	・当事者会や家族会などインフォーマル支援の意義を説明できる。	
10	成人領域における地域言語聴覚療法	・成人領域の主要対象を列挙できる。	村瀬文康
11	成人期の対象者に対する情報収集、評価、訓練・指導、多職種連携の基礎を理解する。	・地域生活を見据えた評価・訓練の視点を説明できる。 ・多職種連携と当事者支援の具体例を説明できる。	
12	小児領域における地域言語聴覚療法	・小児領域の主要対象と支援場面を列挙できる。	村瀬文康
13	小児期の発達段階に応じた支援と、保護者・教育機関との連携を理解する。	・発達段階に応じた評価・指導の視点を説明できる。 ・保護者支援および教育との連携の重要性を説明できる。	
14	多職種協働・地域資源活用・総括	・多職種協働における言語聴覚士の役割を説明できる。	村瀬文康
15	地域の特性を生かしながら最良の支援を考えるための基本姿勢を理解する。	・事例を通して活用可能な地域資源を挙げる ことができる。 ・地域言語聴覚療法の学びを踏まえ、自らの課題を述べる ことができる。	
成績評価方法	レポート提出 40%、小テスト 20%、授業内課題 20%、授業への参加態度 20%とし、総合的に評価する。		
準備学習/事後学習	準備学習として、各回に該当する教科書範囲を事前に読み、制度名や支援場面の用語を確認しておくこと。事後学習として、授業内容を整理し、各制度・支援場面における言語聴覚士の役割をノートにまとめること。		

関連科目	言語聴覚障害概論、生涯発達心理学、医学概論、社会保障制度
その他(履修者へのアドバイス等)	本授業では、制度の名称を暗記するだけでなく、対象者の生活の場を想像しながら「地域で支える」とは何かを考えることが重要である。ニュースや身近な地域資源にも関心を持ち、授業で学んだ内容と結び付けながら学習を進めること。

学科・年次	言語聴覚科 1年	
科目名	臨床実習 I	
担当者	実習指導者 ・ 百々加奈子 ・ 天白陽介	
単位数（時間数）	1 単位（40 時間）	
学習方法	見学実習	
教科書・参考書	教科書	参考書

授業概要と目的
<p>授業概要</p> <p>臨床現場で規定以上の経験年数を持つ言語聴覚士の指導の下、病院の言語聴覚士の役割や業務を学ぶ 患者様の症状を実際に観察する</p> <p>授業目的</p> <p>実務経験 5 年以上の臨床実習指導者の指導・監督のもとに言語聴覚士の役割や業務を知る。机上の知識と実際の症状を一致させ知識を定着させる。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
5 日間	後期	<p>「見学実習」</p> <p>医療機関や施設の社会的役割を知り、言語聴覚士の果たす役割について学ぶ</p> <p>チームアプローチの重要性を理解し、専門職として医師や関連スタッフとの連携、協調性について理解する</p> <p>言語聴覚療法やその周辺業務を見学し、言語聴覚障害・言語聴覚療法の全体像を理解する</p>	<p>医療機関や施設の社会的役割を説明できる</p> <p>言語聴覚士の職務を説明できる</p> <p>チームアプローチの重要性を理解したうえで、指導者の関連スタッフとのかかわり方を習得し、言語聴覚士の実習生として実習を行うことができる</p> <p>言語聴覚療法の全体像を理解し、説明することができる</p> <p>言語聴覚障害の主要な症状を説明できる</p>	<p>実習指導者</p> <p>百々 加奈子</p> <p>天白 陽介</p>
成績評価方法		指導者からの評価表を参考にし、出席・デイリーノート・実習態度などで評価する		
準備学習など		各科目の復習をしておくこと		
留意事項		特になし		

